

印西市学校適正配置等に関する市民アンケート調査
報告書

令和4年10月
印西市教育委員会

目 次

第1章 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査方法.....	1
3 回収状況.....	1
4 調査項目.....	1
5 集計分析.....	1
第2章 調査結果の総括.....	3
1 望ましい通学時間・通学方法について.....	3
2 学校の適正規模、適正配置等について.....	3
第3章 調査結果.....	5
1 あなた自身のことについて(属性).....	5
2 望ましい通学時間・通学方法について.....	7
3 学校の適正規模、適正配置等について.....	15
4 自由回答.....	36
参考資料.....	59

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、学校適正配置等に関する市民の意向（ニーズ）を把握し、第二次印西市学校適正規模・適正配置基本方針を策定するための参考資料とすることを目的に実施しました。

2 調査方法

調査地域	印西市全域
調査対象	印西市在住の満18歳以上の男女2,000人
対象者抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
配布・回収方法	郵送
調査期間	令和4年6月14日～7月4日

3 回収状況

発送数	2,000件
有効回収数	999件
有効回収率	49.95%

4 調査項目

- (1) あなた自身のことについて（属性）
- (2) 望ましい通学時間・通学方法について
- (3) 学校の適正規模、適正配置等について

5 集計分析

- (1) 単純集計（全体的傾向の把握）

問1～問21の各設問について、それぞれ単純に集計しました。

- (2) クロス集計（各属性による傾向の把握）

- ①問5～問10については、「居住地区（中学校区）別」、「子の有無別」による集計
- ②問11～問15については、「年齢別」、「居住地区（中学校区）別」、「子の有無別」による集計
- ③問16～問21については、「年齢別」、「居住地区（中学校区）別」、「居住期間別」、「子の有無別」による集計

- (3) 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。そのため、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で%を足し合わせて100%にならない場合があります。

- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため傾向をみるにとどめ、本文中では触れていない場合があります。

第2章 調査結果の総括

1 望ましい通学時間・通学方法について

(1) 小学校（問5～7）

- 小学校の片道の通学時間は、『30分以内（15分以内含む）』が8割台半ばと大多数を占め、居住地区別でみると、滝野、原山、西の原中学校区で「15分以内」の割合が高くなっています。また、小さい子供がいる人ほど通学時間が短いことが望ましいと考えています。
- 望ましい通学方法としては、「徒歩」が8割台半ば、「スクールバス」が約1割となっています。居住地区別でも、全ての地区で「徒歩」の割合が最も高いものの、本埜、印旛、印西中学校区では「スクールバス」の割合が高くなっています。
- 通学方法は「徒歩」が望ましいと答えた人は、学校までの通学距離が近いこと、子供の体力がつくことを理由として多くあげており、「スクールバス」が望ましいと答えた人は、通学路に危険な箇所があることや通学距離が遠いことを理由としてあげています。

(2) 中学校（問8～10）

- 中学校の片道の通学時間は、『30分以内（15分以内含む）』が6割台前半を占め、「45分以内」が約2割、「60分以内」が1割台前半となっています。居住地区別でみると滝野、原山中学校区で「15分以内」、本埜、小林中学校区で「45分以内」、印旛中学校区などで「60分以内」の割合が高くなっています。また、子供がいない人より子供がいる人の方が、通学時間が短いことが望ましいと考えています。
- 望ましい通学方法としては、「徒歩」が約6割、「自転車」が約3割、「スクールバス」や「公共交通機関」の割合は低くなっています。居住地区別でみると、原山、木刈、小林、滝野中学校区で「徒歩」、本埜、西の原、印旛、印西中学校区で「自転車」の割合が高く、印旛中学校区では「スクールバス」の割合も高くなっています。
- 通学方法は「徒歩」が望ましいと答えた人は、学校までの通学距離が近いこと、子供の体力がつくことを理由として多くあげており、「自転車」が望ましいと答えた人は通学距離が遠いことや家庭学習の時間を増やせること、「スクールバス」が望ましいと答えた人は、通学路に危険な箇所があることなどを理由としてあげています。

2 学校の適正規模、適正配置等について

(1) 小規模校について（問11～14）

- 小規模校について、今後望まれる対応として、『存続』が3割台半ば、『統合』が約6割となっています。年齢別でみると、30代以下で『存続』、40～50代で『統合』の割合がやや高く、居住地区別では、印旛、船穂、印西中学校区などで『存続』、木刈、小林、滝野中学校区などで『統合』の割合がやや高くなっています。また、中学校の子供がいる人で『統合』の割合が高くなっています。
- 小規模校の『存続』が望ましいと思う理由は、「学校は、地域と深く結びつき、地域活動の拠点となる施設であるから」が4割台後半、「少人数学級は、ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができるから」「義務教育においては、子供は地域の中で育てることが重要であるから」が

3割台半ばとなっています。

- 小規模校の『統合』が望ましいと思う理由は、「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」が約6割と高く、「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」が3割台後半、「多くのクラブ活動や部活動の中から子供のやりたい種目を選ぶことができるから」が2割台後半と続きます。
- 小規模校の『統合』する場合に配慮すべきと思う点は、「児童・生徒の通学（時間・距離・方法）とその安全性」が7割台半ばを占め、「学校見学会の実施や児童・生徒同士の事前交流活動（合同授業、合同行事）などの教育活動」が2割台後半、「統合に伴う教員の配置」「保護者、地域住民との十分な協議」が約2割と続きます。

(2) 大規模校について（問15）

- 大規模校について、今後望まれる対応として、「可能な限り学校施設の増改築で対応する」が4割台半ばに対し、「学校施設の増改築を行わず、既存の学校施設の教室数不足を見据え、通学区域を変更し、変更した区域の児童・生徒は転校していただくことで対応する」が約4割となっています。年齢別でみると、“増改築で対応する”の割合は30代以下及び60代、“通学区域の変更で対応する”の割合は40～50代で高くなっています。

(3) 小・中学校を訪れた頻度、訪れた理由（問16～19）

- 過去1年間に小・中学校を訪れた頻度は、「1回も行っていない」が6割台前半を占め、「半年に1回以上」が2割台半ば、「月1回以上」や「週1回以上」の割合は低くなっています。
- 過去1年間に小・中学校を訪れた理由は、「学校行事」が約5割、「選挙での投票」が3割台後半、「保護者としての活動」が3割台半ばと続きます。
- コロナ禍前（令和2年より前）で過去1年間に小・中学校を訪れた頻度は、直近1年間（問16）と比較すると、「週1回以上」「月1回以上」「1回も行っていない」が微減に対し、「半年に1回以上」が微増となっているものの、大きな変化はみられません。
- コロナ禍前（令和2年より前）で過去1年間に小・中学校を訪れた理由は、直近1年間（問17）と比較すると、コロナ禍前は「選挙での投票」「体育館や校庭などを利用した活動」、過去1年間では「保護者としての活動」「子供の見送りやお迎え」の割合がやや高くなっています。

(4) 地域における小・中学校の役割（問20）

- 地域における小・中学校の役割として重要だと考えるものは、「児童・生徒の学びの場」が8割台半ばと大多数を占め、「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所」が3割台前半、「地域防災の拠点」が2割台半ばと続きます。

(5) 学校の適正規模、適正配置について（問21）

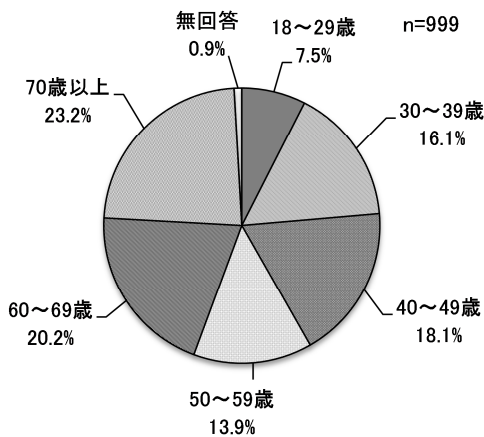
- 適正な学校規模に基づく適正な配置を進めていくことが必要と思うかどうかは、「そう思う」と「少しそう思う」を合わせた『思う』が8割台後半と大多数を占めるのに対し、「あまり思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』の割合は3.4%と低くなっています。

第3章 調査結果

1 あなた自身のことについて（属性）

問1 あなたの年齢を教えてください。（○は1つ）

・「70歳以上」の割合が23.2%と最も高く、次いで「60～69歳」が20.2%、「40～49歳」が18.1%などとなっています。

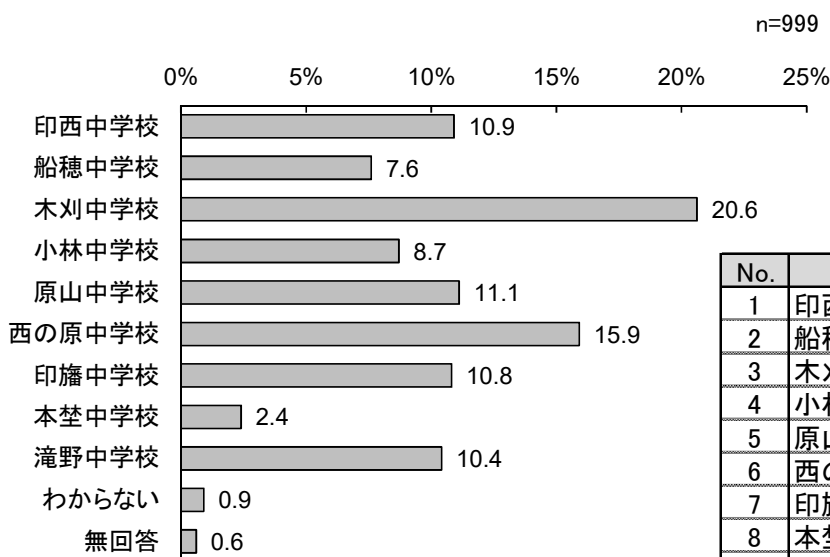


No.	選択肢	n	%
1	18～29歳	75	7.5
2	30～39歳	161	16.1
3	40～49歳	181	18.1
4	50～59歳	139	13.9
5	60～69歳	202	20.2
6	70歳以上	232	23.2
	無回答	9	0.9
	回答者数	999	

（%は、回答者999人に対する比率）

問2 あなたがお住まいの地区の中学校（中学校区）を教えてください。わからない場合は最も近い中学校に○を付けてください。（○は数字に1つ）

・「木刈中学校」の割合が20.6%と最も高く、次いで「西の原中学校」が15.9%、「原山中学校」が11.1%などとなっています。

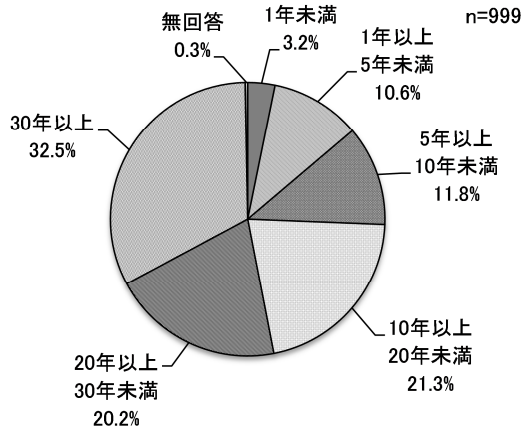


No.	選択肢	n	%
1	印西中学校	109	10.9
2	船穂中学校	76	7.6
3	木刈中学校	206	20.6
4	小林中学校	87	8.7
5	原山中学校	111	11.1
6	西の原中学校	159	15.9
7	印旛中学校	108	10.8
8	本埜中学校	24	2.4
9	滝野中学校	104	10.4
10	わからない	9	0.9
	無回答	6	0.6
	回答者数	999	

（%は、回答者999人に対する比率）

問3 あなたがこれまで印西市にお住まいの期間を教えてください。(○は1つ)

・「30年以上」の割合が32.5%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」が21.3%、「20年以上30年未満」が20.2%などとなっています。

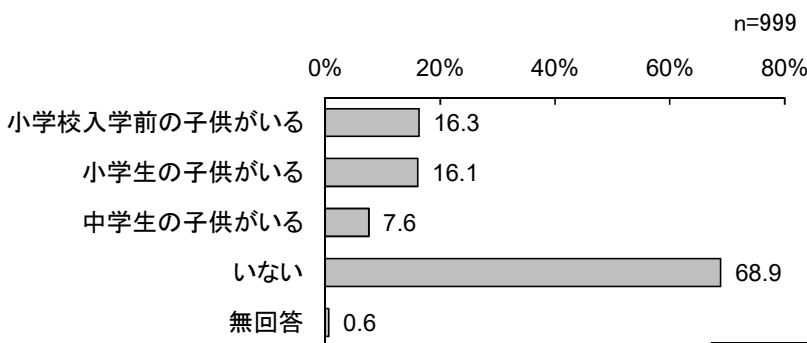


No.	選択肢	n	%
1	1年未満	32	3.2
2	1年以上5年未満	106	10.6
3	5年以上10年未満	118	11.8
4	10年以上20年未満	213	21.3
5	20年以上30年未満	202	20.2
6	30年以上	325	32.5
	無回答	3	0.3
	回答者数	999	

(%は、回答者999人に対する比率)

問4 あなたの世帯に、中学生以下のお子様はいますか。(○はいくつでも)

・「いない」の割合が68.9%と最も高く、次いで「小学校入学前の子供がいる」が16.3%、「小学生の子供がいる」が16.1%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	小学校入学前の子供がいる	163	16.3
2	小学生の子供がいる	161	16.1
3	中学生の子供がいる	76	7.6
4	いない	688	68.9
	無回答	6	0.6
	回答者数	999	

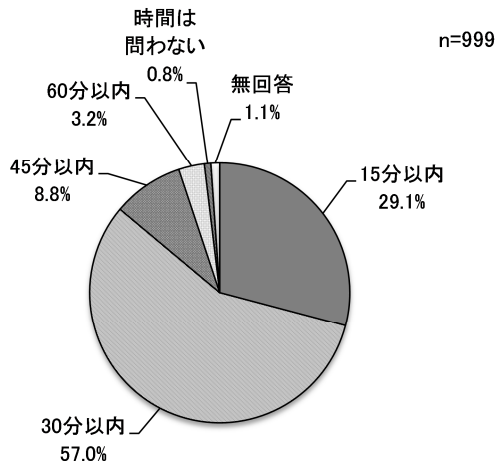
(%は、回答者999人に対する比率)

2 望ましい通学時間・通学方法について

問5 小学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思われますか。(○は1つ)
 ※国では、通学時間について、「おおむね1時間以内」を原則としています。

【全体】

- ・「30分以内」の割合が57.0%と最も高く、次いで「15分以内」が29.1%、「45分以内」が8.8%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	15分以内	291	29.1
2	30分以内	569	57.0
3	45分以内	88	8.8
4	60分以内	32	3.2
5	時間は問わない	8	0.8
	無回答	11	1.1
	回答者数	999	

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・居住地区別でみると、滝野中学校区、原山中学校区、西の原中学校区で「15分以内」の割合が高くなっています。
- ・子の有無別でみると、小学校入学前の子供がいる方で「15分以内」の割合が高くなっています。

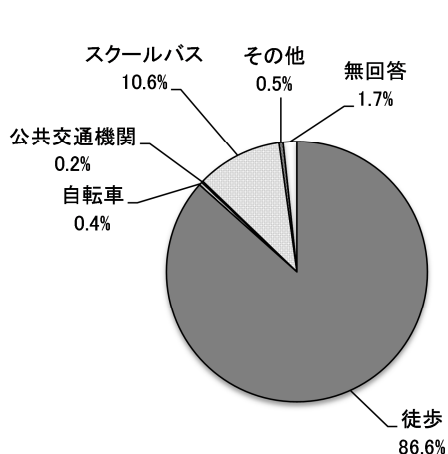
		合計(人)	15分以内	30分以内	45分以内	60分以内	時間は問わない	無回答
全体		999	29.1	57.0	8.8	3.2	0.8	1.1
居住地区	印西中学校区	109	24.8	59.6	7.3	4.6	0.9	2.8
	船穂中学校区	76	25.0	56.6	6.6	5.3	2.6	3.9
	木川中学校区	206	23.8	62.1	12.1	1.9	0.0	0.0
	小林中学校区	87	18.4	63.2	12.6	4.6	1.1	0.0
	原山中学校区	111	40.5	52.3	5.4	1.8	0.0	0.0
	西の原中学校区	159	36.5	56.0	4.4	2.5	0.0	0.6
	印旛中学校区	108	25.9	53.7	13.0	4.6	1.9	0.9
	本埜中学校区	24	8.3	62.5	20.8	4.2	4.2	0.0
	滝野中学校区	104	42.3	48.1	5.8	2.9	1.0	0.0
子の有無	小学校入学前の子供がいる	163	37.4	55.8	4.3	1.2	0.6	0.6
	小学生の子供がいる	161	33.5	60.2	5.0	1.2	0.0	0.0
	中学生の子供がいる	76	27.6	61.8	3.9	2.6	0.0	3.9
	いない	688	27.0	56.7	10.6	3.8	1.0	0.9

単位: %

問6 小学生の通学方法として、どのような方法が最も望ましいと思われますか。(○は1つ)

【全体】

- ・「徒歩」の割合が86.6%と最も高く、次いで「スクールバス」が10.6%、「自転車」「公共交通機関」はともに1%未満と低くなっています。



No.	選択肢	n	%
1	徒歩	865	86.6
2	自転車	4	0.4
3	公共交通機関	2	0.2
4	スクールバス	106	10.6
5	その他	5	0.5
	無回答	17	1.7
	回答者数	999	

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・居住地区別で見ると、西の原中学校区、滝野中学校区、小林中学校区、原山中学校区で「徒歩」の割合がやや高く、本埜中学校区、印旛中学校区、印西中学校区で「スクールバス」の割合が高くなっています。
- ・子の有無別では顕著な差はみられません。

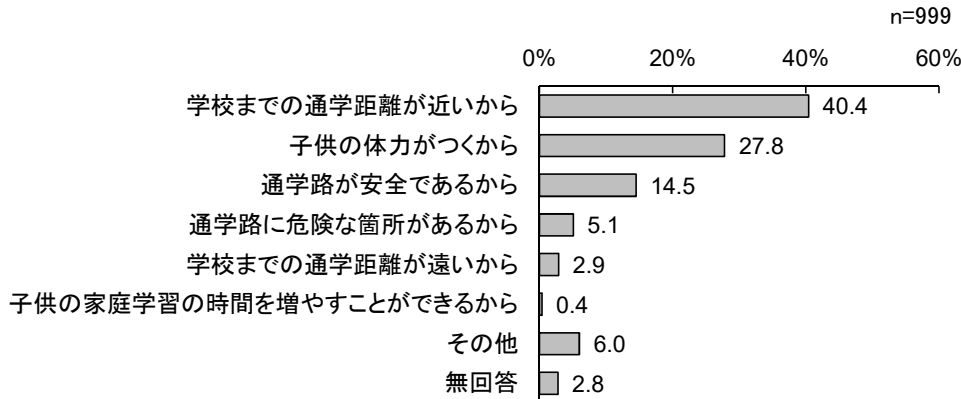
	合計 (人)	徒歩	自転車	公共交通 機関	スク ール バス	そ の 他	無 回 答	
全体	999	86.6	0.4	0.2	10.6	0.5	1.7	
居住地区	印西中学校区	109	77.1	0.0	0.9	17.4	1.8	2.8
	船穂中学校区	76	86.8	0.0	1.3	7.9	1.3	2.6
	木川中学校区	206	89.8	0.5	0.0	8.3	0.0	1.5
	小林中学校区	87	92.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0
	原山中学校区	111	91.0	0.0	0.0	5.4	0.0	3.6
	西の原中学校区	159	95.0	0.6	0.0	3.8	0.6	0.0
	印旛中学校区	108	75.0	0.0	0.0	23.1	0.0	1.9
	本埜中学校区	24	50.0	8.3	0.0	41.7	0.0	0.0
	滝野中学校区	104	92.3	0.0	0.0	6.7	0.0	1.0
	子の有無	小学校入学前の子供がいる	163	83.4	0.0	0.6	12.3	1.2
小学生の子供がいる		161	87.6	0.0	0.0	10.6	0.6	1.2
中学生の子供がいる		76	85.5	0.0	1.3	6.6	1.3	5.3
いない		688	87.4	0.6	0.0	10.6	0.3	1.2

単位:%

問7 問6で答えられた方法が最も望ましいと思われる理由を1つお答えください。(○は1つ)

【全体】

- ・「学校までの通学距離が近いから」の割合が40.4%と最も高く、次いで「子供の体力がつくから」が27.8%、「通学路が安全であるから」が14.5%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	学校までの通学距離が近いから	404	40.4
2	通学路が安全であるから	145	14.5
3	子供の体力がつくから	278	27.8
4	学校までの通学距離が遠いから	29	2.9
5	通学路に危険な箇所があるから	51	5.1
6	子供の家庭学習の時間を増やすことができるから	4	0.4
7	その他	60	6.0
	無回答	28	2.8
	回答者数	999	

「その他」の内容:「(徒歩は)友人達と一緒に登下校できる」「徒歩通学をすることで体力もつくし交通规则を学ぶことができるから」「低学年の場合熱中症などの危険があるため歩けるくらいの短時間で辿り着けるほうがいい」「徒歩が望ましいが学校の統合を進めるにはスクールバスが望ましい」「子どもの人数が減り一人での登下校などは心配」など

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・居住地区別でみると、原山中学校区、西の原中学校区、滝野中学校区で「学校までの通学距離が近いから」、印西中学校区、印旛中学校区で「通学路に危険な箇所があるから」、本埜中学校区で「学校までの通学距離が遠いから」の割合が高くなっています。
- ・子の有無別では顕著な差はみられません。

	合計 (人)	近い 学校 から 距離 が	通学 路 が 安全 で	子供 の 体力 が	遠い 学校 から 距離 が	通学 路 に 危険 な	時間 を 増 や す こ の	子 の 家 庭 学 習 の	そ の 他	無 回 答
全体	999	40.4	14.5	27.8	2.9	5.1	0.4	6.0	2.8	
居住地区	印西中学校区	109	27.5	10.1	35.8	3.7	10.1	0.9	8.3	3.7
	船穂中学校区	76	38.2	17.1	23.7	0.0	9.2	1.3	3.9	6.6
	木刈中学校区	206	43.2	16.5	25.7	2.4	2.4	0.5	8.3	1.0
	小林中学校区	87	37.9	17.2	35.6	2.3	3.4	0.0	2.3	1.1
	原山中学校区	111	49.5	10.8	27.0	0.0	3.6	0.0	4.5	4.5
	西の原中学校区	159	48.4	13.8	26.4	1.9	1.9	0.0	5.0	2.5
	印旛中学校区	108	32.4	12.0	28.7	9.3	10.2	0.9	5.6	0.9
	本埜中学校区	24	16.7	20.8	29.2	16.7	12.5	0.0	4.2	0.0
	滝野中学校区	104	48.1	18.3	22.1	1.0	2.9	0.0	4.8	2.9
子の有無	小学校入学前の子供がいる	163	39.3	12.9	25.8	2.5	5.5	0.0	8.0	6.1
	小学生の子供がいる	161	41.6	10.6	29.8	3.7	2.5	0.6	6.8	4.3
	中学生の子供がいる	76	43.4	7.9	32.9	3.9	1.3	0.0	5.3	5.3
	いない	688	40.4	15.8	27.8	2.6	5.8	0.4	5.4	1.7

単位: %

【クロス集計（問6×問7）】

- ・問6で「徒歩」と回答した人は「学校までの通学距離が近いから」「子供の体力がつくから」、「スクールバス」と回答した人は「学校までの通学距離が遠いから」「通学路に危険な箇所があるから」の割合が高くなっています。

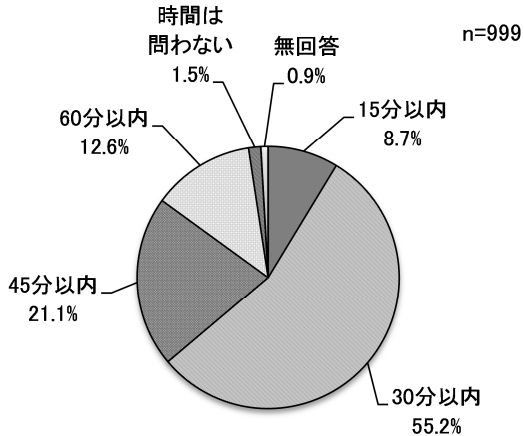
	合計 (人)	近 い か ら	通 学 校 ま で の 距 離 が	あ る か ら	通 学 路 が 安 全 で	つ く か ら	子 供 の 体 力 が	遠 い か ら	通 学 校 ま で の 距 離 が	通 学 路 に 危 険 な 箇 所 が あ る か ら	が 時 間 を 増 や す こ と の	子 供 の 家 庭 学 習 の	そ の 他	無 回 答
全体	999	40.4	14.5	27.8	2.9	5.1	0.4	6.0	2.8					
問6 小学生の 通学方法で最 も望ましいもの	徒歩	865	46.6	14.2	32.0	0.1	1.0	0.2	4.2	1.6				
	自転車	4	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
	公共交通機関	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0				
	スクールバス	106	0.0	18.9	0.0	23.6	37.7	1.9	17.9	0.0				
	その他	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	20.0				

単位：%

問8 中学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思われますか。(○は1つ)
 ※国では、通学時間について、「おおむね1時間以内」を原則としています。

【全体】

- ・「30分以内」の割合が55.2%と最も高く、次いで「45分以内」が21.1%、「60分以内」が12.6%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	15分以内	87	8.7
2	30分以内	551	55.2
3	45分以内	211	21.1
4	60分以内	126	12.6
5	時間は問わない	15	1.5
	無回答	9	0.9
	回答者数	999	

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・居住地区別で見ると、滝野中学校区、原山中学校区で「15分以内」、本埜中学校区、小林中学校区で「45分以内」、印旛中学校区で「60分以内」の割合がやや高くなっています。
- ・子の有無別で見ると、小学生の子供がいる方で「15分以内」、子供がいない方で「60分以内」の割合が高くなっています。

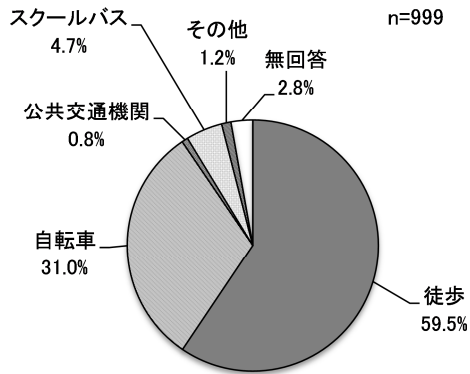
	合計(人)	15分以内	30分以内	45分以内	60分以内	時間は問わない	無回答	
全体	999	8.7	55.2	21.1	12.6	1.5	0.9	
居住地区	印西中学校区	109	1.8	60.6	20.2	14.7	1.8	0.9
	船穂中学校区	76	10.5	56.6	11.8	13.2	6.6	1.3
	木川中学校区	206	8.3	55.8	24.8	9.2	1.5	0.5
	小林中学校区	87	6.9	44.8	29.9	18.4	0.0	0.0
	原山中学校区	111	13.5	58.6	16.2	9.0	1.8	0.9
	西の原中学校区	159	6.9	60.4	21.4	11.3	0.0	0.0
	印旛中学校区	108	11.1	46.3	19.4	20.4	1.9	0.9
	本埜中学校区	24	4.2	45.8	29.2	20.8	0.0	0.0
	滝野中学校区	104	14.4	57.7	18.3	8.7	1.0	0.0
子の有無	小学校入学前の子供がいる	163	12.3	62.6	18.4	4.9	1.2	0.6
	小学生の子供がいる	161	14.9	64.0	18.0	3.1	0.0	0.0
	中学生の子供がいる	76	10.5	69.7	14.5	5.3	0.0	0.0
	いない	688	7.1	50.9	22.8	16.3	1.9	1.0

単位：%

問9 中学生の通学方法として、どのような方法が最も望ましいと思われますか。(○は1つ)

【全体】

- ・「徒歩」の割合が59.5%と最も高く、次いで「自転車」が31.0%、「スクールバス」が4.7%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	徒歩	594	59.5
2	自転車	310	31.0
3	公共交通機関	8	0.8
4	スクールバス	47	4.7
5	その他	12	1.2
	無回答	28	2.8
	回答者数	999	

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・居住地区別でみると、原山中学校区、木刈中学校区、小林中学校区、滝野中学校区で「徒歩」の割合が高く、本埜中学校区、西の原中学校区、印旛中学校区、印西中学校区で「自転車」、印旛中学校区で「スクールバス」の割合が高くなっています。
- ・子の有無別でみると、小学校入学前の子供がいる方で「自転車」の割合が高くなっています。

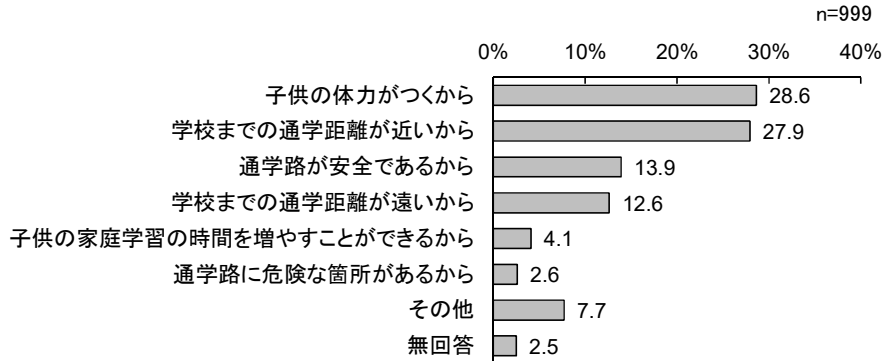
	合計 (人)	徒歩	自転車	公共交通機関	スクールバス	その他	無回答	
全体	999	59.5	31.0	0.8	4.7	1.2	2.8	
居住地区	印西中学校区	109	45.9	42.2	0.9	8.3	0.9	1.8
	船穂中学校区	76	57.9	28.9	1.3	3.9	3.9	3.9
	木刈中学校区	206	74.8	18.9	0.5	2.9	0.5	2.4
	小林中学校区	87	74.7	17.2	0.0	3.4	2.3	2.3
	原山中学校区	111	76.6	14.4	1.8	4.5	0.0	2.7
	西の原中学校区	159	47.2	45.3	0.0	2.5	1.9	3.1
	印旛中学校区	108	40.7	42.6	2.8	11.1	0.9	1.9
	本埜中学校区	24	4.2	91.7	0.0	4.2	0.0	0.0
	滝野中学校区	104	70.2	23.1	0.0	2.9	0.0	3.8
子の有無	小学校入学前の子供がいる	163	47.2	38.0	1.8	5.5	1.8	5.5
	小学生の子供がいる	161	59.6	29.8	0.6	5.6	0.6	3.7
	中学生の子供がいる	76	59.2	31.6	0.0	2.6	1.3	5.3
	いない	688	61.3	30.1	0.7	4.7	1.2	2.0

単位: %

問10 問9で答えられた方法が最も望ましいと思われる理由を1つお答えください。(○は1つ)

【全体】

- ・「子供の体力がつくから」の割合が28.6%と最も高く、次いで「学校までの通学距離が近いから」が27.9%、「通学路が安全であるから」が13.9%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	学校までの通学距離が近いから	279	27.9
2	通学路が安全であるから	139	13.9
3	子供の体力がつくから	286	28.6
4	学校までの通学距離が遠いから	126	12.6
5	通学路に危険な箇所があるから	26	2.6
6	子供の家庭学習の時間を増やすことができるから	41	4.1
7	その他	77	7.7
	無回答	25	2.5
	回答者数	999	

「その他」の内容:「部活動で帰りが遅くなると危険だから(自転車)」「荷物が多いから(自転車)」「時間を有効に使える(自転車)」「子どもたちの自転車の運転マナーにも不安がある(徒歩)」「小学生と同じく小中学生は徒歩が望ましいと思う」など

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・居住地区別で見ると、滝野中学校区、原山中学校区で「学校までの通学距離が近いから」、本埜中学校区、印旛中学校区、西の原中学校区、印西中学校区で「学校までの通学距離が遠いから」の割合が高くなっています。
- ・子の有無別で見ると、小学校入学前の子供がいる方で「学校までの通学距離が遠いから」の割合が高くなっています。

	合計 (人)	近い 学校 から 距離 が の	通 学 路 が 安 全 で あ る か ら	つ く 子 供 の 体 力 が	遠 い 学 校 か ら 距 離 が の	通 学 路 に 危 険 な 所 が あ る か ら	時 間 を 増 や す こ と が 可 能 な か ら	そ の 他	無 回 答	
全体	999	27.9	13.9	28.6	12.6	2.6	4.1	7.7	2.5	
居住地区	印西中学校区	109	14.7	11.0	35.8	19.3	5.5	3.7	9.2	0.9
	船穂中学校区	76	21.1	19.7	26.3	6.6	5.3	5.3	9.2	6.6
	木刈中学校区	206	32.0	16.0	28.6	8.3	0.5	5.3	7.8	1.5
	小林中学校区	87	29.9	14.9	35.6	8.0	2.3	4.6	3.4	1.1
	原山中学校区	111	38.7	13.5	29.7	2.7	2.7	1.8	7.2	3.6
	西の原中学校区	159	23.9	15.1	23.3	19.5	2.5	5.7	7.5	2.5
	印旛中学校区	108	22.2	11.1	29.6	21.3	4.6	2.8	5.6	2.8
	本埜中学校区	24	8.3	4.2	37.5	41.7	0.0	4.2	4.2	0.0
	滝野中学校区	104	44.2	13.5	23.1	5.8	1.0	2.9	7.7	1.9
子の有無	小学校入学前の子供がいる	163	25.2	12.9	21.5	18.4	2.5	6.1	9.2	4.3
	小学生の子供がいる	161	30.4	9.9	25.5	13.0	2.5	5.6	9.3	3.7
	中学生の子供がいる	76	31.6	6.6	31.6	10.5	1.3	5.3	10.5	2.6
	いない	688	27.3	15.0	30.8	11.5	2.8	3.6	7.1	1.9

単位: %

【クロス集計（問9×問10）】

- ・問9で「徒歩」と回答した人は「学校までの通学距離が近いから」「子供の体力がつくから」、「自転車」と回答した人は「学校までの距離が遠いから」「子供の体力がつくから」「子供の家庭学習の時間を増やすことができるから」、「スクールバス」と回答した人は「学校までの通学距離が遠いから」「通学路に危険な箇所があるから」の割合が高くなっています。

	合計 (人)	近 通学 い学校 か距離 までの がの	あ 通学 る路 から が安全 で	つ 子 供の 体 力 が	遠 通学 い学校 か距離 までの が	箇 通学 所路 が ある 危険 な	が 時 間 を 増 や す こ と の	子 供 の 家 庭 学 習 の	そ の 他	無 回 答
全体	999	27.9	13.9	28.6	12.6	2.6	4.1	7.7	2.5	
問9 中学生の 通学方法で最 も望ましいもの	594	43.6	16.8	32.7	0.2	1.2	1.0	3.4	1.2	
徒歩	310	4.8	10.0	27.7	34.8	0.3	10.0	11.9	0.3	
自転車	8	0.0	12.5	0.0	37.5	12.5	0.0	25.0	12.5	
公共交通機関	47	0.0	12.8	0.0	23.4	36.2	6.4	21.3	0.0	
スクールバス	12	8.3	0.0	8.3	16.7	0.0	8.3	50.0	8.3	
その他										

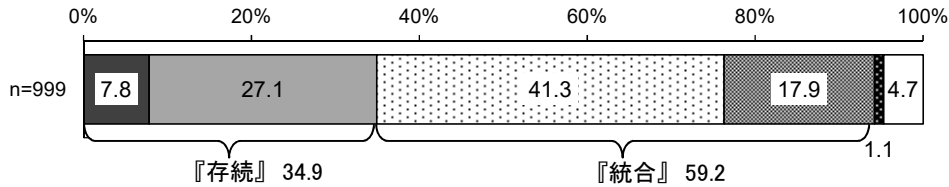
単位：%

3 学校の適正規模、適正配置等について

問11 小規模校について、印西市が今後どのようにすることが望ましいと思われますか。(〇は1つ)

【全体】

- ・「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、隣接校との統合を進める」の割合が41.3%と最も高く、次いで「小規模特認校制度を導入して、学校を存続させる」が27.1%、「近隣の小学校・中学校と統合して義務教育学校を新設する」が17.9%などとなっています。



- 複式学級になっても学校を存続させる
- 複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、小規模特認校制度を導入して、学校を存続させる
- 複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、隣接校との統合を進める
- 複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、近隣の小学校・中学校と統合して義務教育学校を新設する
- その他
- 無回答

No.	選択肢	n	%
1	複式学級になっても学校を存続させる	78	7.8
2	複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、小規模特認校制度を導入して、学校を存続させる	271	27.1
3	複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、隣接校との統合を進める	413	41.3
4	複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、近隣の小学校・中学校と統合して義務教育学校を新設する	179	17.9
5	その他	11	1.1
	無回答	47	4.7
	回答者数	999	

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・年齢別でみると、18～29歳で「小規模特認校制度を導入して、学校を存続させる」、50～59歳で「適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、隣接校との統合を進める」、70歳以上で「複式学級になっても学校を存続させる」の割合が高くなっています。

	合計(人)	選択肢							『存続』	『統合』
		複式学級になっても学校を存続させる	複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、小規模特認校制度を導入して、学校を存続させる	複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、隣接校との統合を進める	複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、近隣の小学校・中学校と統合して義務教育学校を新設する	その他	無回答	その他		
全体	999	7.8	27.1	41.3	17.9	1.1	4.7	34.9	59.2	
年齢	18～29歳	75	5.3	36.0	44.0	12.0	2.7	0.0	41.3	56.0
	30～39歳	161	9.3	30.4	42.2	15.5	1.2	1.2	39.7	57.7
	40～49歳	181	4.4	25.4	46.4	21.0	1.1	1.7	29.8	67.4
	50～59歳	139	8.6	25.2	48.2	14.4	0.0	3.6	33.8	62.6
	60～69歳	202	6.9	29.2	36.6	22.8	1.5	3.0	36.1	59.4
	70歳以上	232	10.8	23.3	35.3	17.2	0.9	12.5	34.1	52.5

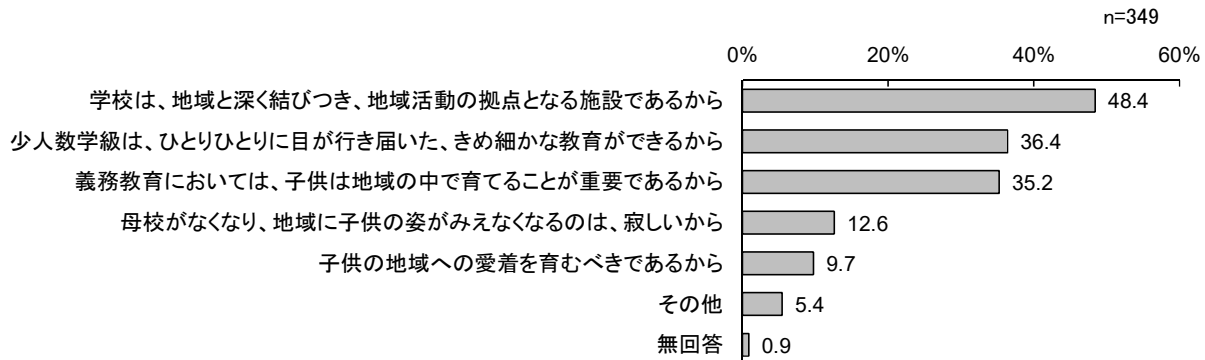
単位：%

問12 問11で1または2の「存続」と答えられた方は、そう思われる理由をお答えください。

(○は2つまで)

【全体】

- ・「学校は、地域と深く結びつき、地域活動の拠点となる施設であるから」の割合が48.4%と最も高く、次いで「少人数学級は、ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができるから」が36.4%、「義務教育においては、子供は地域の中で育てることが重要であるから」が35.2%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	学校は、地域と深く結びつき、地域活動の拠点となる施設であるから	169	48.4
2	義務教育においては、子供は地域の中で育てることが重要であるから	123	35.2
3	子供の地域への愛着を育むべきであるから	34	9.7
4	母校がなくなり、地域に子供の姿がみえなくなるのは、寂しいから	44	12.6
5	少人数学級は、ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができるから	127	36.4
6	その他	19	5.4
	無回答	3	0.9
	回答者数	349	
	非該当者数	650	

「その他」の内容:「無理に学校をつくる費用が無駄」「将来人口増加の可能性を考慮」「通学地域が変わってしまい通いづらくなってしまう児童がいるから」など

(%は、回答者349人に対する比率)

【属性別】

- ・年齢別でみると、18～29歳で「母校がなくなり、地域に子供の姿がみえなくなるのは、寂しいから」、40～49歳で「少人数学級は、ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができるから」、60～69歳で「子供の地域への愛着を育むべきであるから」、70歳以上で「義務教育においては、子供は地域の中で育てることが重要であるから」の割合が高くなっています。

	合計 (人)	学校は、地域と深く結びつき、地域活動の拠点となる施設であるから	義務教育においては、子供は地域の中で育てることが重要であるから	子供の地域への愛着を育むべきであるから	母校がなくなり、地域に子供の姿がみえなくなるのは、寂しいから	少人数学級は、ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができるから	その他	無回答	
全体	349	48.4	35.2	9.7	12.6	36.4	5.4	0.9	
年齢	18～29歳	31	38.7	29.0	6.5	29.0	41.9	0.0	0.0
	30～39歳	64	40.6	28.1	9.4	10.9	42.2	12.5	0.0
	40～49歳	54	46.3	25.9	7.4	11.1	53.7	7.4	0.0
	50～59歳	47	48.9	42.6	6.4	12.8	34.0	6.4	0.0
	60～69歳	73	54.8	31.5	19.2	8.2	27.4	4.1	0.0
	70歳以上	79	53.2	48.1	6.3	12.7	27.8	1.3	3.8

単位: %

- ・居住地区別でみると、船穂中学校区で「義務教育においては、子供は地域の中で育てることが重要であるから」、本埜中学校区、滝野中学校区で「学校は、地域と深く結びつき、地域活動の拠点となる施設であるから」、西の原中学校区、原山中学校区で「少人数学級は、ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができるから」の割合がやや高くなっています。
- ・子の有無別でみると、子供が“いない”方よりも“いる”方で「少人数学級は、ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができるから」の割合が高くなっています。

	合計（人）	地域活動、拠点となる施設で、	学校は、地域と深く結びつき、	地域の中で育てることが重要は	義務教育においては、子供は	子供の地域への愛着を育むべき	であるから	姿がみえなくなるのは、地域に寂しい	母校がなくなり、地域に寂しい	目が行き届いた、きめ細かな	少人数学級は、ひとりひとりに	その他	無回答
全体	349	48.4	35.2	9.7	12.6	36.4	5.4	0.9					
居住地区	印西中学校区	43	44.2	30.2	14.0	18.6	39.5	0.0	2.3				
	船穂中学校区	30	53.3	53.3	6.7	20.0	23.3	13.3	0.0				
	木川中学校区	53	56.6	37.7	3.8	9.4	32.1	5.7	1.9				
	小林中学校区	26	42.3	30.8	23.1	15.4	26.9	3.8	3.8				
	原山中学校区	43	51.2	27.9	4.7	11.6	44.2	2.3	0.0				
	西の原中学校区	60	35.0	36.7	11.7	1.7	45.0	11.7	0.0				
	印旛中学校区	44	45.5	31.8	11.4	15.9	38.6	4.5	0.0				
	本埜中学校区	9	66.7	22.2	0.0	11.1	33.3	0.0	0.0				
滝野中学校区	37	62.2	40.5	10.8	18.9	29.7	0.0	0.0					
子の有無	小学校入学前の子供がいる	54	44.4	22.2	7.4	11.1	51.9	9.3	0.0				
	小学生の子供がいる	49	42.9	26.5	2.0	12.2	53.1	4.1	0.0				
	中学生の子供がいる	21	42.9	19.0	4.8	4.8	66.7	14.3	0.0				
	いない	250	50.0	39.6	11.2	13.6	30.8	4.0	1.2				

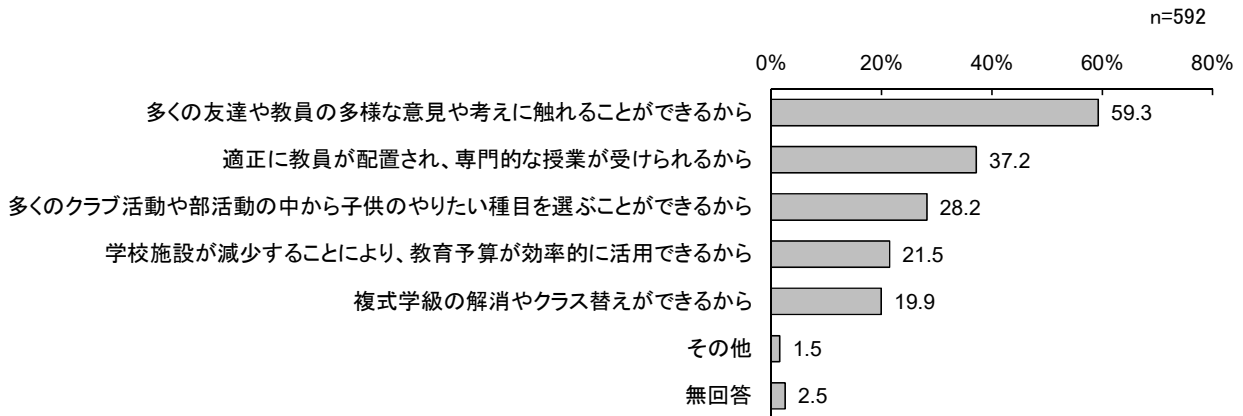
単位：%

問13 問11で3または4の「統合」と答えられた方は、そう思われる理由をお答えください。

(○は2つまで)

【全体】

・「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」の割合が59.3%と最も高く、次いで「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」が37.2%、「多くのクラブ活動や部活動の中から子供のやりたい種目を選ぶことができるから」が28.2%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	複式学級の解消やクラス替えができるから	118	19.9
2	多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから	351	59.3
3	適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから	220	37.2
4	多くのクラブ活動や部活動の中から子供のやりたい種目を選ぶことができるから	167	28.2
5	学校施設が減少することにより、教育予算が効率的に活用できるから	127	21.5
6	その他	9	1.5
	無回答	15	2.5
	回答者数	592	
	非該当者数	407	

(%は、回答者592人に対する比率)

【属性別】

・年齢別でみると、18～29歳で「複式学級の解消やクラス替えができるから」、30～39歳で「学校施設が減少することにより、教育予算が効率的に活用できるから」、50～59歳で「多くのクラブ活動や部活動の中から子供のやりたい種目を選ぶことができるから」、年齢が高い層ほど「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」の割合が高くなっています。

	合計 (人)	複式学級の解消やクラス替え	多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから	適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから	多くのクラブ活動や部活動の中から子供のやりたい種目を選ぶことができるから	学校施設が減少することにより、教育予算が効率的に活用できるから	その他	無回答	
全体	592	19.9	59.3	37.2	28.2	21.5	1.5	2.5	
年齢	18～29歳	42	31.0	54.8	26.2	31.0	11.9	0.0	2.4
	30～39歳	93	26.9	53.8	26.9	29.0	38.7	2.2	1.1
	40～49歳	122	23.0	61.5	30.3	23.0	22.1	4.1	4.9
	50～59歳	87	18.4	62.1	40.2	39.1	14.9	1.1	3.4
	60～69歳	120	15.8	60.0	42.5	25.0	20.8	0.8	1.7
	70歳以上	122	13.1	61.5	48.4	27.9	13.9	0.0	1.6

単位: %

- ・居住地区別でみると、小林中学校区で「複式学級の解消やクラス替えができるから」、船穂中学校区で「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」、本埜中学校区で「多くのクラブ活動や部活動の中から子供のやりたい種目を選ぶことができるから」の割合がやや高くなっています。
- ・子の有無別でみると、小学校入学前の子供がいる方で「学校施設が減少することにより、教育予算が効率的に活用できるから」、子供がいない方で「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」の割合が高くなっています。

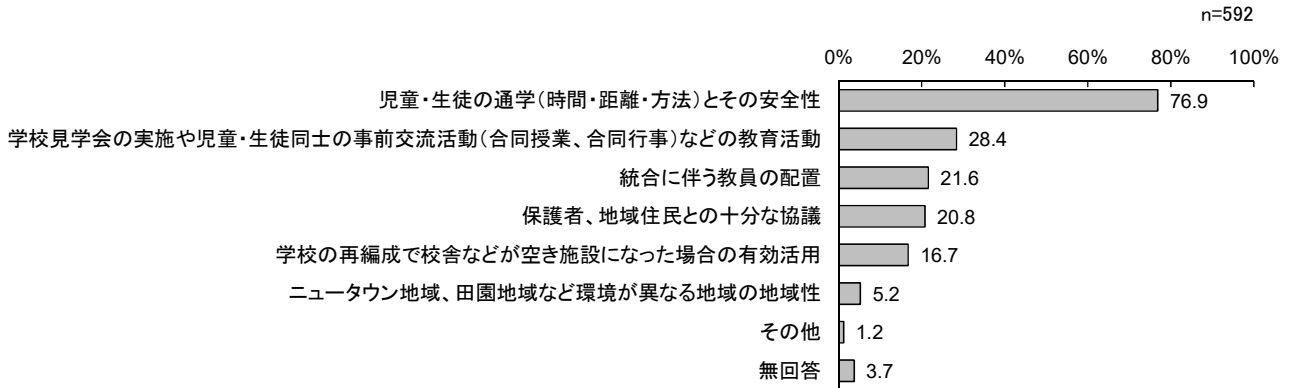
	合計（人）	複式学級の解消やクラス替えができるから	意見や考えに触れることが多い	多くの友達や教員の多様性から	専門的な授業が受けられる	適正に教員が配置される	種目を子供がやりたい活動の中から選ぶことができるから	多くのクラブ活動や部活動を活用できるから	学校施設が減少することにより、教育予算が効率的に	その他	無回答
全体	592	19.9	59.3	37.2	28.2	21.5	1.5	2.5			
居住地区	印西中学校区	55	21.8	60.0	32.7	32.7	3.6	1.8	3.6		
	船穂中学校区	41	7.3	56.1	48.8	29.3	29.3	0.0	0.0		
	木刈中学校区	141	21.3	63.1	36.2	24.1	24.1	1.4	2.1		
	小林中学校区	56	32.1	46.4	44.6	26.8	17.9	0.0	1.8		
	原山中学校区	63	22.2	58.7	36.5	28.6	17.5	4.8	4.8		
	西の原中学校区	92	15.2	58.7	34.8	29.3	27.2	0.0	4.3		
	印旛中学校区	57	17.5	63.2	42.1	22.8	17.5	3.5	1.8		
	本埜中学校区	14	7.1	57.1	21.4	57.1	14.3	0.0	0.0		
	滝野中学校区	65	21.5	63.1	32.3	32.3	27.7	1.5	1.5		
子の有無	小学校入学前の子供がいる	102	25.5	54.9	29.4	31.4	28.4	1.0	2.0		
	小学生の子供がいる	108	25.0	60.2	28.7	27.8	22.2	2.8	2.8		
	中学生の子供がいる	53	18.9	64.2	17.0	34.0	17.0	5.7	7.5		
	いない	392	18.6	58.7	43.1	27.6	20.2	0.8	1.8		

単位：%

問14 問11で3または4の「統合」と答えられた方にお聞きします。学校を統合する場合に、特に、配慮すべきだと思われる点はどんなことですか。(〇は2つまで)

【全体】

・「児童・生徒の通学（時間・距離・方法）とその安全性」の割合が76.9%と最も高く、次いで「学校見学会の実施や児童・生徒同士の事前交流活動（合同授業、合同行事）などの教育活動」が28.4%、「統合に伴う教員の配置」が21.6%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	学校見学会の実施や児童・生徒同士の事前交流活動(合同授業、合同行事)などの教育活動	168	28.4
2	統合に伴う教員の配置	128	21.6
3	児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全性	455	76.9
4	保護者、地域住民との十分な協議	123	20.8
5	学校の再編成で校舎などが空き施設になった場合の有効活用	99	16.7
6	ニュータウン地域、田園地域など環境が異なる地域の地域性	31	5.2
7	その他	7	1.2
	無回答	22	3.7
	回答者数	592	
	非該当者数	407	

(%は、回答者592人に対する比率)

【属性別】

・年齢別でみると、18～29歳と40～49歳で「学校見学会の実施や児童・生徒同士の事前交流活動（合同授業、合同行事）などの教育活動」、50～59歳で「統合に伴う教員の配置」の割合がやや高くなっています。

属性	合計(人)	学校見学会の実施や児童・生徒同士の事前交流活動(合同授業、合同行事)などの教育活動 (%)	統合に伴う教員の配置 (%)	児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全性 (%)	保護者、地域住民との十分な協議 (%)	学校の再編成で校舎などが空き施設になった場合の有効活用 (%)	ニュータウン地域、田園地域など環境が異なる地域の地域性 (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	592	28.4	21.6	76.9	20.8	16.7	5.2	1.2	3.7
18～29歳	42	35.7	11.9	81.0	19.0	7.1	7.1	0.0	0.0
30～39歳	93	29.0	23.7	72.0	21.5	22.6	3.2	2.2	3.2
40～49歳	122	34.4	18.0	78.7	18.0	16.4	2.5	2.5	4.9
50～59歳	87	24.1	28.7	80.5	23.0	14.9	6.9	0.0	3.4
60～69歳	120	27.5	19.2	78.3	22.5	20.8	4.2	0.0	3.3
70歳以上	122	24.6	23.8	73.8	19.7	13.9	8.2	1.6	4.1

単位: %

- ・居住地区別でみると、船穂中学校区、原山中学校区で「学校見学会の実施や児童・生徒同士の事前交流活動（合同授業、合同行事）などの教育活動」、原山中学校区、印旛中学校区、西の原中学校区で「統合に伴う教員の配置」の割合がやや高くなっています。
- ・子の有無別でみると、小学生の子供がいる方で「学校見学会の実施や児童・生徒同士の事前交流活動（合同授業、合同行事）などの教育活動」、「保護者、地域住民との十分な協議」の割合がやや高くなっています。

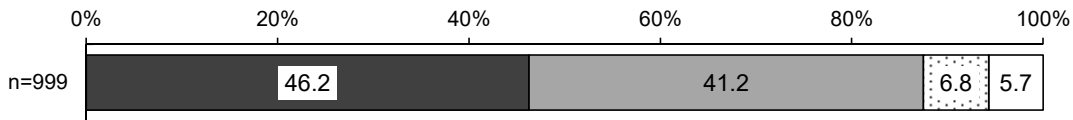
	合計（人）	学校見学会の実施や児童・生徒同士の事前交流活動（合同授業、合同行事）	統合に伴う教員の配置	児童・生徒の通学（時間・安全・距離・方法）	保護者、地域住民との十分な協議	学校の再編成で校舎などが空き活用になった場合	ニュータウン地域、異なる地域との境界性	その他	無回答	
全体	592	28.4	21.6	76.9	20.8	16.7	5.2	1.2	3.7	
居住地区	印西中学校区	55	25.5	21.8	74.5	25.5	12.7	9.1	0.0	1.8
	船穂中学校区	41	39.0	9.8	75.6	26.8	7.3	4.9	0.0	2.4
	木川中学校区	141	29.8	20.6	78.0	17.0	22.7	4.3	2.8	3.5
	小林中学校区	56	33.9	19.6	82.1	25.0	16.1	3.6	1.8	3.6
	原山中学校区	63	36.5	27.0	77.8	25.4	9.5	4.8	1.6	1.6
	西の原中学校区	92	20.7	26.1	78.3	17.4	20.7	3.3	0.0	4.3
	印旛中学校区	57	24.6	26.3	68.4	22.8	14.0	8.8	1.8	3.5
	本埜中学校区	14	28.6	7.1	71.4	14.3	14.3	21.4	0.0	0.0
	滝野中学校区	65	23.1	20.0	80.0	18.5	18.5	3.1	0.0	9.2
子の有無	小学校入学前の子供がいる	102	31.4	24.5	77.5	20.6	14.7	4.9	2.0	2.9
	小学生の子供がいる	108	34.3	17.6	79.6	24.1	15.7	0.9	1.9	1.9
	中学生の子供がいる	53	26.4	17.0	81.1	15.1	18.9	1.9	5.7	7.5
	いない	392	27.0	23.5	76.0	21.4	16.8	6.1	0.5	3.3

単位：%

問15 大規模校について、印西市が今後どのようにすることが望ましいと思われますか。(〇は1つ)

【全体】

- ・「可能な限り学校施設の増改築で対応する」の割合が46.2%と最も高く、次いで「学校施設の増改築を行わず、既存の学校施設の教室数不足を見据え、通学区域を変更し、変更した区域の児童・生徒は転校していただくことで対応する」が41.2%、「その他」が6.8%となっています。



- 可能な限り学校施設の増改築で対応する
- 学校施設の増改築を行わず、既存の学校施設の教室数不足を見据え、通学区域を変更し、変更した区域の児童・生徒は転校していただくことで対応する
- その他
- 無回答

No.	選択肢	n	%
1	可能な限り学校施設の増改築で対応する	462	46.2
2	学校施設の増改築を行わず、既存の学校施設の教室数不足を見据え、通学区域を変更し、変更した区域の児童・生徒は転校していただくことで対応する	412	41.2
3	その他	68	6.8
	無回答	57	5.7
	回答者数	999	

「その他」の内容:「転校では無く中学入学のタイミングで通学区域を変更する」「近隣の学校を含めて複数の中から選べる学区をつくる」「通学区域変更で通学時間が長い児童にはスクールバスで対応」など

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・年齢別で見ると、18～39歳と60～69歳で「可能な限り学校施設の増改築で対応する」、40～59歳で「学校施設の増改築を行わず、既存の学校施設の教室数不足を見据え、通学区域を変更し、変更した区域の児童・生徒は転校していただくことで対応する」の割合が高くなっています。

	合計 (人)	可能な限り学校施設の増改築で対応する	学校施設の増改築を行わず、既存の学校施設の教室数不足を見据え、通学区域を変更し、変更した区域の児童・生徒は転校していただくことで対応する	その他	無回答
全体	999	46.2	41.2	6.8	5.7
18～29歳	75	52.0	40.0	6.7	1.3
30～39歳	161	54.0	34.2	9.3	2.5
40～49歳	181	38.1	47.5	9.9	4.4
50～59歳	139	37.4	54.0	6.5	2.2
60～69歳	202	55.0	36.1	4.0	5.0
70歳以上	232	43.5	38.4	5.2	12.9

単位: %

- ・居住地区別でみると、船穂中学校区で「学校施設の増改築を行わず、既存の学校施設の教室数不足を見据え、通学区域を変更し、変更した区域の児童・生徒は転校していただくことで対応する」の割合が高くなっています。
- ・子どもの有無別でみると、中学生の子供がいる方で「学校施設の増改築を行わず、既存の学校施設の教室数不足を見据え、通学区域を変更し、変更した区域の児童・生徒は転校していただくことで対応する」の割合が高くなっています。

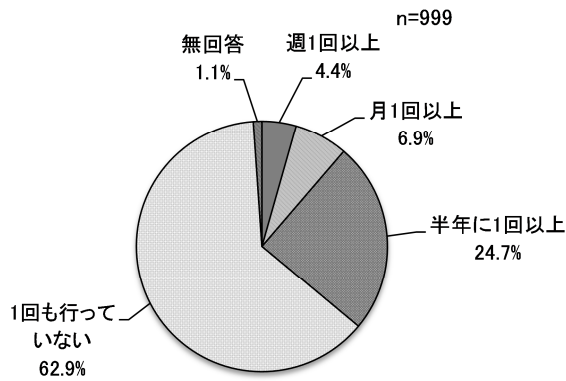
	合計 (人)	可能な限り 学校施設の 増改築で 対応する	転校し ていた 区域の 児童・ 生徒は	学校施設 の増改 築を行 わず、 既存の 学区の 学校を 校	その他	無回 答
全体	999	46.2	41.2	6.8	5.7	
居住地区	印西中学校区	109	52.3	36.7	6.4	4.6
	船穂中学校区	76	35.5	53.9	3.9	6.6
	木川中学校区	206	41.3	43.2	9.2	6.3
	小林中学校区	87	43.7	46.0	2.3	8.0
	原山中学校区	111	43.2	46.8	4.5	5.4
	西の原中学校区	159	50.3	37.1	9.4	3.1
	印旛中学校区	108	48.1	37.0	5.6	9.3
	本埜中学校区	24	41.7	54.2	0.0	4.2
子の有無	滝野中学校区	104	55.8	33.7	7.7	2.9
	小学校入学前の子供がいる	163	44.8	38.0	13.5	3.7
	小学生の子供がいる	161	45.3	36.6	11.8	6.2
	中学生の子供がいる	76	36.8	46.1	9.2	7.9
いない	688	47.4	41.6	5.1	6.0	

単位: %

問16 あなたは過去1年間に市立小・中学校にどのくらいの頻度で行きましたか。(○は1つ)

【全体】

・「1回も行っていない」の割合が62.9%と最も高く、次いで「半年に1回以上」が24.7%、「月1回以上」が6.9%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	週1回以上	44	4.4
2	月1回以上	69	6.9
3	半年に1回以上	247	24.7
4	1回も行っていない	628	62.9
	無回答	11	1.1
	回答者数	999	

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・年齢別でみると、18～29歳と60歳以上で「1回も行っていない」の割合が高くなっている一方、30～49歳で「半年に1回以上」、特に40～49歳では「週1回以上」や「月1回以上」の割合が高くなっています。
- ・居住地区別でみると、印西中学校区で「週1回以上」、滝野中学校区、原山中学校区で「月1回以上」、船穂中学校区、木刈中学校区で「半年に1回以上」の割合が高くなっています。
- ・居住期間別でみると、5年以上10年未満の方で「月1回以上」、「半年に1回以上」の割合が高くなっています。
- ・子の有無別でみると、小学生か中学生の子供がいる方で学校に行く頻度が高くなっています。

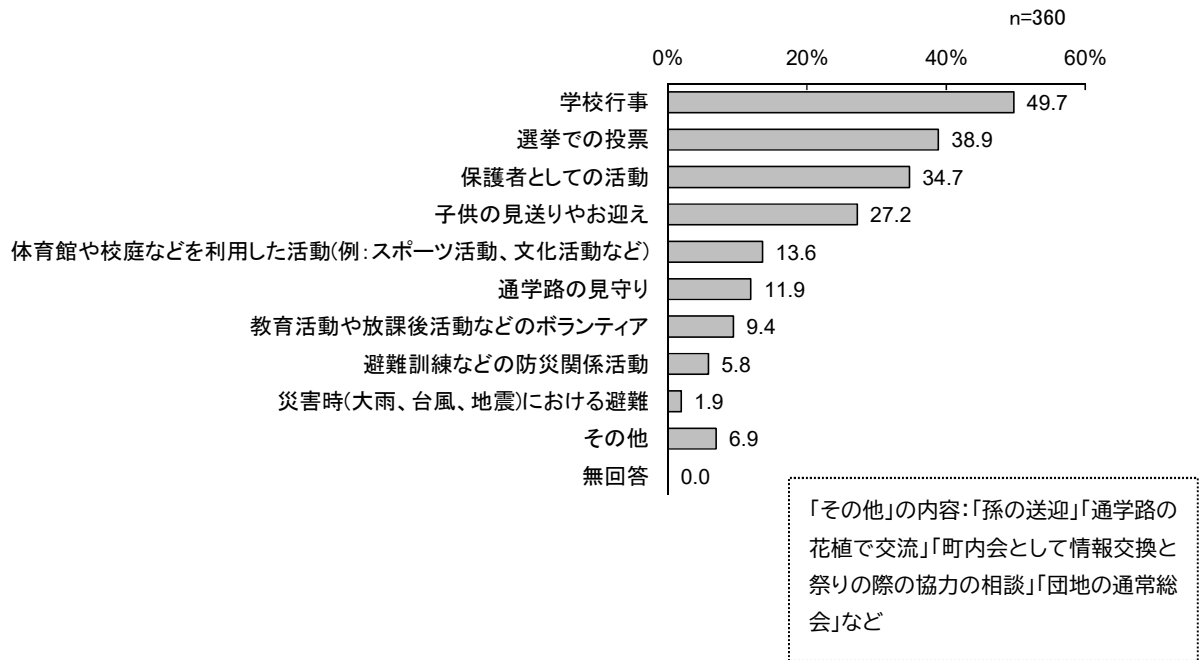
		合計 (人)	週 1 回 以上	月 1 回 以上	以 半 年 に 1 回	い 1 回 も 行 っ て	無 回 答
全体		999	4.4	6.9	24.7	62.9	1.1
年 齢	18～29歳	75	1.3	1.3	6.7	90.7	0.0
	30～39歳	161	3.1	9.3	30.4	55.9	1.2
	40～49歳	181	11.6	14.9	37.0	35.9	0.6
	50～59歳	139	2.9	9.4	24.5	63.3	0.0
	60～69歳	202	4.5	4.0	20.8	70.8	0.0
	70歳以上	232	1.7	2.2	20.3	72.8	3.0
居 住 地 区	印西中学校区	109	10.1	6.4	14.7	67.0	1.8
	船穂中学校区	76	5.3	1.3	36.8	55.3	1.3
	木刈中学校区	206	3.4	4.9	32.0	57.8	1.9
	小林中学校区	87	2.3	4.6	19.5	73.6	0.0
	原山中学校区	111	2.7	13.5	26.1	57.7	0.0
	西の原中学校区	159	3.8	4.4	27.0	64.8	0.0
	印旛中学校区	108	2.8	9.3	19.4	67.6	0.9
	本埜中学校区	24	8.3	0.0	16.7	75.0	0.0
	滝野中学校区	104	5.8	14.4	18.3	61.5	0.0
	居 住 期 間	1年未満	32	0.0	3.1	3.1	93.8
1年以上5年未満		106	3.8	8.5	20.8	67.0	0.0
5年以上10年未満		118	4.2	16.9	36.4	42.4	0.0
10年以上20年未満		213	6.6	7.5	31.0	54.0	0.9
20年以上30年未満		202	3.5	5.4	19.8	70.8	0.5
30年以上	325	4.3	3.7	22.8	67.4	1.8	
子 の 有 無	小学校入学前の子供がいる	163	4.3	9.8	30.7	54.0	1.2
	小学生の子供がいる	161	12.4	23.0	55.3	8.7	0.6
	中学生の子供がいる	76	14.5	15.8	56.6	13.2	0.0
	いない	688	2.2	3.1	17.7	76.2	0.9

単位：%

問17 問16で「1～3」と答えられた方にお聞きします。あなたは市立小・中学校にどのような理由で行きましたか。(〇はいくつでも)

【全体】

・「学校行事」の割合が49.7%と最も高く、次いで「選挙での投票」が38.9%、「保護者としての活動」が34.7%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	子供の見送りやお迎え	98	27.2
2	保護者としての活動	125	34.7
3	通学路の見守り	43	11.9
4	教育活動や放課後活動などのボランティア	34	9.4
5	学校行事	179	49.7
6	選挙での投票	140	38.9
7	災害時(大雨、台風、地震)における避難	7	1.9
8	避難訓練などの防災関係活動	21	5.8
9	体育館や校庭などを利用した活動(例:スポーツ活動、文化活動など)	49	13.6
10	その他	25	6.9
	無回答	0	0.0
	回答者数	360	
	非該当者数	639	

(%は、回答者360人に対する比率)

【属性別】

- ・年齢別でみると、「子供の見送りやお迎え」「保護者としての活動」「学校行事」は30～59歳で高く、「選挙での投票」は60歳以上、「避難訓練などの防災関係活動」は70歳以上で高くなっています。
- ・居住地区別でみると、西の原中学校区、滝野中学校区で「学校行事」、船穂中学校区、木刈中学校区で「選挙での投票」、原山中学校区で「保護者としての活動」の割合がやや高くなっています。
- ・居住期間別でみると、5年以上20年未満の方で「保護者としての活動」「学校行事」、20年以上の方で「選挙での投票」「体育館や校庭などを利用した活動」の割合が高くなっています。
- ・子の有無別でみると、子供が“いない”方よりも“いる”方で「子供の見送りやお迎え」「保護者としての活動」「学校行事」の割合が高くなっています。子供がいない方は「選挙での投票」「体育館や校庭などを利用した活動」の割合が高くなっています。

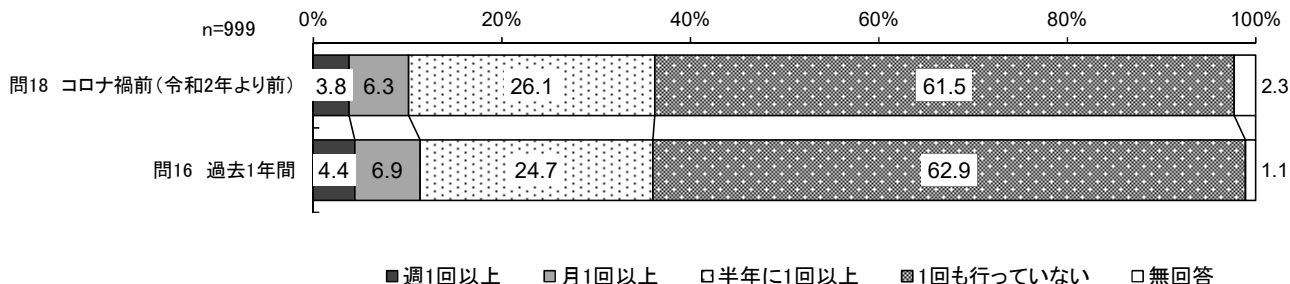
	合計（人）	子供の見送りやお迎え	保護者としての活動	通学路の見守り	の教育活動や放課後活動など	学校行事	選挙での投票	災害時（大雨、台風、地震）における避難	避難訓練などの防災関係活動	活動（例：スポーツ活動など）	体育館や校庭などを利用した	その他	無回答
全体	360	27.2	34.7	11.9	9.4	49.7	38.9	1.9	5.8	13.6	6.9	0.0	
年齢	18～29歳	7	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0	
	30～39歳	69	44.9	52.2	15.9	5.8	63.8	31.9	0.0	4.3	7.2	1.4	0.0
	40～49歳	115	34.8	51.3	16.5	11.3	73.9	16.5	1.7	4.3	11.3	4.3	0.0
	50～59歳	51	21.6	45.1	11.8	13.7	54.9	43.1	2.0	2.0	17.6	3.9	0.0
	60～69歳	59	13.6	5.1	5.1	8.5	10.2	66.1	0.0	1.7	16.9	15.3	0.0
	70歳以上	56	12.5	3.6	7.1	8.9	25.0	57.1	7.1	19.6	17.9	10.7	0.0
居住地区	印西中学校区	34	41.2	29.4	5.9	11.8	44.1	14.7	5.9	2.9	14.7	14.7	0.0
	船穂中学校区	33	15.2	24.2	6.1	9.1	30.3	72.7	0.0	9.1	15.2	9.1	0.0
	木刈中学校区	83	24.1	27.7	16.9	9.6	38.6	57.8	2.4	8.4	15.7	4.8	0.0
	小林中学校区	23	26.1	34.8	8.7	4.3	47.8	47.8	4.3	4.3	8.7	4.3	0.0
	原山中学校区	47	27.7	44.7	19.1	6.4	57.4	44.7	2.1	4.3	12.8	8.5	0.0
	西の原中学校区	56	26.8	35.7	7.1	5.4	64.3	37.5	0.0	8.9	7.1	5.4	0.0
	印旛中学校区	34	26.5	41.2	5.9	20.6	50.0	14.7	2.9	5.9	20.6	2.9	0.0
	本笠中学校区	6	33.3	33.3	0.0	16.7	50.0	33.3	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0
	滝野中学校区	40	35.0	40.0	17.5	10.0	62.5	2.5	0.0	0.0	12.5	7.5	0.0
居住期間	1年未満	2	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1年以上5年未満	35	37.1	28.6	20.0	5.7	42.9	28.6	0.0	5.7	14.3	5.7	0.0
	5年以上10年未満	68	41.2	58.8	10.3	11.8	77.9	20.6	1.5	4.4	5.9	5.9	0.0
	10年以上20年未満	96	29.2	49.0	16.7	9.4	68.8	29.2	2.1	4.2	11.5	4.2	0.0
	20年以上30年未満	58	10.3	20.7	10.3	6.9	24.1	56.9	0.0	5.2	19.0	10.3	0.0
30年以上	100	22.0	14.0	6.0	11.0	29.0	54.0	4.0	9.0	18.0	9.0	0.0	
子の有無	小学校入学前の子供がいる	73	46.6	47.9	16.4	9.6	61.6	23.3	1.4	5.5	12.3	5.5	0.0
	小学生の子供がいる	146	46.6	57.5	19.9	9.6	76.0	12.3	0.7	4.8	8.9	2.7	0.0
	中学生の子供がいる	66	30.3	56.1	7.6	7.6	89.4	25.8	1.5	3.0	13.6	1.5	0.0
	いない	158	10.8	13.3	7.6	8.2	19.0	62.7	1.9	7.6	16.5	11.4	0.0

単位：%

問18 あなたは、コロナ禍前（令和2年より前）は1年間に市立小・中学校にどのくらいの頻度で行っていましたか。（○は1つ）

【全体】

・「1回も行っていない」の割合が61.5%と最も高く、次いで「半年に1回以上」が26.1%、「月1回以上」が6.3%などとなっています。問16と比較すると、「週1回以上」「月1回以上」「1回も行っていない」が微減に対し、「半年に1回以上」が微増となっています。



No.	選択肢	n	%
1	週1回以上	38	3.8
2	月1回以上	63	6.3
3	半年に1回以上	261	26.1
4	1回も行っていない	614	61.5
	無回答	23	2.3
	回答者数	999	

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・年齢別で見ると、18～39歳で「1回も行っていない」の割合が高くなっている一方、40～59歳で「週1回以上」、特に40～49歳では「月1回以上」や「半年に1回以上」の割合も高くなっています。
- ・居住地区別で見ると、印西中学校区、本埜中学校区で「週1回以上」、木刈中学校区、船穂中学校区で「半年に1回以上」の割合が高くなっています。
- ・居住期間別で見ると、5年以上10年未満の方で「月1回以上」、10年以上20年未満の方で「半年に1回以上」の割合が高くなっています。
- ・子の有無別で見ると、小学生か中学生の子供がいる方で学校に行く頻度が高くなっています。

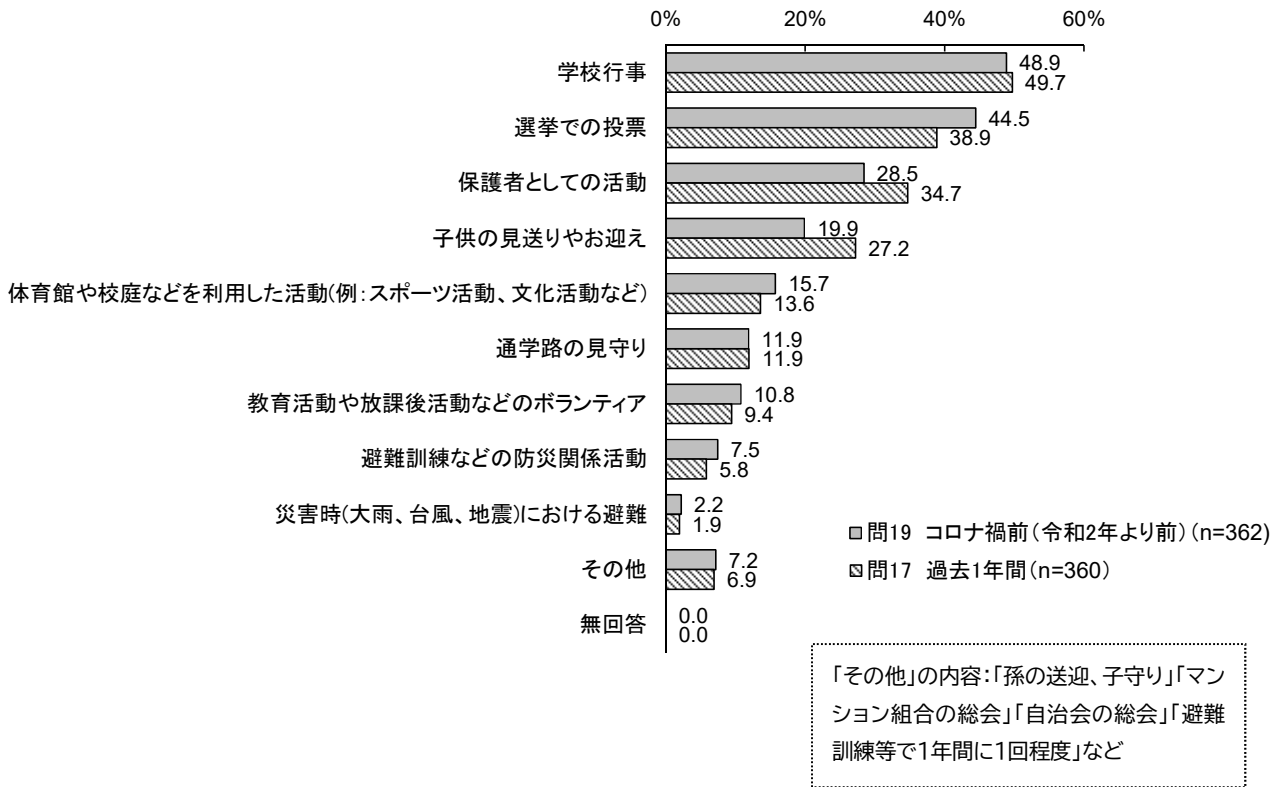
		合計 (人)	週 1 回 以上	月 1 回 以上	以 半 年 に 1 回	い 1 回 も 行 っ て い な い	無 回 答
全体		999	3.8	6.3	26.1	61.5	2.3
年 齢	18～29歳	75	2.7	0.0	9.3	88.0	0.0
	30～39歳	161	1.2	5.6	21.7	70.2	1.2
	40～49歳	181	7.2	14.9	35.9	40.9	1.1
	50～59歳	139	7.2	7.9	26.6	56.1	2.2
	60～69歳	202	2.5	4.5	27.7	63.9	1.5
	70歳以上	232	2.6	3.0	25.0	64.2	5.2
居 住 地 区	印西中学校区	109	8.3	5.5	18.3	65.1	2.8
	船穂中学校区	76	7.9	7.9	32.9	48.7	2.6
	木刈中学校区	206	2.9	5.8	35.0	52.9	3.4
	小林中学校区	87	2.3	5.7	25.3	65.5	1.1
	原山中学校区	111	1.8	9.9	26.1	61.3	0.9
	西の原中学校区	159	1.3	4.4	26.4	66.7	1.3
	印旛中学校区	108	3.7	7.4	25.0	61.1	2.8
	本埜中学校区	24	8.3	0.0	20.8	70.8	0.0
	滝野中学校区	104	4.8	7.7	16.3	70.2	1.0
居 住 期 間	1年未満	32	0.0	3.1	0.0	96.9	0.0
	1年以上5年未満	106	1.9	1.9	14.2	80.2	1.9
	5年以上10年未満	118	2.5	15.3	22.9	59.3	0.0
	10年以上20年未満	213	6.1	9.9	32.9	48.8	2.3
	20年以上30年未満	202	3.5	3.5	27.2	64.9	1.0
	30年以上	325	4.0	4.3	28.6	59.4	3.7
子 の 有 無	小学校入学前の子供がいる	163	3.1	3.7	23.3	68.7	1.2
	小学生の子供がいる	161	7.5	18.6	39.8	33.5	0.6
	中学生の子供がいる	76	10.5	25.0	51.3	13.2	0.0
	いない	688	2.6	2.6	23.0	69.2	2.6

単位: %

問19 問18で「1～3」と答えられた方にお聞きします。あなたは市立小・中学校にどのような理由で行きましたか。(〇はいくつでも)

【全体】

・「学校行事」の割合が48.9%と最も高く、次いで「選挙での投票」が44.5%、「保護者としての活動」が28.5%などとなっています。問17と比較すると、コロナ禍前は「選挙での投票」「体育館や校庭などを利用した活動」の割合が高く、過去1年間では「保護者としての活動」「子供の見送りやお迎え」の割合が高くなっています。



No.	選択肢	n	%
1	子供の見送りやお迎え	72	19.9
2	保護者としての活動	103	28.5
3	通学路の見守り	43	11.9
4	教育活動や放課後活動などのボランティア	39	10.8
5	学校行事	177	48.9
6	選挙での投票	161	44.5
7	災害時(大雨、台風、地震)における避難	8	2.2
8	避難訓練などの防災関係活動	27	7.5
9	体育館や校庭などを利用した活動(例:スポーツ活動、文化活動など)	57	15.7
10	その他	26	7.2
	無回答	0	0.0
	回答者数	362	
	非該当者数	637	

(%は、回答者362人に対する比率)

【属性別】

- ・年齢別でみると、「子供の見送りやお迎え」「保護者としての活動」「学校行事」は30～59歳で高く、「選挙での投票」は60歳以上、「避難訓練などの防災関係活動」は70歳以上で高くなっています。
- ・居住地区別でみると、滝野中学校区、西の原中学校区で「学校行事」、船穂中学校区、木刈中学校区で「選挙での投票」、西の原中学校区、原山中学校区で「保護者としての活動」の割合がやや高くなっています。
- ・居住期間別でみると、5年以上20年未満の方で「保護者としての活動」「学校行事」、20年以上の方で「選挙での投票」「体育館や校庭などを利用した活動」の割合が高くなっています。
- ・子の有無別でみると、子供が“いない”方よりも“いる”方で「子供の見送りやお迎え」「保護者としての活動」「学校行事」の割合が高くなっています。子供がいない方は「選挙での投票」の割合が高くなっています。

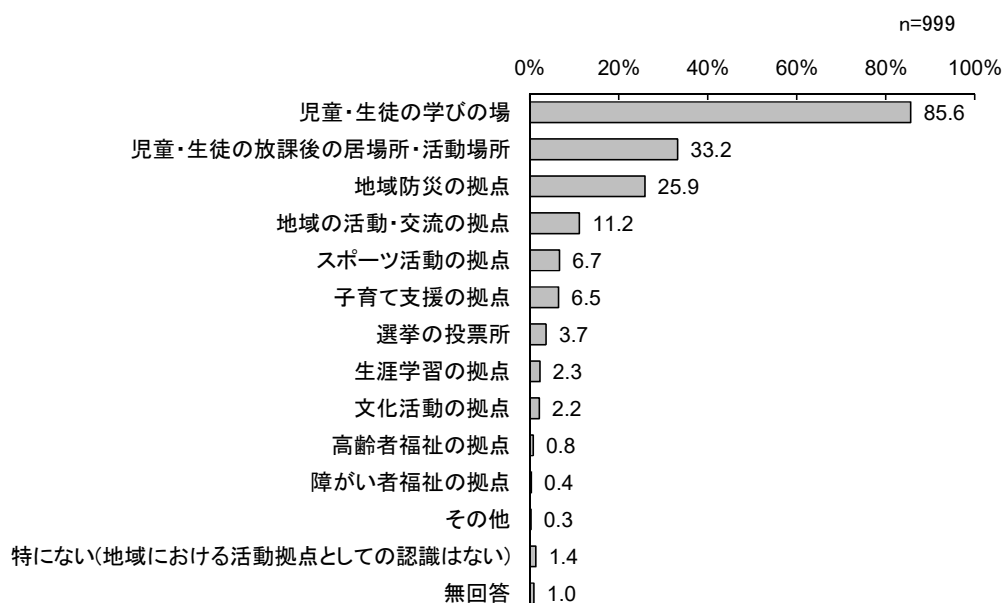
	合計（人）	子供の見送りやお迎え	保護者としての活動	通学路の見守り	の教育活動や放課後活動などのボランティア	学校行事	選挙での投票	に災害時（大雨、台風、地震）における避難	避難訓練などの防災関係活動	文化活動（例：スポーツ活動など）	体育館や校庭などを利用した活動	その他	無回答
全体	362	19.9	28.5	11.9	10.8	48.9	44.5	2.2	7.5	15.7	7.2	0.0	
年齢	18～29歳	9	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	55.6	0.0	0.0	11.1	33.3	0.0
	30～39歳	46	21.7	34.8	13.0	8.7	50.0	43.5	0.0	4.3	13.0	6.5	0.0
	40～49歳	105	31.4	54.3	16.2	12.4	79.0	18.1	1.9	3.8	12.4	1.9	0.0
	50～59歳	58	27.6	44.8	13.8	13.8	63.8	36.2	1.7	5.2	20.7	3.4	0.0
	60～69歳	70	5.7	2.9	5.7	5.7	14.3	71.4	4.3	7.1	15.7	10.0	0.0
	70歳以上	71	12.7	1.4	11.3	12.7	32.4	60.6	2.8	18.3	19.7	12.7	0.0
居住地区	印西中学校区	35	34.3	25.7	11.4	14.3	51.4	25.7	2.9	0.0	17.1	14.3	0.0
	船穂中学校区	37	13.5	18.9	10.8	13.5	35.1	70.3	0.0	13.5	18.9	2.7	0.0
	木刈中学校区	90	16.7	28.9	13.3	7.8	38.9	61.1	0.0	7.8	13.3	6.7	0.0
	小林中学校区	29	24.1	17.2	17.2	3.4	51.7	48.3	10.3	10.3	6.9	13.8	0.0
	原山中学校区	42	14.3	38.1	19.0	19.0	52.4	54.8	2.4	9.5	21.4	4.8	0.0
	西の原中学校区	51	17.6	39.2	5.9	3.9	60.8	43.1	0.0	3.9	7.8	3.9	0.0
	印旛中学校区	39	17.9	23.1	2.6	12.8	43.6	20.5	5.1	5.1	25.6	7.7	0.0
	本荻中学校区	7	28.6	14.3	0.0	14.3	42.9	28.6	14.3	0.0	42.9	0.0	0.0
	滝野中学校区	30	30.0	26.7	20.0	16.7	70.0	3.3	0.0	13.3	13.3	10.0	0.0
居住期間	1年未満	1	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1年以上5年未満	19	21.1	31.6	21.1	5.3	42.1	36.8	0.0	0.0	5.3	10.5	0.0
	5年以上10年未満	48	27.1	47.9	10.4	20.8	75.0	27.1	2.1	8.3	12.5	6.3	0.0
	10年以上20年未満	104	25.0	44.2	13.5	10.6	69.2	27.9	1.0	3.8	14.4	3.8	0.0
	20年以上30年未満	69	10.1	18.8	11.6	5.8	26.1	62.3	0.0	11.6	18.8	8.7	0.0
30年以上	120	17.5	11.7	9.2	10.8	34.2	56.7	5.0	9.2	18.3	9.2	0.0	
子の有無	小学校入学前の子供がいる	49	22.4	26.5	8.2	4.1	46.9	38.8	2.0	2.0	18.4	8.2	0.0
	小学生の子供がいる	106	38.7	51.9	18.9	11.3	79.2	13.2	2.8	3.8	12.3	0.9	0.0
	中学生の子供がいる	66	33.3	63.6	15.2	9.1	87.9	25.8	0.0	7.6	13.6	0.0	0.0
	いない	194	8.2	10.8	8.8	9.8	27.3	61.9	2.1	8.8	16.5	10.8	0.0

単位：%

問20 市立小・中学校がこれまで地域で担ってきた役割の中で、特に重要だと考えるものを教えてください。(〇は2つまで)

【全体】

・「児童・生徒の学びの場」の割合が85.6%と最も高く、次いで「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所」が33.2%、「地域防災の拠点」が25.9%などとなっています。



No.	選択肢	n	%
1	児童・生徒の学びの場	855	85.6
2	児童・生徒の放課後の居場所・活動場所	332	33.2
3	地域防災の拠点	259	25.9
4	選挙の投票所	37	3.7
5	地域の活動・交流の拠点	112	11.2
6	スポーツ活動の拠点	67	6.7
7	文化活動の拠点	22	2.2
8	生涯学習の拠点	23	2.3
9	子育て支援の拠点	65	6.5
10	高齢者福祉の拠点	8	0.8
11	障がい者福祉の拠点	4	0.4
12	その他	3	0.3
13	特にない(地域における活動拠点としての認識はない)	14	1.4
	無回答	10	1.0
	回答者数	999	

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・年齢別でみると、40～49歳で「児童・生徒の遊び場」、30～49歳で「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所」、50～59歳で「地域防災の拠点」の割合がやや高くなっています。
- ・居住地区別でみると、原山中学校区、木刈中学校区、西の原中学校区で「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所」、小林中学校区で「地域防災の拠点」の割合がやや高くなっています。
- ・居住期間別でみると、1年未満の方で「子育て支援の拠点」、1年以上5年未満の方で「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所」、5年以上10年未満の方で「児童・生徒の学びの場」、20年以上30年未満の方で「地域防災の拠点」「地域活動・交流の拠点」の割合がやや高くなっています。
- ・子の有無別でみると、子供が“いない”方よりも“いる”方で「児童・生徒の学びの場」、小学校入学前の子供がいる方で「子育て支援の拠点」、小学生以下の子供がいる方で「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所」、中学生の子供がいる方で「スポーツ活動の拠点」の割合が高くなっています。一方、子供がいない方では「地域防災の拠点」の割合が高くなっています。

	合計（人）	児童・生徒の学びの場	児童・生徒の放課後の居場所・活動場所	地域防災の拠点	選挙の投票所	地域の活動・交流の拠点	スポーツ活動の拠点	文化活動の拠点	生涯学習の拠点	子育て支援の拠点	高齢者福祉の拠点	障がい者福祉の拠点	その他	活動拠点として（地域における）	特になし（地域における）	無回答
全体	999	85.6	33.2	25.9	3.7	11.2	6.7	2.2	2.3	6.5	0.8	0.4	0.3	1.4	1.0	
年齢	18～29歳	75	80.0	33.3	24.0	0.0	12.0	9.3	4.0	5.3	5.3	0.0	1.3	1.3	5.3	0.0
	30～39歳	161	88.2	39.1	24.2	1.2	12.4	6.8	3.7	0.6	8.1	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6
	40～49歳	181	91.2	39.2	24.3	1.1	7.2	7.2	1.1	2.2	6.1	1.1	0.6	0.0	0.0	0.6
	50～59歳	139	87.8	30.2	31.7	2.9	9.4	7.2	1.4	3.6	7.9	0.0	0.7	0.0	1.4	0.0
	60～69歳	202	83.7	34.2	28.2	7.4	13.4	5.4	2.0	3.0	5.4	0.5	0.5	0.0	0.5	0.0
	70歳以上	232	81.9	25.0	23.7	5.6	12.5	6.5	2.2	1.3	6.5	2.2	0.0	0.9	2.6	3.4
居住地区	印西中学校区	109	79.8	24.8	21.1	3.7	12.8	10.1	2.8	2.8	9.2	0.9	0.9	0.0	3.7	1.8
	船穂中学校区	76	82.9	30.3	25.0	7.9	11.8	6.6	2.6	3.9	3.9	1.3	0.0	1.3	1.3	2.6
	木刈中学校区	206	86.9	38.8	27.2	3.9	8.7	6.3	3.4	1.0	6.8	1.5	0.5	0.0	1.5	1.5
	小林中学校区	87	83.9	21.8	36.8	1.1	5.7	5.7	0.0	2.3	9.2	0.0	0.0	1.1	4.6	1.1
	原山中学校区	111	86.5	39.6	21.6	3.6	14.4	5.4	0.0	3.6	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
	西の原中学校区	159	85.5	38.4	25.8	3.1	11.9	6.3	3.1	1.3	6.9	1.3	0.6	0.6	0.0	0.0
	印旛中学校区	108	88.0	34.3	25.9	6.5	11.1	5.6	0.9	2.8	3.7	0.9	0.0	0.0	0.9	0.0
	本笠中学校区	24	83.3	12.5	25.0	4.2	25.0	16.7	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
滝野中学校区	104	91.3	32.7	26.0	1.0	11.5	5.8	3.8	1.9	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
居住期間	1年未満	32	84.4	37.5	12.5	0.0	9.4	6.3	6.3	0.0	15.6	0.0	0.0	3.1	3.1	0.0
	1年以上5年未満	106	86.8	43.4	23.6	0.9	9.4	8.5	1.9	1.9	7.5	0.0	0.9	0.0	0.9	0.9
	5年以上10年未満	118	92.4	34.7	22.9	0.8	8.5	3.4	1.7	1.7	10.2	0.8	0.0	0.0	1.7	0.0
	10年以上20年未満	213	86.9	38.5	26.8	3.3	6.6	5.2	1.9	2.8	5.6	0.9	0.0	0.0	1.4	0.9
	20年以上30年未満	202	83.7	30.2	31.7	4.0	18.8	9.4	2.0	2.5	4.0	0.0	1.0	0.0	0.5	0.5
30年以上	325	83.4	27.7	25.2	6.2	11.4	6.8	2.5	2.5	6.2	1.5	0.3	0.6	1.8	1.5	
子の有無	小学校入学前の子供がいる	163	92.0	38.7	17.2	1.2	11.7	6.7	1.2	1.8	12.3	0.0	0.6	0.0	0.0	1.2
	小学生の子供がいる	161	90.7	36.6	19.3	1.2	7.5	7.5	2.5	1.9	5.0	2.5	0.0	0.0	1.2	0.6
	中学生の子供がいる	76	92.1	25.0	21.1	2.6	5.3	13.2	1.3	0.0	7.9	3.9	0.0	0.0	1.3	0.0
	いない	688	82.7	32.7	28.9	4.8	11.9	6.1	2.5	2.8	5.5	0.6	0.4	0.4	1.7	1.0

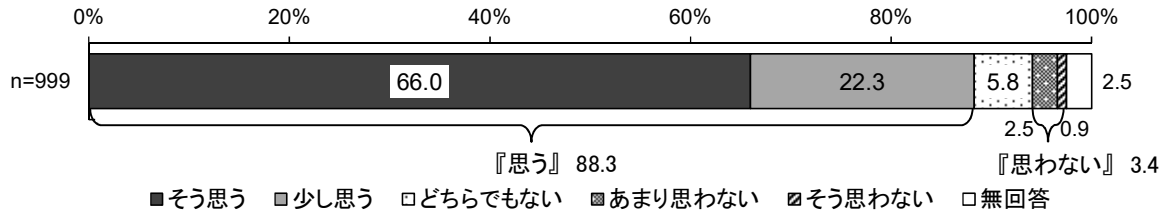
単位：%

問21 あなたは適正な学校規模に基づく適正な配置を進めていくことが必要だと思われますか。

(○は1つ)

【全体】

- ・「そう思う」(66.0%)と「少し思う」(22.3%)を合わせた『思う』の割合が88.3%に対し、「あまり思わない」(2.5%)と「そう思わない」(0.9%)を合わせた『思わない』は3.4%、「どちらでもない」は5.8%となっています。



No.	選択肢	n	%
1	そう思う	659	66.0
2	少し思う	223	22.3
3	どちらでもない	58	5.8
4	あまり思わない	25	2.5
5	そう思わない	9	0.9
	無回答	25	2.5
	回答者数	999	

(%は、回答者999人に対する比率)

【属性別】

- ・年齢別で見ると、30～39歳や50～59歳で『思う』の割合がやや高くなっています。
- ・居住地区別で見ると、滝野中学校区、原山中学校区で『思う』、船穂中学校区、印旛中学校区で『思わない』の割合がやや高くなっています。
- ・居住期間別で見ると、1年以上5年未満の方で『思う』の割合がやや高くなっています。
- ・子の有無別で見ると、子供が“いない”方よりも“いる”方で『思う』の割合が高くなっています。

	合計(人)	『思う』					『思わない』			
		そう思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	そう思わない	無回答	『思う』	『思わない』	
全体	999	66.0	22.3	5.8	2.5	0.9	2.5	88.3	3.4	
年齢	18～29歳	75	56.0	34.7	5.3	4.0	0.0	0.0	90.7	4.0
	30～39歳	161	67.7	25.5	5.0	0.0	1.2	0.6	93.2	1.2
	40～49歳	181	68.5	21.0	7.7	1.1	1.1	0.6	89.5	2.2
	50～59歳	139	66.2	26.6	4.3	2.2	0.7	0.0	92.8	2.9
	60～69歳	202	62.9	20.8	7.9	4.0	1.5	3.0	83.7	5.5
	70歳以上	232	69.0	15.9	3.9	3.9	0.4	6.9	84.9	4.3
居住地区	印西中学校区	109	55.0	26.6	11.0	3.7	0.0	3.7	81.6	3.7
	船穂中学校区	76	71.1	15.8	3.9	3.9	2.6	2.6	86.9	6.5
	木川中学校区	206	64.1	23.8	5.3	2.9	0.5	3.4	87.9	3.4
	小林中学校区	87	59.8	23.0	8.0	3.4	0.0	5.7	82.8	3.4
	原山中学校区	111	73.0	21.6	1.8	2.7	0.9	0.0	94.6	3.6
	西の原中学校区	159	69.8	22.0	5.0	0.0	1.9	1.3	91.8	1.9
	印旛中学校区	108	66.7	18.5	6.5	4.6	1.9	1.9	85.2	6.5
	本荳中学校区	24	66.7	20.8	8.3	0.0	0.0	4.2	87.5	0.0
	滝野中学校区	104	70.2	25.0	3.8	1.0	0.0	0.0	95.2	1.0
居住期間	1年未満	32	68.8	12.5	15.6	0.0	3.1	0.0	81.3	3.1
	1年以上5年未満	106	66.0	29.2	2.8	0.0	1.9	0.0	95.2	1.9
	5年以上10年未満	118	75.4	16.9	5.9	0.8	0.0	0.8	92.3	0.8
	10年以上20年未満	213	67.1	23.9	2.8	3.3	0.9	1.9	91.0	4.2
	20年以上30年未満	202	62.4	24.8	7.4	2.5	0.0	3.0	87.2	2.5
30年以上	325	64.0	20.6	6.8	3.7	1.2	3.7	84.6	4.9	
子の有無	小学校入学前の子供がいる	163	70.6	23.9	1.2	1.8	0.6	1.8	94.5	2.4
	小学生の子供がいる	161	73.3	19.3	5.0	1.9	0.6	0.0	92.6	2.5
	中学生の子供がいる	76	71.1	23.7	5.3	0.0	0.0	0.0	94.8	0.0
	いない	688	63.8	22.1	7.1	3.1	1.0	2.9	85.9	4.1

単位: %

4 自由回答

問22 学校の適正規模・適正配置について、ご意見をご自由にお書きください。(特にない場合、記入は不要です。)

・学校の適正規模・適正配置について、意見等を自由に記入していただいたところ、999人中248人の方から回答がありました。以下、寄せられた意見について、内容別に掲載します。なお、複数の内容について、記述がある場合には、主な内容で分類しています。

1 市の学校適正配置の方針、考え方について

- ◆ある程度仕方ない問題だと思う。学区の学校に行かせたくないなら私立という選択肢もある。市としてはなるべく予算がかからない方向で進めてほしい。違った形で浮いた予算を市民に還元してほしい。(18～29歳、印西中学校区、20年以上30年未満)
- ◆私は今の学校の様子はわかりませんが、学校を維持するのもお金がかかり、増やすのもお金がかかることはわかりますので、大人の事情で子どもたちにストレスを与えることはしないで下さい。マンモス校で学びたい子どもはマンモス校へ、マンモス校が嫌いな子どもたちは小規模校へ。学校に行くのが嫌な子どもはオンラインで。不登校の子どもは地域で学びの場をつくってあげてください。町内の集会所を利用するなどして。なぜ子どもたちがいないのか、それは都会に出て行ってしまうからです。だからお年寄りしか残りません。もっと村を魅力的にして、ファミリー層に来てほしいです。それには田園マンションを建設したり、田畑付きの一戸建て、田んぼ付きの一戸建てなどを誘致したら子どもたちを増やせると思います。色々問題はありますが、田舎の人はよそ者は嫌いなので。(50～59歳、印西中学校区、30年以上)
- ◆推進していくことに賛成します。(70歳以上、印西中学校区、30年以上)
- ◆これからのことを考えて適正規模、配置は大事だと思います。(70歳以上、印西中学校区、30年以上)
- ◆新住民から古い学校に行かせたくないということを聞いた。お金があるなら新しく建てるべき。(40～49歳、船穂中学校区、30年以上)
- ◆小中学校の統廃合にあわせて校舎、校庭や体育館、プール等の共有化も進める必要がある。共有化により専門知識を持った人材の活用を進めて教職員の負担軽減を図る。スクールバスの導入により安全な通学路も進めやすくなる。(60～69歳、船穂中学校区、30年以上)
- ◆クラス数が多いだけになり、中学校での内申点の差や先生方のばらつきなどが発生し、その後の進路が変わるのではないかと心配です。学区によっては遠くから来ている子どもたちもいて、学区割りは本当に適正なのか疑問に思います。戸神から木刈中など遠いですが安全なのでしょう？よく迎えに来ている車がコンビニで停車しているところを見かけます。(30～39歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆人口増加により急にマンモス校になった学校と高齢化が進み過疎化が著しい地域の学校と二分化されているのはとても大きな問題だと思います。子どもたちが落ち着いて学べる場であったり、仲間たちとかけがえのない時を過ごす場である学校が、住んでいる地域によって差が大きいのは非常に残念です。それなりの人数だからこそ行える授業や課外授業があると思います。逆に先生の目が行き届きにくい環境は落ち着いて勉学に励むことは出来ないように思います。国単位でなく市内で起きているのであれば早急な改善と対応が必要だと思います。状況を改善してどの地域でも平等に楽しく通って学べること、より多くの仲間達と過ごすこと、母校がなくなることは重要です。また、地域としても特に過疎化が進み学校という場がなくなることは、コミュニティが減るだけでなく、活気の減少や周囲の企業や店舗の減少、災害時の避難場所の確保が難しい等の問題が生じることとなり、避けられない由々しき問題です。スクールバス等を整備し、同じ様な規模の学校に通学出来ることが大事だと思います。(30～39歳、木刈中学校区、30年以上)

- ◆少子高齢化が進むと言われているが、印西市においては人口減少だけでなく、増加による支障が出ているということを知ることが出来てよかった。というものの、税収増なども見込めていない中ではあるので既存施設の有効活用などで対応していくことが必要だと考える。(30～39歳、木刈中学校区、1年未満)
- ◆少子化に伴い、これまでの学校というあり方を見直す時期にきていると思います。学校は子どもの社会性を育み、能力を伸ばすことが目的だと思うので、従来の制度に囚われることなく子どもたちのためにあるべきだと思います。(30～39歳、木刈中学校区、1年未満)
- ◆空校舎の活用は重要だと思います。(30～39歳、木刈中学校区、30年以上)
- ◆予算が足りないなら、早急に統合を進めてスクールバス等の運行を含め子ども達が安全に通学出来るようにすべきだと思います。同時に、廃校になった学校を収入源に出来るような工夫やふるさと納税による収入アップ、クラウドファンディングを使った事業などを増やして子ども達の育てやすい環境づくりを常にしてほしい。10～30年後の印西市の人口年齢が高齢者過多にならないように施策してほしい。(40～49歳、木刈中学校区、5年以上10年未満)
- ◆千葉ニュータウン駅前に多くのタワーマンションが乱立している。学校不足などつくの前から素人でも予測出来ていたこと。衰退していく地域だと見当もついたはず。数年前本塾の方でも統合してスクールバスの運用などがありましたが、駅から離れた所はマンションなどが建つはずもなく人口が増える見込みは無し。464をこえての小学校通学は今でもありなのか。私の実家の学区も同じように、学区の調整などをしてほしい。かなり大変なお仕事になると思いますが早い方がいい。兄弟が違う学校に通うことにならないようにしてあげるべき。頑張ってください。(50～59歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆ニュータウンの一時的な増減は今に始まったことではないので、これまでと現状をふまれば答えは出るはず。高齢化する地域として学校のあり方をよく考えてほしい。(50～59歳、木刈中学校区、20年以上30年未満)
- ◆大切な児童、生徒の学びの場です。適正な配置をよろしくお願いします。(60～69歳、木刈中学校区、1年以上5年未満)
- ◆適正な配置は必要だと思うが、経済的なものだけで行われないように十分検討していただきたい。(60～69歳、木刈中学校区、30年以上)
- ◆周囲の子ども達の親世代とのふれあいが色々ありますが、昔と違い学校に通学出来ない子ども達のパーセントが増えています。1年間を通して同じ教室で学び学校に行けなくなってしまった子ども、同じクラスの友達のいじめで学校へ行けなくなってしまった子どもが現在非常に多いです。1年生では無理だと思いますが、その後の学年になったら子ども達が好きなように選んで、どこの教室で学んでもいいという学校教育の学びの場になってほしいです。学校が増えてしまうと通学時の子ども達の人数が減ってしまうと思います。バランスをとることはかなり大変だと思いますが、良い学びの場で楽しく行ける学校を望みます。(60～69歳、木刈中学校区、30年以上)
- ◆市の限られた予算を根本的に見直し、何にプライオリティを置くのか再検討してほしい。人口動態を見渡し、まずはゼロベースで学校の適正配置を規模で作成し、現状との比較検討は出来ないのでしょうか。(70歳以上、木刈中学校区、5年以上10年未満)
- ◆学校の適正規模、配置等色々あると思いますが、児童生徒が一生懸命勉強して楽しく過ごせるように配置していただきたいと思います。転校等により悲しむことのないように配慮していただきたいと願っております。(70歳以上、木刈中学校区、5年以上10年未満)
- ◆30年以上前、船橋市に住んでいました。小規模な集合住宅に住む子どもたちは徒歩20分以上かかる小学校へ通い、目の前の大きなマンションの子どもたちはもっと短時間で行ける小学校へ通っていました。小学校1年生だったので、通学路や踏切と遠い上に心配なことがたくさんありました。市に問合せでも人数の関係とのことでそのままでした。公平ではないとずっと不満に思っていました。何をしてもどこかで誰かの不満はあるものだと思います。学校の不足がいつまで続くのかを考えながら学校の配置をお願いします。10年、20年後

には誰も入学する児童生徒がいなくなるのではということになるべく避けてほしいです。近隣市の様子も参考に、子どもたちのために良い計画を行ってください。宜しくお願いします。(70歳以上、木刈中学校区、20年以上30年未満)

- ◆この様な問題は学校の校長と先生方で話し合ってください。(70歳以上、木刈中学校区、30年以上)
- ◆出生率の低下、少子化が予想以上な速さで進む今日、学校の適正規模、配置は避けて通れない重要な課題だと思います。(70歳以上、小林中学校区、30年以上)
- ◆学校により生徒数にかなりの違いがあるので、なんとかバランスよくできると良い。市内が同じ位になるように。(18~29歳、原山中学校区、10年以上20年未満)
- ◆保護者目線で考えると、家からの距離が近い学校の方が安心感はある。防犯面においても。しかし子どもにとっては学校が社会の場であることから、関わる人が多い方が様々な経験を積むことに繋がるのではないかなと思う。ただやはり母校がなくなってしまうのは悲しい。道の駅保田小学校のように違う形で地域に貢献出来るような場になると嬉しい。(18~29歳、原山中学校区、20年以上30年未満)
- ◆準適正規模校については、先生一人の負担が重いと思われるため、副担任制度や補助の先生を付けるなどして少人数クラスと同等の手厚さにしていただきたい。また東京電機大学の跡地を千葉ニュータウン駅前マンション群一体をカバー出来る小中一貫校を構想してほしい。(30~39歳、原山中学校区、5年以上10年未満)
- ◆児童、生徒、教職員にとって可能な限り、ある程度ゆとりのある規模や配置を最優先に検討してください。予算上制約や文科省により制約があると思いますが、教育は国家百年の計であり、人の人生でもっとも大事なことは子を教えることにつきますと思う。義務教育こそが最も大切だと思います。人格形成や人間関係の構築において。(50~59歳、原山中学校区、20年以上30年未満)
- ◆集団での教育が必要。大勢とのコミュニケーションの取り方を今の子ども達は知らなすぎる。先生に対する尊敬が保護者にないので子ども達にもない。先生は親の顔色を気にしすぎている。このままでは学校というものが不要でない世の中になりそう。塾やインターネット配信授業に頼り過ぎている。行政もそれを望んでいるように見える。(50~59歳、原山中学校区、30年以上)
- ◆子どもの人口は常に変動するので学校はそれに対応出来るように建設する必要がある。地域の避難所としても必要である。またドクターヘリのランデブー地点としても重要である。子どもの多いマンモス校もいずれ小規模になるので、適正な配置のスピードと行政の新設計画やハードな対応は時間的に間に合わない。子どもたちが安全に通学出来るよう、時間を効率的に出来るよう、スクールバスの導入や、小規模特認校制をうまく活用できないだろうか。小規模校が魅力アップするソフト面でのアイデアも必要か。(60~69歳、原山中学校区、20年以上30年未満)
- ◆資料を確認すると、本市では現在から令和10年度まで人口は増加傾向にあります。市の人口減少に伴い、学校等の統合や通学距離の改定は仕方ないと考えられますが、人口増加であるにもかかわらず、学校数を減少させなければならないのは市政に疑問を覚える。また居住地を決める際に学校までの距離やルートを考慮します。それらを重視して居住地を決定した住民からしたら、通学区域の変更や転校の可能性のあることに憤りを感じざるを得ない。本市は全国的に数少ない人口増加自治体です。学校数を増加させるくらいの市政をしなければ、たちまち人口減少自治体になると考えられます。本市の子どもたちを第一に考えた市政を心より願います。(30~39歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆義務教育学校については近隣の自治体で実施運用しており、一定の報告・成果が出ていると思われる。用地確保、財源等厳しい点や地域への理解が得られる課題はあると思うが、将来の事を見据えた決定をぜひ進めてもらいたい。・スクールバスでは遠方の子どもは朝何時くらいから乗車するのでしょうか。早ければその分保護者の負担は多くなると思います。時間的制約は保護者(働いている人は特に)にとって非常に気になるし、生活の軸となるのでしっかりと審議してほしいと思います。(スクールバス利用者に対してのアンケートとか

で)(30~39歳、西の原中学校区、30年以上)(30~39歳、西の原中学校区、30年以上)

- ◆小規模化、大規模化を満遍なく生徒数を配置出来ることが望ましいですが、住んでいる近くに小学校があるのであればご近所のお友達と一緒に通学させたいと思っています。ポストにも学校を選べるというチラシが入っていましたが、やはりバスがあったとしても近くの小学校へと思います。そして牧の原3丁目は滝野中が変更となり西の原中となりました。我が子が通学するのは6年後であります、西の原中はよく言えば「自由」であり、あまりいい話を聞かず、中学受験も視野に入れています。学びの環境が整っており、教員の適正配置が重要だと感じます。船穂小、本埜中のメリットが抽象的なので、もっと魅力的なメリットがあれば知りたいです。(30~39歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆子どもが住む地域に偏りがあり、小規模校が閉校され児童が充分にいる学校は大規模校の中でも特大大規模校になっていると感じます。子どもたちが十分な教育を受けられる場所、他の友達と関わりを持てる場所として学校の地区を考えるべきだと思います。その結果校舎が足らなくなって遊べる校庭が小さくなるのも間違いだと思います。(40~49歳、西の原中学校区、5年以上10年未満)
- ◆子どもたちがどう思っているのかが重要ではないでしょうか。(60~69歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆学校運営には多すぎず少なすぎず、適正な範囲内の学校数が望ましいと思う。(40~49歳、印旛中学校区、5年以上10年未満)
- ◆大人の都合(地域の拠点、高齢者の拠点、等)ではなく、通学する子ども(小学生、中学生)の都合を最大限優先してほしい。(50~59歳、印旛中学校区、20年以上30年未満)
- ◆宅地開発で新規の住宅まわりの小中学校の負担が大きくなっているように思われます。県や市は新規学校の新設も含めた開発が必要だと考えます。廃校になった施設の再利用も一考してほしいと思います。20年以上過ぎた住宅地では生徒の減少もあると思われます。複式学級になるのもいいと考えます。最近通学中の事故や事件の報道が多くなっています。通学途中での安全確保をお願いします。遠くからの通学は危険度が大きくなります。(60~69歳、印旛中学校区、10年以上20年未満)
- ◆人口増加に伴う適正な規模、配置は常にチェックすることが必要である。県内でも教員の不祥事が多いのでしっかり教育してほしい。(70歳以上、印旛中学校区、30年以上)
- ◆学校配置は住民の集中する中心から離して、住民の薄い地域との中間的な場所に配置するのが望ましいと思う。住宅地拡大のため。(60~69歳、本埜中学校区、30年以上)
- ◆児童・生徒が学習をするにあたり影響が少ないものを選んで進めていただきたい。(18~29歳、滝野中学校区、20年以上30年未満)
- ◆人口の増減予測に基づき適切な検討を願いたい。特に小学校のグラウンドは広く使えるようにしていただきたい。(30~39歳、滝野中学校区、1年未満)
- ◆宅地開発が進み子育て世代の移住が増えているので、学校は増えるのかと期待していましたが、減らす方向だと知り驚きました。狭い校舎や教室に子どもをたくさん詰め込むのは気の毒だし、感染症も広がりやすくなると思います。通学時間が長くなることも、また雨の日の自転車通学も事故の危険を高めることになり、子どもにとって負担です。国の問題にもなると思いますが、もっと子どもの教育に予算を使うべきではないでしょうか。(30~39歳、滝野中学校区、1年以上5年未満)
- ◆昔からあった小学校を廃校してしまったり、新しい学校は教室を増築したり、新住民地区は活性化されているが旧住民地区はどんどん衰えつつある。(30~39歳、滝野中学校区、30年以上)
- ◆財政不足はあってはならない。早急に学校統合が必要である。(40~49歳、滝野中学校区、1年未満)
- ◆少子化の社会にあって印西市は幸いにも子どもの数が増えており、学校規模、配置の適正化は欠かせないと思う。住みやすさで高評価を得ているまちには適正、健全な教育が提供されることが望まれる。今後益々市の

発展のためにも、子どもの教育には熱心に取り組んでいただくことを行政に期待します。(40～49歳、滝野中学校区、5年以上10年未満)

- ◆学舎の増築や転校をしていただく方々や色々なケースで変化を求められる子どもたちに対して配慮をしてもらいたい。出来れば特別なことではなく、本人たちの希望も反映するような学校生活を送れるといいと思います。通学のためにスクールバスなどの活用も考えてあげてほしいです。市内全域で子育て出来る方法が出来れば活発なまちになりますし、安全も進むのではと思います。色々な選択をしてもそれが当たり前、ありのままの学校生活を過ごして欲しいと考えています。(50～59歳、滝野中学校区、20年以上30年未満)
- ◆印西市の人口が急速に増加しています。小学校、中学校の増築が行われているところと、統廃合等を実施しないといけないところの差が大きいことに驚いています。存続可能な学校数のシミュレーションからも、今後の財源不足からも学校の適正配置を推進することは必要なことであり、早い期間で実施しなければならないということがわかりました。(60～69歳、滝野中学校区、20年以上30年未満)
- ◆ニュータウンという特性をふまえて、旧住民と新住民との地域において年齢や人数にばらつきが出てくるのは当然のことだと捉えています。そして現在全国的に大きな問題となっている少子化ですが、その中で印西市を選んで移転してきた子育て世代が期待しているのは、自然あふれる印西市で育てられる環境が整っているからだと思います。一番大切なのは未来を担う子どもたちの教育面でとても重要なことだと考えています。学校を取り巻く環境が大きく変化し、短期的には隣接校との統合、学校施設の増改築で対応出来ると思います。印西市の教育行政に関わる方々がいろいろな選択肢を考えながらもっと長期的な面も考慮した上で学校適正配置をし、安心して有意義な学校生活が送れますよう考えていく必要があると思います。(60～69歳、滝野中学校区、30年以上)
- ◆学校の適正配置を行うことにより教育予算を有効的に使えると思う。(70歳以上、滝野中学校区、10年以上20年未満)
- ◆子どもたちの学びや通学などあらゆる面で何がいいのかしっかりと考えて、何が一番いいか協議していく必要があると思います。(30～39歳、居住地区不明、1年未満)

2 学校適正規模について

①学校適正規模全般について

- ◆マンモス校での教育はどうかと思います。廃校にはせずスクールバスを使って田舎の自然の中で少人数教育もいいのではないかな。古い学校の維持費も大変なのですね。壊すのは勿体ないと思う。今後30年の財源を算出すると、学校に282億円、公共施設に114億円。(70歳以上、印西中学校区、30年以上)
- ◆あまり大人数だと運動会の時に低学年の子どもが順番を待つのに暑い中大変そうだった。印西の地域で学校に行くには大抵車で、1人1台となると駐車場がなくては困ります。少人数の学校をなくすと、卒業した子どもたちの心の痛みがあると思うし、幼い頃の友達と学んだ学校がなくなることはとてもひどいことだと思う。何百年と存続した学校で学んだので、学校のそばを通るたびに、子どもたちが母校で学んでいる、と心が和んでいると思う。(70歳以上、船穂中学校区、30年以上)
- ◆とても難しい問題だと思います。中学校目当てでマンションを選んでいる家庭もあると思うけど、適正規模にすることでその格差もなくなるかもしれない。小さな学校に特進コースみたいなものが出来れば受験用に移動したいです。(30～39歳、木刈中学校区、1年以上5年未満)
- ◆先生がクラスの生徒全員に目が行き届く人数で関わりが出来るくらいの人数になるように調整してもらいたい。一人の担任で見られる人数は限られている。(40～49歳、木刈中学校区、5年以上10年未満)
- ◆スマホやゲーム、有料テレビ等により外での活動や人との関わりが減っているので、たくさんの人との出会いや刺激等がとても重要だと思います。適正の規模で多くの学びに繋がるよう、教育環境を整備してほしい。通

学が困難な方には市バス(スクールバス)、自転車等で解決すればいいと思うし、生徒が少ない学校への経費は減らすべきだと考えます。(40~49歳、木刈中学校区、30年以上)

- ◆その地域や学区の長い中期的な人口の増減予測などを行い、それに合わせた施設の計画を行わなければ、大規模校を増改築しても当面の対応にしかならないと思う。いずれは無駄な施設とならないようにしてほしい。人口減の地域については、子どもの増加は難しいであろうから、従来型の毎日通学するスタイルの抜本的な見直しが必要だと考えます。(50~59歳、木刈中学校区、5年以上10年未満)
- ◆教員の目の届く規模。(70歳以上、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆このままでは、40学級前後の小学校が3つ生まれる。子供の特性を重視した学びの「時間」と「空間」の多様化。アンケートの問題点。小規模校について。・統廃合で小学校がなくなった地域は、若者の定住を阻害し確実に衰退する。・小規模小学校では、地域と親しく自然と親しい学校を創造しやすく、そのような学校は印西市のアピールポイントになる。過大規模校について。・24学級用に計画された学校を増築で使いこなすのは30学級が限界。・過大規模校という劣悪な教育環境に児童・生徒を置くことは、行政による児童・生徒の虐待に等しい。・本来教育が果たすべき「一人一人を見守り、可能性をのばす」ことは不可能。(70歳以上、木刈中学校区、20年以上30年未満)
- ◆長女は大規模校に通学しています。次女は小規模校に通学しています。各々長所や短所を娘達から聞いています。単純ではない事象があると思います。当事者たちの意見等も十分吸収していただきたいと思います。よろしくをお願いします。(60~69歳、小林中学校区、30年以上)
- ◆小中学校の一番大切な時期には、適正な子どもの人数の関わりが重要だと思います。少なすぎても多すぎても色々な問題が出てくるので、全ての学校が適正規模になることを望みます。私の子どもたちは準適正規模校ですが、それでも男女の比率に差があり同性のお友達が少ないです。学年にもよると思いますが。クラスに同性の子が7~8人くらいなので、もう少し色々な子どもと関わるといいなと思います。小規模校の子どもはもっとそう思っているのではと思います。(40~49歳、原山中学校区、5年以上10年未満)
- ◆印西市の中で小規模校と大規模校での人数差は激しいと考えます。統合、転校等の対応で適正な規模にしてほしいです。その場合に通学時間が長くなる等があればスクールバスを運行して子どもの安全を確保していただきたいです。(30~39歳、西の原中学校区、1年未満)
- ◆隣接校も生徒が少なくなり、今後増える可能性のない学校は閉校すべきかと思います。スクールバスを運行し他校へ転校、または希望する生徒は中小規模校をどんどん選べるようにしてほしいと思います。維持に費用がかかるので。教師一人に対して生徒10人のところと35人超えのところ等差があり過ぎます。校長、教頭、事務、用務員、配膳員、給食の配達、このあたりの費用を考えても本埜、六合、平賀、船穂、本埜中は閉校すべきだと思います。逆に草深小を草深小中学校として復活すべきだと思います。子育て広場となっていますが、交通の便が悪すぎて足が遠のきました。本埜や船穂を子育てや文化、コミュニティの場とすべきです。西の原中、滝野中の人口増、滝野学区が西の原学区になり生徒数の増加。先生方の目も届かずトラブルが多発しているのは間違いないです。そして先生方の威圧的な雰囲気もよろしくないと思います。多すぎて余裕がなくなればもっとひどくなるでしょう。6年前の事件がまた起こらないことを祈りたいです。余裕を持って子ども達と接することが出来る学校作りをお願いします。自信を持って世の中に羽ばたける子どもがたくさん増えますように。(40~49歳、西の原中学校区、5年以上10年未満)
- ◆大規模校の一番の問題点は、教育の質が落ちていること。施設の問題だけではありません。大人数の場合、規則や規制で管理もままならず、その教育方法に反発する生徒やついていけない生徒が多くなり、そして学級崩壊、人間関係の希薄化、いじめ・不登校・登校拒否・教師の過重負担により精神的な疾患を患う割合も非常に高くなり、生徒に目が行き届かない。これらによって事件や犯罪が多くなり治安悪化を招くのは大げさなことではありません。現に事件が起こり報道されました。治安維持費が増え住みにくいまちになることも考えてください。よってこれからは増改築を繰り返して更なる大規模校にすることは反対です。逆に過小規模校の問題改善のため、小規模特認校の実施、スクールバスの導入等を早急に進めてください。WHOでは小規模

校が望ましいとしています。小規模校の特色を増やすよう、他校や大学、民間教育施設などと連携してプログラミングや英語、生物や化学、スポーツを学ぶことができるように教育の質を上げてほしい。そして地域や経済が活性化するようにしてもらいたい。持続可能な学校数のシミュレーションですが、維持管理費は年数が経てば必要になるもので、財政を理由に統合を進めるのは安易な考えだと思う。子育て世代の人口が増えているので財政的には困っていないのではないか。学校は地域交流や災害に必要な場となっている。色々な世代がさらに学校を活用するアイデアを出して補修費がかかっても無駄にならないようにすればいいと思う。大規模校の度重なる増改築の方が無駄になっていると感じる。通学への配慮に関しては、住んでいる地域によって交通安全面からスクールバスや公共交通機関を使うなど柔軟に決定すればいいと思う。(40~49歳、西の原中学校区、10年以上20年未満)

- ◆小学校は1クラス30人以上。中学校は1学年150人以上必要。小規模では性格の合う合わない関係なく、仲よくせざるを得ない。その為物事に対する考え方が偏りがちになってしまう。(18~29歳、印旛中学校区、10年以上20年未満)
- ◆児童生徒の学びの機会を保証すること、安心安全な通学を含む学校生活が大切だと考えます。人数が多すぎてしまう場合、体育館、グラウンド、特別教室等での学習が確保出来ないということも出てくると思います。人数が少なすぎてもコミュニケーションの機会が他校の児童生徒より減ってしまうことが心配です。娘はいには野小にお世話になりました。宗像小との統合で新しく友達が増えて、さらに学校が楽しくなったと当時は話しておりました。現在中学校でも仲を深められているようです。(40~49歳、印旛中学校区、30年以上)
- ◆地区により児童、生徒数の差が大きくなってきているので、大、小規模校の子ども達への配慮が足りなくなるのでは？と心配しております。同市内の子どもとして同じような対応をお願いしたいと思いますが、小規模と大規模とでは問題点もかなり違いますよね。子どもに、保護者に大きな負担にならないように、学校教育者、保護者、地域の関係者と交流を持ち、子どもたちの為により良い環境を整えてほしいと思います。(50~59歳、印旛中学校区、30年以上)
- ◆学校の役割は児童、生徒の活動が第一である。印西市の中で教育の格差がないようにしてもらいたい。有る学校ではクラス替えがない、人数が少ないせいで部活動が成立しない、一クラスの人数が少ないために少人数での授業になっている、大規模で先生の目が行き届かない等。(30~39歳、滝野中学校区、5年以上10年未満)
- ◆自分自身も上の子も現在中学の子どもも、3~5クラスのちょうどいいクラス数だったためか、あまり小規模や大規模についてのメリットやデメリットが想像出来ませんでした。思いつくところでは、小規模の場合で通学についてが心配です。スクールバスの運行、天候が悪い時はオンラインの活用、学校と自宅では天気や道路の状況が違うかもしれません。大規模については、子どもも保護者も地域も含めて交流会などが出来ればいいと思います。ポイントラリーなどのイベントで遠い子の道を歩いてみるとか。大学の授業では、様々な課題の事例が動画で紹介されています。その後ディスカッションをすると多様な意見が出て新しい気づきがあります。今回のアンケートでもQRコードなどで事例を動画で見れると、理解が深まりアイデアも生まれると思います。個人的にもう少し気にかけて考えてみようと思います。(40~49歳、滝野中学校区、5年以上10年未満)
- ◆子どもが滝野中でしたが、人数が少ないと感じました。ほとんどが小学校からの持ち上がりで変化が無く、また人数が少ないため部活の種類も少ない。ある程度の規模は子どものためにも必要ではないでしょうか。逆に少人数にするのであれば小中一貫での教育を考えてほしかったです。(50~59歳、滝野中学校区、10年以上20年未満)
- ◆規模が小さければ小さいなりに、大きければ大きいなりに長所と短所の両方があると思うので、それほど重要なこととは思わない。1クラス数十人になるようなら、効率が悪いので統合が必要かもしれませんが。(40~49歳、居住地区不明、5年以上10年未満)

②大規模校の対応について

- ◆印西市の人口分布に地域格差があるため、時限的新設校は出来ないものでしょうか。(60～69歳、印西中学校区、20年以上30年未満)
- ◆大規模校での増改築で対応するということは悪くないと思うが、それにより生徒数に対してグラウンドが狭くなったりなど不便が生じるなら通学区域を見直すなどの検討はした方がいいと思います。私自身は中学校は大規模校でしたが、敷地も広く不便を感じたことはありませんでしたが、小規模校に通っていた友達の様子を聞いて羨ましいと今でも思っています。和気あいあいとした温かい雰囲気だと感じました。(40～49歳、船穂中学校区、10年以上20年未満)
- ◆狭い学区にいくつも学校を作るのは税金も無駄だし、子どもの部活動や交友関係をせばめてしまうので、予め大きな土地に増築可能な校舎を建ててほしい。今も狭い土地に増築している所がありますが、自分が見ても開校時に絶対収まらなくなるだろうと予測できたので、もう少し考えてほしい。(40～49歳、船穂中学校区、30年以上)
- ◆転校はかわいそうだと思うが、過去自分の子どもは原山小にいて途中で高花小が出来たので高花地区の子どもは高花小に転校したが、同じ地区の子どもはみんな転校なので特に問題はなかった。ただ遠くなってしまう転校は避けた方がいいと思う。(60～69歳、船穂中学校区、30年以上)
- ◆宅地開発が偏っているので学校が必要となり、それも数年で終わりますので箱物は作らない方がいいと思います。千葉ニュータウンは田園都市構想のまちづくりだと聞いています。市街化調整区域における宅地開発を抑えることを望みます。(60～69歳、船穂中学校区、30年以上)
- ◆小倉台小学校など校舎の規模に対して生徒数が多すぎると思います。学区の改善、新たな学校建設について早急な対応を求めます。(30～39歳、木刈中学校区、5年以上10年未満)
- ◆兄弟で学校が違ってしまうのは困る。一緒に登下校させられないし、行事が増えるし、学校によってルールが異なる。例えば、大規模校の学区が変わる場合、既に入学済みの生徒は転校不要として、その兄弟は上の子と同じ小学校に通えるよう柔軟な制度にしていきたい。(30～39歳、木刈中学校区、5年以上10年未満)
- ◆小倉台小の学区に住んでいます。あまりにもマンモス小なので小学校は外へ通わせたいです。よく近くを通りますが、余りにも生徒の人数が多く、ふざけながら騒ぎながら時にはマンション駐車場か道路にはみ出て追いかけてっこをしながら、帰宅していて、とても危ないです。そして設備や遊具、子どもたちのパーソナルスペース、先生のリソースが足りているようには思えません。我が家の子供は幼稚園生であり、一度教育委員会に”原山小に通わせられないか”と聞いたところ、断られました。大規模小学校の学区に住む子供たちは希望により、近隣の外の学校へ通えるようにして下さい。強く希望します。どうぞお願いします。《急いで下さい！！》(30～39歳、木刈中学校区、20年以上30年未満)
- ◆元々東京で2クラスしかない小学校から越してきたため小倉台小の大規模には驚きました。大規模でも東京の時はあった放課後教室のようなものがないのは残念だと思います。今後印西市全体としてそういうものも視野に入れていただけたらありがたいと思います。学校内で教師が生徒に怒鳴ることが日常的にあるようで、そのあたりも大規模だから目が行き届いていないのではと懸念しております。子どもの忘れ物を届けた際に他のクラスの男性教師が感情的に怒鳴っていました。子どもに聞くとその先生ともう一人の先生がよく怒鳴っているそうです。今は子どものコンプライアンス上良くないと思います。(40～49歳、木刈中学校区、1年以上5年未満)
- ◆大規模校について、児童の増加により学校施設の増改築を行う際は、一時的な増加を理由に児童の学びの場として適さないようなプレハブのような施設などにするべきではない。適正配置について、学校数を増やすことが難しい場合は、既存の学校で対応するのが望ましいが、通学区域を変更する場合、既に通っている児童を転校させる必要はなく、変更になった年の児童から対応させるということでもいいと思う。(40～49歳、木刈中学校区、5年以上10年未満)

- ◆今年から小倉台小学校に通っています。授業参観で感じたのは、とにかく教室が狭くて驚きました。子どもも教室の机と机の間を通る時、足に水筒が落ちたり、ぶつかったりとよくケガをしています。人数も多いので先生も細かく目が届かないと思いますが、安全第一のため無理な生徒数でこのまま学ばせるのが正直不安です。小倉台小学校は大きさに対して明らかに生徒過多だと感じます。早急な検討をお願いします。(40～49歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆大規模校などは運動会等の行事が困難で、子どもや親にとって寂しいと思います。そのような行事が楽しく出来るような人数で配置されるといいと思います。(50～59歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆大規模校の出現はニュータウンによる人口増加の結果であって、開発当時からのものであり財源も確保されているはずであるから当然それなりに対応すべき。右往左往する問題ではないです。(70歳以上、木刈中学校区、30年以上)
- ◆適正のために安易に新築、増改築をしないように。活かすものは活かして、創意工夫をお願いします。(70歳以上、小林中学校区、30年以上)
- ◆大規模校で学校施設の増改築をする際には、校庭が狭くなりすぎないようにしてほしいと思います。公園なども自由に遊べなくなっている中で子ども達が遊べる空間だと思うので校庭が狭くなるのは反対です。(18～29歳、原山中学校区、10年以上20年未満)
- ◆全国には子どもがいなくなり不要になった学校がたくさんあります。印西市として今後ずっと子どもの数が増え続けるということは少子化のこの時代としては考えがたいと思います。無駄な箱物を増やすことはせずに、スクールバスを検討するなど、通学の問題を解決して学校の新設、新しい校舎の増設は控えて欲しいと思います。校庭の狭い学校の生徒は十分にボール遊びなどが出来ているのでしょうか。学区の変更などもっと柔軟に対応して準適正規模校についても生徒数の平均化をしてほしいと思います。(30～39歳、原山中学校区、5年以上10年未満)
- ◆現在印西市は特に千葉ニュータウン駅、印西牧の原駅周辺に人口が集中し、その地域の小学校は大規模校になっていると思います。通学区域に関係なく、スクールバスなどを利用して、小規模校へ分散し、バランスを保つことが必要だと思います。教育の差が生じないよう学校の適正規模、適正配置について早急に考えていただきたいです。(40～49歳、原山中学校区、1年以上5年未満)
- ◆大規模校の通学区域にスクールバスを走らせて、小規模校へ通学出来ると希望者も増えるのではないかと考えます。(40～49歳、原山中学校区、5年以上10年未満)
- ◆現在原小が大規模校で今後もさらに生徒数が増加する見込みの中、増築で対応しています。その増築する費用があるのであれば、元草深小学校を開校して、今行っているふれあいの里の事業を増築または移転で対応する。原小学校は現在各学年で曜日を指定され校庭で遊んでいるを聞いています。子どもが望むのであれば、毎日休み時間に外で遊べる学校に通わせたいです。本埜小のような遊べる友達も作れない人数の学校にも通わせたくない。令和10年度の見通しで大規模校が小中学校あわせて5校ある。特に原小などで40学級になる見込みだ。到底間に合わないと思います。(18～29歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆原山小や内野小は少人数になってきており、逆に牧の原や東の原側は子どもがどんどん増えていることから、原山小、内野小を合併させて、原地区、東の原地区にもう一つの小学校をつくってほしいです。原小学校へいずれ子どもたちが通う予定ですが、今のままだとかなり窮屈そうです。(18～29歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆来年原小学校に通う予定の子どもがいます。現在教室が不足とのことで増築しているようですが、その分校庭が狭くなってしまい広大な土地が魅力的な印西市なのに学校の敷地が手狭だという状況が残念だなと感じています。また一人一人きちんと目が行き届くかも不安です。(30～39歳、西の原中学校区、1年未満)
- ◆牧の原地区に住んでいます。子どもが安心安全に通えるようにしてほしいです。大規模では目が行き届かな

くなる。牧の原公園に一時的に公立中学校を作ってはどうか。ニーズに合わせて増やしてほしい。またこの地区に子どもが少なくなったら取り壊すことが出来る学校を。(30～39歳、西の原中学校区、1年未満)

- ◆自分の子どもが入学するころは小中学校ともかなりの大規模校になりそうです。まだ年齢は小さいですが、発達がゆっくりな子どものため、児童・生徒の人数が多いと教員の方々の目や教育が行き届くのか心配です。私が中学生の頃は3学年で300人程度と少なめの学校でしたが、それでも不登校の生徒がずいぶん存在しました。時代が違うとは思いますが、児童・生徒に十分な学びや活動が出来るような教員やサポートを配置していただきたいと思います。(30～39歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆小規模校もですが、大規模校への対応も急務だと思われます。牧の原小は今後も児童が増加すると思いますので、対応をよろしくお願いします。(30～39歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆子どもの人数に対して学校の数が少ないと思います。校庭で遊ぶのも曜日ごとの順番制なので、人数が多すぎないようにした方が子どもの体力作りや他学年との交流も出来て子どもにメリットだと思います。(30～39歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆印西市はとにかく大規模校と小規模校の人数の違いが目立ちます。この夏西の原から原小の学区へ引っ越す予定ですが、何よりも不安なことは生徒数が多すぎて、先生方が一人一人の指導に目が行き届かないのではないかということです。ただでさえ我が子は早生まれでやや発達面に不安があるので今から少し不安です。(30～39歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆原小学校は生徒数に対して増築したせいで校庭が狭すぎると感じる。生徒の遊びもかなり制限されているのではないかと。まだ新規の家も増えているので、東の原地区に小中学校を新設すべきだと考える。小規模校の生徒の地区にスクールバスを導入し、新設または既存の小学校に通わせるなどして、大規模校と小規模校に通う者の差を小さくするべきではないでしょうか。少なすぎるのも多すぎるのもどちらも問題だと思います。(30～39歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆子どもが大規模校に通っているが、とても不便なことが多くて困っている。・借りたい図書がなかなか借りられない。・休み時間トイレが混んでいて、並んでいたらチャイムが鳴ってしまいトイレに入れなかった…。・朝、学校に入る際、並ばないといけない…。など。(40～49歳、西の原中学校区、5年以上10年未満)
- ◆今いっぱいのところも10年～15年後は教室が余るのでは。(40～49歳、西の原中学校区、5年以上10年未満)
- ◆学校施設を増改築した場合、運動場が狭くなったり無くなってしまうのではと不安になります。(40～49歳、西の原中学校区、5年以上10年未満)
- ◆自然に囲まれた環境でのびのび子育てが出来る環境があるにも関わらず、急激なマンション建設、宅地造成の増加により、適正とは言いがたい規模の学校が存在する。小規模特認校制度を活用して生徒数を分配すべき。場所によってはスクールバスの導入も検討すべき。(40～49歳、西の原中学校区、10年以上20年未満)
- ◆原地区に小学校を新設してほしいです。原小学校にこれ以上の増築は望みません。先生や生徒に負担が増えるし、校庭が狭くなり生徒数に対しての広さが十分ではないと思います。昼休みに校庭で遊んでいる子どもたちを見に来ていただければわかると思います。(40～49歳、西の原中学校区、10年以上20年未満)
- ◆原小学校にどんどん建物を追加していますが、行き当たりばったりの増築は出来ればやめていただきたい。特に木を切ったりするのはやめてほしい。景観を守ることも重要だと思います。(40～49歳、西の原中学校区、10年以上20年未満)
- ◆先日原小前を通った際に児童の増加で新校舎を建設中でしたが、土地がないため仕方ないことだとは思いますが、校庭を潰してまで新校舎を作るのか、と個人的に思いました。今だけかもしれないませんが、子どもたちののびのびと活動できないのではと感じました。小中学校での子どもたちの学びや交流する環境はとても大切

な時間だと思っております。大人がきちんと子ども目線で考えなければと思います。本当に仕方ないことですが、原小を見て少々残念に思いました。これからも印西市民として住みやすいまちであってほしいと切に願っています。(50～59歳、西の原中学校区、10年以上20年未満)

- ◆地区により人口、児童生徒の増減を現実知り、増減が混在するこの地域において私は増となるエリアに住んでいます。学校の拠点は学びであり、防災など様々な役割を果たしているため、出来る限り存続してもらいたいと考えますが、現実的な状況からは残せないこともあると思います。特に原小などは増によりグラウンドが狭くなりつつあり、環境的に手狭になるなど別の状況があります。少数となったエリアの学校のグラウンド、場所などを有効活用するなど柔軟な対応も今後必要だと思います。(50～59歳、西の原中学校区、10年以上20年未満)
- ◆原小学校近くに住んでいます。子どもたちは原小学校出身です。現在グラウンドの一部に建物の新築工事を行っていますが、生徒数は増えてグラウンドが小さくなるというのは大丈夫なのだろうか心配しています。こちらが知らないだけで何か対策があるのだろうと思いますが、学校が1つになって行える行事も人数が多くキャパ的に無理となるのは教育上勿体ないと思います。上級生と下級生との学年も交流していくことが必要だと思います。その意味でこれ以上新築や増築をするより、現在ある小学校へ希望者をスクールバスで送迎することに税金を使うべきだと思います。(50～59歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆大規模校の児童生徒がもっとのびのびと学べる環境作りが不可欠。小規模校への転入など柔軟に対応していただきたい。また使える既存の学校を活用して、大規模校の生徒が学べるようにしてほしい。(50～59歳、本埜中学校区、30年以上)
- ◆滝野中へ入学する予定ですが、学校の規模が生徒数と合っていないと思います。部活動も少なく教師の目が行き届かないように思います。牧の原地区に新たに新設を検討してほしい。(30～39歳、滝野中学校区、1年以上5年未満)
- ◆これだけ住宅が建ってから学校の問題について予算がない等、もっと前から考えられたであろうことに今対処し始めていることを住民として不安に思う。本来なら原、牧の原地区は小中学校がもう一校ずつあってもいい人数になる予定なのに、このままでは教育が行き届かず学力の低下やその他活動に制限が出来て子どもが十分に育たないのではないかと不安です。(30～39歳、滝野中学校区、1年以上5年未満)
- ◆増改築にも限度があるかもしれないので、新たな学校の建設も考えた方がいいのかもしれない。(30～39歳、滝野中学校区、5年以上10年未満)
- ◆学校の適正配置は本当に難しいですね。牧の原5丁目に住んでおりますが、牧の原小学校に行けるのか、兄弟が離ればなれになったりしないだろうか、不安に思っているところです。共働き家庭にとって兄弟が別々の学校になるのは中々辛いです。ですが子ども大変なんですね。学童が少ないのも気になりますので、頑張ってくださいと嬉しいです。(30～39歳、滝野中学校区、5年以上10年未満)
- ◆子どもが数年後に小学校にあがります。人数が増えた時、1学級の人数が多いと密になり担任の負担が増えて、とにかく多くの問題が出てくると思います。早い段階で解決策を考えていただきたいと思います。(30～39歳、滝野中学校区、5年以上10年未満)
- ◆保護者の立場から、ある程度クラス数があり、クラス替えや行事がきちんと行える学校、少人数で子ども一人一人に目が行き届き、学校内でのことがよくわかること、どちらを好むかはそれぞれだと思います。増設などは費用がかかるのでまずは、学区域を柔軟に対応して、各家庭が選べるようにすべきではないか。その場合スクールバスの運行は必要です。(40～49歳、滝野中学校区、5年以上10年未満)
- ◆西の原中が今後増える見込みなので、滝野中に分散した方がいいと思います。滝野は増築出来ればいいのですが。(年齢無回答、滝野中学校区、5年以上10年未満)
- ◆子どもが数年内に西の原中へ進学するが、今でも生徒数が多いという話を聞いて心配している。いずれはこの増加もゆるやかになると思うので、やたら学校を増やすべきではないと思うが、同じ市内で極端

な偏りが発生しているのは解消すべきだと思う。(年齢無回答、居住地区不明、居住期間不明)

③小規模校の対応について

- ◆安易に統合すべきではない。(60～69歳、印西中学校区、30年以上)
- ◆小規模校に説明会をするのも大事ですが、「存続させたい」という意見を優先する必要はないと思う。1つの学校を存続させるのはお金もかかるので多少は市が強気な姿勢でもいいのでは。船穂小の説明会に一度行ったが、結局は親が自分の母校だから残したいだけに感じた。(40～49歳、船穂中学校区、30年以上)
- ◆船穂小学校の地区に住んでいるため、問21については非常にそう思う。少人数の学校としてこのまま継続するよりも、近くの学校と統合して多くの人とふれあいを持つことが大事だと思います。児童数が50人以下になったら統合という案も入れてみてはどうですか。自分が子どもの時も人数は少なかったけどまだ50人以上はいたと思います。PTAの行事をすることも人数が少ないため活動が大変だと思います。校外学習代、修学旅行代、アルバム代など人数が少ないため一人にかかる金額の負担が非常に大きかったです。小3の時から学校積み立てを毎月5000円、4年間集金していました。少人数の場合デメリットが多いように思いました。(60～69歳、船穂中学校区、20年以上30年未満)
- ◆一定の規模は重要、そのために統合することはやむを得ないと考えます。(18～29歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆少子化なので無駄な税金を使わずに廃校等を有効活用してほしい。自らが生徒数が少ない小中学校へ通い、教員の質の悪さを経験したため、小規模校は無くしていくべきだと思うし、我が子には通わせたくない。(30～39歳、木刈中学校区、30年以上)
- ◆児童数の推移より、小規模校を中心に早急に統廃合を進めるべき。教員の業務量を考えると、小規模校と大規模校では教員一人当たりの業務量が大きく違うのではないかと思う。適正な学校運営をしていくには、学校あたりの残業を抑制し、教員の労働環境の適正化、標準化に取り組むべきだと思う。(40～49歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆将来を担う子どもたちの教育は極力公平に受けさせてあげたい。小生は小学校高学年時に複式学級で学んだ経験があり、上級生が下級生の面倒をみる、先生や親が気がつかないことを教えるといったこともあり、複式学級も否定しません。(60～69歳、木刈中学校区、30年以上)
- ◆小学校で児童生徒数減少のため隣の村に統合された経験があり、当初慣れるまでは時間がかかるが子どもの順応性は高く、地区内の子どもでも友人になることが可能。むしろ少人数すぎる環境の方が将来的に不安です。行政は交通費などの負担軽減に配慮すべきである。(70歳以上、木刈中学校区、30年以上)
- ◆費用を考えると、統合も仕方ないことかもしれませんが、母校がなくなるのはなんとも言えない気持ちでした。でも自分が卒業してからのことだったのでそこまで深刻ではなかったけど、進学や進級をしようとしているのに学校がないとなると、これから大規模校でどうしようという不安を軽減する方法を考えてほしいです。(70歳以上、木刈中学校区、30年以上)
- ◆行政の都合で少人数を廃校にすることは、その地域の今後の発展のためにもあまり良い考えとは思えません。出来る限り統廃合にはしない方がいいと思います。その地域の今後の子どもたちのためにも、100年以上も続いた学校を簡単になくすべきではないと考えます。今の状況に行政は合わせるべきではないでしょうか。(70歳以上、木刈中学校区、30年以上)
- ◆準適正規模校に子どもを通わせています。1クラス40人近くいるクラスで、担任の先生も頑張ってくれていますが、クラス全体的に学力の低下は明らかにあります。近くの小学校も1クラスしかない等あるので、統合を進めてほしいです。栄町がスクールバスを利用して大規模校に統合しました。そちらからの意見等も聞いて、大規模と小規模、準適正規模を適正にしてほしいです。クラス替えも出来ず、嫌いな子、いじめてくる子と一緒に

にいた6年間は、子どもながら大変な思いで通っていることも考えてほしいです。学年1クラスは見直しが必要です。(30～39歳、小林中学校区、5年以上10年未満)

- ◆児童・生徒の少ない学校は、学校行事も盛り上がらない。部活動も限られており、クラス替えもないので新しい環境に恵まれない。学力面で競争心があまりない。いいと思うところは、先生の目が細部まで行き渡ること、子どもたちの団結力があること。しかし今の状況だと気になることを改善することを優先した方が子どものためだと思います。(50～59歳、小林中学校区、20年以上30年未満)
- ◆英国のマンチェスター郊外の小規模小学校を見学し、感銘を受けた思い出があります。1クラス20人くらいの学校でした。まさに小林小学校と似た規模の小さい小学校でした。私も静岡県の1学年1クラスの小学校を卒業し、新制中学校が出来て大規模中学校に入学しました。生徒一人一人にきめ細かい教育を行うことが大切だと思います。今でも小学校時代の友人は大切にしています。(70歳以上、小林中学校区、30年以上)
- ◆市の各学校の均衡をはかりながら統合を進めることは必要ではないかと考えます。その為には通学時間が長くなってしまいう児童生徒の移動中の安全を市全体で見守る体制づくりをあわせてお願いしたいです。今は共働き世帯が増えており保護者の負担が増大することは最小限にすべきです。(50～59歳、原山中学校区、20年以上30年未満)
- ◆昔の成田市に今の印西が似ている気がします。凄い勢いで発展しているところと、過疎が進んでいるところが混在するまちという意味で。数年前に成田の人と話をした時、その方の同居のお孫さんが通っている学校はかなり過疎が進んで区域を広げても子どもがそこまで集まらずに、さらに子どもの足で通うには遠すぎるがバスを出しても範囲が広すぎて良案ではなかったためタクシー通学になっているとのこと。出来ればそういう子どもが出るのは個人的には嫌だなと感じました。また別の成田市のエリアでは小中一貫校になり、そこにはバス通学と聞いたが、それはありだなと思いました。通学距離が長くなり自転車通学が不可であれば一貫校のバス通学がいいと思う。勉強もそうだが、体をたくさん動かせる場所と時間はどの子どもにも確保してほしいです。(40～49歳、西の原中学校区、10年以上20年未満)
- ◆小中学校の統合は生徒の減少増加にあわせて考えなければならないと思うが、震災などで施設は残しておかないと避難出来ない人たちがいないようにしないとイケない。(50～59歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆学校は生徒の学びの場であるだけでなく、地域防災としての役割を果たす重要な施設である。そのため小規模校になってもあらゆる手段を考えて存続を図るべきだと考える。また学校の存在は地域の風紀や活性化を保つものであり、さらに印西市の今後を考えた際に出来るだけ多くの学校が身近にあるとさらなる移住者の獲得を見込め、子どもの人口増加へ繋がるのではないかと。(18～29歳、印旛中学校区、10年以上20年未満)
- ◆学校の適正規模、配置というのは決して悪い考えではない。しかし小学校と中学校は勉強の他にも地域との交流や自分の住んでいるところを深く知る場でもある。なのでむやみやたらと統合はさせないでほしいです。(18～29歳、印旛中学校区、10年以上20年未満)
- ◆少子化で生徒が減ったりして学校を統合するのは憲法の等しく教育を受ける権利を侵害する行為だと思う。行政の怠慢や予算で安易に廃校にすることはあってはならない。(50～59歳、印旛中学校区、10年以上20年未満)
- ◆統合される場合には児童の交通の便に十分配慮していただくようお願いします。地域の活動、文化活動の拠点となるよう役割拡大をお願いします。(70歳以上、印旛中学校区、20年以上30年未満)
- ◆子どもが小規模校に通っています。学区内の地域の方や学区外の方たちの署名をもらい、「学校を残したい」という活動がありますが、それに対してすごく疑問があります。地域の方たちは自分の子どもたちにこの地域に残ってもらっていますか。もし残ってもらっているなら小規模校になっていないと思います。それなのに学校は残してというのはどうなのでしょう。学区外の方たちに署名をもらって何になるのでしょうか。学校として

残すことにこだわらず、他の施設として残すこともいいと思います。(30～39歳、本埜中学校区、20年以上30年未満)

- ◆小規模特認校制度を認めるならば、区域内の子供にも区域外の学校への通学を認めるべきである。(70歳以上、本埜中学校区、30年以上)
- ◆小規模校の存続は様々な問題があると思いますが、子ども達が元気に安全に登校出来るようよろしくお願いします。(18～29歳、滝野中学校区、20年以上30年未満)
- ◆何よりもお子さまとご家庭のお時間の大切さを考えてほしいと思います。小規模でも何か特徴のある授業や行事に特化した学校にしてもいいと思う。(40～49歳、滝野中学校区、10年以上20年未満)

3 通学への配慮について

①通学路の安全対策について

- ◆印西市に越してきてまだ日は浅いですが、周囲は新しい家が多く、子どもたちや赤ちゃんがたくさんいます。今の住所だと子どもが将来通う小中学校は遠く、通学路は大型トラックの通りも多く、ガードレールもないため小学生の親たちは学区外の申請をして別の小学校に通わせているのが現状です。そうすると、片道がより遠くなるため、特に低学年から中学年の親は仕事をやめたりフルタイムからパートに切り替えたりして、子どもを送迎しているを話していました。それは子どもだけの問題ではありません。子育て世帯が増加している地域とそうでない地域を早期に把握し、安心・安全に通学出来ているのか現状をふまえて適正配置をしていただきたいです。その結果、存続が難しい地域の子どもたちは、安全な方法で通学出来るように配慮をされていれば親としては安心だと思いますし、安心して社会に出られると思います。早く実行、実現していただくと、今後小学生になる子を持つ親としてはありがたいです。市の方々が色々と考えていただいていることをたまたまアンケートで知り嬉しく思います。ありがとうございます。(30～39歳、印西中学校区、1年未満)
- ◆子どもたちの通学にかかる時間についてまずは安全第一です。徒歩にするのはいいが印西市は緑が多く暗くなると危険な道が多いので、適正規模と同時に安全にも配慮してほしいです。(50～59歳、印西中学校区、10年以上20年未満)
- ◆予算もあるので難しいことだと思いますが、第一に子どもの安全、特に通学路が安全であること、そして子どもがしっかりと教育を受けられる環境が作られることを望みます。通学路が県道沿いで歩道が狭くトラックも多いところを通っているのが不安です。よろしくお願いします。(30～39歳、船穂中学校区、1年未満)
- ◆子どもたちが地域の人に見守られながら安全な環境で充実した教育を受けられることを願っています。学校への通学に関しては、特に近年安全面の確保は保護者を中心に気にされているところだと思います。通学路の治安状況や距離、通学時間など色々な視点を考慮して、子どもたちがより良い学校生活を送れるようになると思います。宜しくお願いします。(40～49歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆孫が木刈小、木刈中と近い場所にいるので不都合はないが、永治地区の小学生はスクールバスがあるのに対して中学校は徒歩、自転車等で通学している。部活、雨天時など遅くなったり天気の悪い夕方など交通量が多い場所でのバイクと自転車の接触事故なども家の前で見かけることもあり、心配になることがあります。浦部や宮内地区などは表通りから内に入るので人目もなく危険なところもあると思うので、配置や通学路の安全性は特に気になります。(60～69歳、木刈中学校区、30年以上)
- ◆小倉台に住んでいますが、イオン横の交差点は注意深く見えています。車の数が多いことに危惧しています。新しいスーパーが出来たあたりから多くの児童の姿を見えています。恐ろしいくらいです。こう見えているのは私だけでしょうか。(70歳以上、木刈中学校区、30年以上)
- ◆大規模校と小規模校の差があまりにも激しいので市として早急な対策をしていただきたいです。田園地域の通学路の安全性が気になります。徒歩で30分以上かかるような通学路では、交通事故の危険があったり、夏

場の熱中症の危険があるのではないかと不安です。(30～39歳、小林中学校区、5年以上10年未満)

- ◆学校の適正規模、適正配置について早急にご検討いただきたいのはもちろんですが、通学路の安全、特にニュータウン以外の歩道の確保、安全に力を注いでいただきたいと思います。このような形で一意見を申しあげる機会を作ってくださいありがとうございます。(60～69歳、原山中学校区、30年以上)
- ◆印西牧の原駅周辺、東の原地区の生活徒歩圏内に街灯のない場所が多すぎます。歩道は広いですが夜間子どもが一人で歩く事はないかもしれませんが、引越してきて日中に見たまちの様子ではわからないものがありました。中学・高校とうちの子どもが入学するのはまだ先ですが、新しく家がどんどん建ち並んでいるので、通学路だけでなく子育て世代が安心して暮らせるように防犯面の強化もお願いします。とにかく街灯を増やしてください。(30～39歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆通学に際して、国道464号線を渡らなくてはならない通学区域の範囲について、通学の安全上から十分に考えていただきたいです。(30～39歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆通学路の安全が確保されていない。市の財源で安全の配慮が出来るようにすると、朝夕の交差点での見守りが出来るようにしてほしい。(30～39歳、印旛中学校区、5年以上10年未満)

②スクールバス運行について

- ◆財政維持のための統合は賛成だが、通学路としては危険な道を整備したり、スクールバスで対応するなどが必要だと感じる。また市バスの時刻や停留所を増やして通学しやすい環境をつくる。(30～39歳、印西中学校区、1年以上5年未満)
- ◆人数が多い場所、少ない場所が出来てしまうのはしょうがないことですが、区域変更してもいいと思えるような配慮がほしいと思います。スクールバスなど通学も危険な道が多いのでこれから通うものとしては事故が起こる前に対策を検討してほしいです。(40～49歳、印西中学校区、1年未満)
- ◆印西市六合小学校においては、少子化でかなり遠方からランドセルを背負って通うことになります。野生動物、イノシシ、蛇、蜂など他の多くの危険な生物と遭遇することがあります。雨の日の道路の危険な場所、下水道、山道など子どもの足では1時間はかかります。山田地域にスクールバスを出していただきたいです。切なる願いです。射撃場やアウトレット方面に行く車もかなり多いです。(60～69歳、印西中学校区、30年以上)
- ◆生徒数、児童数に差がありすぎる。新設するより、少ない人数の学校へスクールバス等で行けるようにすればいいと思う。(30～39歳、船穂中学校区、30年以上)
- ◆松崎あたりから中学校に通わせるのは遠すぎると思うので、スクールバスを運行させるべきだと思う。原と草深あたりにたくさん家が出来たので草深小学校を再開すべきだと思う。(70歳以上、船穂中学校区、30年以上)
- ◆遠くの学校へ通うことになった場合スクールバスを用意するのは必須かなと思います。(40～49歳、木刈中学校区、5年以上10年未満)
- ◆戸神台地区在住ですが、近隣のお子さんたちはご近所でも学区がバラバラで少し残念です。また進学予定の小学校も特に通学距離が近いわけでもなく、子どもの足でも30分ほどかかりそうです。真夏の炎天下で通学させるのは心配です。夏や冬の暗い期間だけでもいいので、防犯や子ども達の健康と安全のためにスクールバスの運行を検討していただけないでしょうか。場合によっては賛同する保護者で有料でもいいので、ご検討よろしくお願いします。(40～49歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆印西市は地域で生徒数が違いすぎるので、幼稚園のようにスクールバスがあってもいいと思う。もう少しバランス良くしてほしい。中央南あたりは小倉台以外に通う生徒を分けた方がいいのではないかと。(40～49歳、木刈中学校区、20年以上30年未満)
- ◆規模配置について、今の方針でいいと思うが、印西市は公共交通機関があまりに貧弱なので、当木刈小の通

学路は炎天下、街路樹等の日陰もない道を30分～40分かけて通学している。大森小へ通学する鹿黒の子どもも交通量が多すぎるので心配です。距離ではないところに問題点が多いので、学校のそばにロータリーがあるので送り迎えが容易だったり、一便でもスクールバスがあれば完璧です。(50～59歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)

- ◆近頃不審なメールなどで子どもが危険にさらされることが多くあるので、近い学校に通わせたいが、スクールバスなどを無料か低額で用意していただけるのであれば、他の地域の学校も検討したいです。また親が車に乗れないなどの事情があると、遠い学校だと何かあった時の送り迎えが難しいと思いました。(30～39歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆小規模校に通学するには、現在は親の送迎が必要となり、簡単には通学させることが困難であると思います。まずはスクールバスを運行することを決定すれば小規模校を希望する生徒さんは増えるのではないのでしょうか。コロナの影響で不登校になってしまった生徒さんが増えていると思います。フリースクールのような学校があってもいいと思います。印西市もまだまだ発展していくと思います。子どもに優しい学校があると親も安心出来ると思います。(40～49歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆統合で通学が遠くなる場合も含めて、今現在でも田園地域から通う児童のためにスクールバスの検討をお願いします。また通学区域の変更を早めにしていくことで、なるべく転校にならないようにしていただきたいです。(40～49歳、印旛中学校区、5年以上10年未満)
- ◆人通りの少ない道を自転車で通学する子どもは安全上親の送迎が多くなり負担である。田園地帯の自転車通学はスクールバスの導入も検討すべきだと思う。冬場の部活動の終了時間の早さなどに市内で差があってはならないと思う。(50～59歳、印旛中学校区、5年以上10年未満)

③通学時間・通学距離・通学方法について

- ◆児童生徒の通学時間が一番大きな問題だと思います。国の通学時間については問題外だと思いますよ。(70歳以上、船穂中学校区、30年以上)
- ◆雨の日などは特に自転車を危険な乗り方をしている場合もあるので、徒歩で通学出来る範囲で調整するのがいいと思います。(18～29歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆木刈中への通学手段として、戸神台エリアからは遠いので、自転車通学を認めてほしい。(40～49歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆少人数クラス、徒歩5分以内の近場が望ましい。(30～39歳、西の原中学校区、1年未満)
- ◆現状の距離がちょうどいい。(40～49歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆通学区域を考えるにあたり、片道の通学時間が徒歩で30分でも長いと思います。小学生のランドセルを持ったことはありますか？重すぎます。徒歩30分以上であればマイクロバスも検討すべきです。(50～59歳、西の原中学校区、10年以上20年未満)
- ◆中学校があまりにも遠すぎる。その為、私立中学に行く必要を考える人が多いと思われる。自転車、バスで通学するなら私立へ…。(60～69歳、印旛中学校区、30年以上)
- ◆小規模校にしる大規模校にしる子どもたちの通学時間を考える。徒歩15分が限界だと思う。印西市はバスがほとんど走っていないので、家庭で車で送り迎えをすると親も負担が大きくなる。なるべく15分以内で行けるとところに学校があると一番いいが、スクールバスを運行することは出来ないのか。学童へ行っている子どもたちの帰宅等はどうするのか。地震等が起きた時に帰宅出来なくなったら、徒歩圏でなければどうなのか。子どもを迎えに行けるのか。色々難しい問題です。(70歳以上、滝野中学校区、1年以上5年未満)

4 通学区域について

①通学区域の見直しについて

- ◆通学区域を見直す場合は、卒業が近いので転校はしたくない、等の希望は考慮するべきだと思います。小規模特認校制度と統合は併用していいと思う。(50～59歳、印西中学校区、30年以上)
- ◆通学区域の変更により今より通学しやすくなる学区もあると思うので将来を見据えた計画が必要。地域防災の拠点としての役割もあるので、スクールバスなどで通学するような学校だと避難するのが難しい。なるべく徒歩で通えるよう通学区域を改めて見直すことも必要だと思う。(40～49歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆地区の生徒数は時代で変わるのでやむを得ないが、安易に地区割りを変更しない方がいい。(60～69歳、木刈中学校区、5年以上10年未満)
- ◆児童の安全を第一にすることはもちろんですが、今後を考えると通学区域の見直しはやむを得ないと思います。特に滝野から牧の原地区とその他地域では人口増減とそれに伴う児童数の変動にかなり差があり、一校で抱える児童数も大規模校と小規模校で差があることや、今後財源面で分配出来る資源の限度を考えても小規模校の合併や通学区域の見直しは必須と考えます。加えて通学距離が遠くなる地区に対して、スクールバスの運行や交通バスとの協力等を検討することで、遠距離通学への利便性、安全性を確保することも必要だと考えます。市の人口増加は若者の増加も意味すると思います。ゆえに教育現場の安全性と持続性を見据えた教育、学校施設への投資を強化してほしいと思います。今の子ども達が将来大人になっても住みやすく、その下の世代が生まれていざ義務教育を受ける時になるべく安全かつ不便のないよう工夫してほしいと思います。(18～29歳、小林中学校区、10年以上20年未満)
- ◆小倉台小、木刈中に不自然に児童生徒数が割り振られている。原山小や原山中に適正に入学者があるように、通学区域を変更すべき。特に武西学園台、中央南地区は駅南地区として原山小、内野小、原山中へ振り分けるべき。(70歳以上、原山中学校区、20年以上30年未満)
- ◆通学区域の変更に関しては、安全な通学路、スクールバスがあるならいいと思う。しかし在学中の児童生徒の転校に関しては断固反対いたします。多感な時期に引っ越しなどの理由もなく市の都合で子どもの環境が激変することがないように検討していただければと思います。(30～39歳、滝野中学校区、1年以上5年未満)

②学校選択制の導入について

- ◆大規模校では先生一人に対しての子供の数が、小規模校と違うので、子どもをしっかり見てもらえるか不安があります。校舎を増やしも、一時的なものだし、学年、人数は大きくなります。トラブルも増えるだろうし、スクールバスとかフォローがあったら各家庭の都合もあると思うけど、他地区への学校への通学も選択肢としてあっても良いかなって思います。(40～49歳、印西中学校区、30年以上)
- ◆ニュータウン地域の子どもの人数が多く、田園地域の学校では教室があまり、その状況を変えることは難しいが、例えば市内のどこの中学校へ行きたいかというアンケートをして、自分がやりたい部活が強い中学校に行ってみたい、今の中学では人間関係が良くないから市内の別の中学で気持ちを変えて学習したい、大人数の学校ではなく少人数の学校で学習したい、という意見があれば、市内の自由選択登校もいいと考えます。新しく学校を建てる、増築するのではなく、子どもの人数がこれから減っていくのであれば今あるものの中で子どもたちに出来ることを考えたい。増築の予算があるなら、スクールバスの導入を。印西市の教育は選択が出来るという特色があれば、印西市で子育てをしたいと考える人も増えるのではと期待している。少人数の学校地域であれば、市内のシルバーの方を学校内の清掃や学校の給食を地域の方たちで作る等、何か地域で出来ないでしょうか。地域の食材を使い、地域の方たちの働き口に繋げたり、高齢の方では働きたくても雇ってもらえないという方もいるのではないかと思います。市内の中で人もお金も循環出来たら素晴らしいなと思います。(40～49歳、印西中学校区、30年以上)

- ◆地域によって差が出るのは仕方の無いこと。いつそのこと将来的には割り切った考え方で市内といくつかのブロックをわけて学校運営をしていくのも1つの考えだと思います。もちろん無料のスクールバス等の問題は発生しますが。(60～69歳、印西中学校区、30年以上)
- ◆リモートやzoomが当たり前になったこの時代に、子ども達は大規模・小規模、自分に合ったところで自由に学べるようになるといい。(60～69歳、船穂中学校区、30年以上)
- ◆学区内外ではなく、転校したい子どもが自由に学校を選べたらいいですね。(60～69歳、小林中学校区、1年以上5年未満)
- ◆大人数の学校が苦手な子どももいるので、もっと自由に少人数の学校にも行けるように促すことも大事。地域にこだわらないのもいいと思う。(40～49歳、西の原中学校区、10年以上20年未満)
- ◆いじめが多いとか、少人数で担任の目が行き届く方がいいという理由で、あえて大規模校から小規模校に転校させた人もいると思う。学区を拡大して複数の選択肢を設けるべき。(40～49歳、西の原中学校区、10年以上20年未満)

5 その他

①市の姿勢について

- ◆財源不足のシミュレーション結果が載せられていますが、何のためですか。これからの学校教育を考えていく上で何を優先しても費用は捻出すべき事項と考えます。(お金が不足するなら予算の見直しをすべきです) 少子化の対策(子供を増やす事への対策)等と合わせても、検討すべきだと思います。→費用不足なら不足にならないよう様配分を考えるのが市の仕事ではないのか。(60～69歳、印西中学校区、30年以上)
- ◆自由な視点で物事を考慮出来る社会人になって、日本人としての誇りをもってほしい。子どもたちは無限の可能性を秘めている宝なので大事に育てていくべきです。行政はもっと子どもたちに予算を支出すべきだと思います。最終学歴、高度な教育、世界のNo.1になるために教育もグローバルの時代に突入。(70歳以上、印西中学校区、10年以上20年未満)
- ◆流山モデルのように子育てにもいいと思われ多くの若い世帯が移っている場所が近隣になるのだから、良いところはどんどん真似して子育てがしやすい市にするべきです。教育水準を上げて、公立校からでも進学率をよくすることで、若い世代を呼び込むことができると思う。年寄りばかりによくしても世代交代のない市では新陳代謝が出来ずに、せっかく大企業が移ってきても、そこで住みやすくなければ住民は数年で出ていきます。育ったまちを思い、良い教育を活かして行政にも反映出来るような学校づくりを目指してほしい。誇れる印西市となるよう教育部はとても大切な課である。子どもの教育は市の宝となるべきもので、我々の未来を託す子どもたちのために最大の努力をしてほしいと思います。通学時間よりもどこに通うのか。スクールバスを使用してもいいと思いますし、自分に合う学校に通うことが選べるならば、学校づくりに特色を出すこともいいのかもしれない。子育てをした方でもっとこうしてほしいという意見を持つ方も沢山いると思います。部の中で学校教育推進課を設けて、その方々の意見や目下子育て中の方の意見も多く取り入れてみるのも良い方法だと思います。とにかく子どもたちがいきいきのびのび楽しく学習出来る学校づくりを地域で応援しています。(年齢無回答、船穂中学校区、1年以上5年未満)
- ◆戸神台の住人です。入居時に近隣に小学校が出来ると聞いていましたが、いつの間にかうやむやになり、子どもは小倉台小に通っています。牧の原小はもう増改築していますが、無計画で場当たりな対応だと感じています。小規模校対応について、基本方針と特認校制度導入は正反対ではないでしょうか。年輩の方の思い出なども大切だと思いますが、そのために予算が正しく子どものために使われないのはおかしいと思います。過去だけでなく、子どもの将来を中心に考えて計画、実行をお願いします。(40～49歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)

- ◆学校施設の維持管理に充当可能見込み額ありきで結論を出すのではなく、子育てしやすい町として子どもが全国的にも珍しく増えている地域なのだから、その増加に対して財源を充当すべきだと思います。市の取り組みとしての結果とはあまり言えないと思うので、子どもたちに投資しなければ市の発展は戻つぼみになってしまふと思います。データセンターが増えて税収は増えるかもしれませんが、雇用はあまり増えなさそうですね。(50~59歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆国債のような市の債券を発行することはできないか。市民税をあげるのは大反対なので方策を考えなくては。若い人は新築の家を借金をして買い、印西に住むことを決めたのだから、若い人のためにも市民税を上げるのは反対です。生活設計が苦しくなり出ていってしまう。大企業が印西にあるので寄付をお願いできないか。若い人向けに企業の宣伝となるようなかたちで。(60~69歳、木刈中学校区、20年以上30年未満)
- ◆学校の適正は単独で企画するのではなく、まちづくりの一端としての総合判断をすべき。木刈小学校区に住んでいますが、住民の高齢化に伴い学級数は減少、大塚地区の開発によりやっと生徒数を確保、これも15年の命である。空き家を積極的に若者に斡旋し、生徒を確保して、まちの活性化、学校の維持に繋がると思う。学校の建築資金も償却されず30年の期間で企画すべき。今の後追い案は10年後に行き詰まる。(70歳以上、木刈中学校区、30年以上)
- ◆1.小規模校になる予測が立つ場合。大前提として小中学校では地域で生活・学ぶことが大切である。小規模校になった場合は小規模特認校制度を導入し、さらに学校の統廃合は避けられないと思う。子供の通学にはスクールバスなどの活用により安全な登下校を確保すること、十分な教員配置(教員数)を確保することが大切。必要なら印西市の財政で国の基準以上に適正整備に努めていただきたい。2.大規模校になる予測が立つ場合。今後10年ほどは小倉台小、牧の原小、原小、木刈中、西の原中は今後の増加が見込まれるが、その後は急激な減少も考えられる。高層マンションによる影響が考えられる地域。新設校の設置が考えられるならば、適正規模の学校整備に心がけていただきたい。将来的にその地域での子供の減少が起こった時は老人対策施設・福祉施設に転じられるような設計にしていだけたら素晴らしい。印西市はデータセンターラッシュでしばらくは財政的な裏付けもあるのではないだろうか。新設後、子供の減少による統廃合は避けられないが、それに見合う学校建設が考えられるのではないだろうか。印西市の発展に欠かせないのは企業誘致と交通網の整備、そして子育てに手厚い行政が必要。大規模校対策は今後の人口減少対策、老人対策でもある。学校設備だけの問題ではなく、今後の高齢化社会を見据えた印西市の課題と捉えたい。今以上に印西市が注目されるために、将来的な印西市の発展につながる計画を立てていただきたい。(70歳以上、木刈中学校区、30年以上)
- ◆板倉市長は子育て経験がないため、高齢者福祉の施設よりも子育て施設に予算をあてていただきたいと思います。流山市を参考にいただきたい！(40~49歳、西の原中学校区、30年以上)
- ◆限られた予算の範囲でSDGs的の学校運営には無理があります。市全体をあげての税収維持を今以上に図る必要があります。魅力あるまちづくりを加速させて人口増加をさらに進展させるべきでしょう。(70歳以上、西の原中学校区、10年以上20年未満)
- ◆現在ある資源は最大限活用して、効率的で効果的な教育が出来るよう工夫した方がいい。今後はITの活用は避けられないのではないかと。規模、配置の問題だけでなく、教育の質も含めて総合的に検討した方がいい。音読学習の効果が科学的にも証明されている。従来の教育方法だけでなく、効果的な学習方法に挑戦して、その学習方法がどのような規模や配置、インフラで出来るのかを検討し、市としての将来的な方針を示した方がいい。(50~59歳、印旛中学校区、20年以上30年未満)
- ◆印西市は子どもを大切にしている。子どもにとって何が大切かを考え、ベストな方法を導いて下さい。(50~59歳、印旛中学校区、20年以上30年未満)
- ◆牧の原は住環境、整った通学路、住みやすさ等に魅力を感じ、他地域から引っ越してきた方が多くいらっしゃる地域です。ハウスメーカーからも徐々に家が建つので、児童数、世代は一気に同じ世代が増えることはないという言い方でしたが、あっという間に児童数、家も増え続けています。狭い教室で教員も不足する中、子ど

も達が学んでいることを考えると残念でなりません。子どもの増加は他地域も一時的だと思いますが、戸建てばかりの牧の原はその後40年程度経過すれば一気に高齢化することが目に見えています。子どものために市内全校が同じ教育を受けさせつつ、高齢化を見据えた動きをしていく必要があると思います。住宅計画も考慮したまちづくりを考えてほしい。印西市として新たな方針を生み出していかなければ今後は難しいと思います。違った問題が出てくるであろう。大変だと思いますが、子どもの未来に魅力ある印西市を残していただきたいです。どうぞよろしくお願ひします。子どもに適正規模の学校を提供するためには、義務教育学校や学校を新設し、高齢化を見据えて学校以外としても使用出来るようにすること。よろしくお願ひします。(30～39歳、滝野中学校区、5年以上10年未満)

- ◆行政のご都合主義にならないように熟考を重ねて基本理念「だれもが輝きともにはばたくいんぎの学び」の具現化をよろしくお願ひします。これによって名実ともに住みやすい印西市にも繋がると考える次第です。実務に携わる方へエールを送ります。必要により市民として貢献出来ればよろしいのですが。(60～69歳、滝野中学校区、20年以上30年未満)
- ◆今後の少子化に伴い、市の財政の再構築が必要である。子どもは地域の宝なので、子どもの安全を第一に考えた政策をお願ひします。(70歳以上、滝野中学校区、1年未満)

②アンケート調査について

- ◆質問の意味がわかりません。(60～69歳、印西中学校区、30年以上)
- ◆私は孫がいませんので、学校は直接かかわっていません。答えられる範囲で○をつけました。(70歳以上、印西中学校区、20年以上30年未満)
- ◆色々意見を聞けずわからなかった。(70歳以上、印西中学校区、30年以上)
- ◆アンケートのWeb化。(50～59歳、船穂中学校区、10年以上20年未満)
- ◆対象になる児童はいないのでアンケートは無駄だと思う。税金の使い方が問題だから広く聞くということか。子どもにお金を使わない国は滅びる。つまらない。箱物などは作らなくていいから子どもにお金を使ってあげてほしい。(60～69歳、船穂中学校区、30年以上)
- ◆①アンケートの項目と内容が稚拙で、とても表記の主旨に答えられることとはなっていない。②印西市が教育先進市として取り組むべきことを後追いの迎合的にアンケートをとることは止めた方がいい。予算の無駄遣いでもある。統計及び年金でもない。③印西市のどこが悪いということは差し控えるが、印旛郡印西町のまま、市の行政を行っているような気がする。もっと時代を先取りし、先進的に取り組んで欲しい。意識変革を！④行政(教育)に対してガッカリ、ガッカリ。⑤追記。印西市は住みやすい町かもしれないが、世間の風評は、教育は最低。高校もないとのこと心片隅に！！(70歳以上、船穂中学校区、20年以上30年未満)
- ◆アンケートの結果を公表してください。(70歳以上、船穂中学校区、30年以上)
- ◆学校生活を終えた人にアンケートをとるのではなく、実際に学校生活をしている小中学生にアンケートをとったほうがいいのか。実際に不満に思うことや困っていることがあるのは学生本人だと思うので。(18～29歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆何が適正と考えるのか読み取れず問21は3を選択しました。(40～49歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆無作為に選ばれたのでは仕方ないですが、私には子どもがいないので回答者としては不資格だと思います。(50～59歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆無作為に選んだとのことですが、住民票を見れば子なしだとわかったはず。子を持たなかった女性にこのようなアンケートを要求するのはひどすぎると思います。また、今小学生くらいまでの子育て中の方から多くご意見を伺うべきだと思います。なぜ全く関係ない私が選ばれたのか理解に苦しみます。セクハラにも等しい行為

ですよ。(50～59歳、原山中学校区、10年以上20年未満)

- ◆地域により教育や文化活動において受けられることが違うのは、平等性を欠くと思われます。適正配置を願います。アンケート対象者は無作為で選ばれたはずなのに、小中学生を持っている方に聞かないと意味ないように思われます。高齢者に聞いても現実的ではありません。未来を担う子どもたちがしっかりと教育を受けられる場を作らないと、そのうち他市に子どもが流出してしまいます。ご検討よろしく願います。(70歳以上、原山中学校区、30年以上)
- ◆小規模の小中学校を近い場所にたくさん作りすぎ。考えもなしに小規模の小中学校を見境なく無計画に作って維持する財源がないと言われても、だからどうしたという気がする。そもそもこのアンケートをとる意味があまり理解出来ない。このアンケートを理由に無理矢理何かを進めようとしているとしか思えない。(30～39歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆アンケートが紙ではなくオンラインにしてください。郵便代、紙代、集計に関わる人件費の無駄です。増築でグラウンドを狭くするのはやめてください。(40～49歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆普段あまり身近なことではないアンケートで実際に回答に苦慮しました。確かに人口の増加に伴う大規模校については対応策が必要であろうと思いましたが、1つの資料から読み取れないものは小規模特認校制度校として2校があげられていましたが、その選定理由が何も記載されていないことです。将来的な生徒、児童数の推移や維持管理費を考えると、他校との統合が順当な考えだと思います。特認校制度の基準と2校がどの基準項目で該当するのかの明確な記載があればよかったです。(60～69歳、西の原中学校区、30年以上)
- ◆学校に関するアンケートですから、通学している子どもの親に聞いた方がいいのではと思いました。今回は協力できましたが、体調のこととか急な葬儀が入り何かと重荷でした。(70歳以上、印旛中学校区、10年以上20年未満)

③その他(教員・跡地活用等)

- ◆イジメが発生した場合、学校機関だけでなく外部機関にも連携が取れるようにする。(30～39歳、船穂中学校区、20年以上30年未満)
- ◆近くに小学校があります。草や木がぼさぼさになっています。防犯上もよくないので、定期的な手入れを行った方がいいと思います。(40～49歳、船穂中学校区、20年以上30年未満)
- ◆教師は児童、生徒の教育に労力を割くべきであり、その他特にクラブ活動についてはそれに精通した人に外部委託するべきだと考えます。(40～49歳、木刈中学校区、10年以上20年未満)
- ◆少子高齢化に伴い、学校施設の多様性活用、特に高齢者施設の活用も視野に入れて再編すべきと考えます。また、学童保育施設の充実を図ることも必要であり、共働き家族が主流となる世の中に順応すべきと市政に取り組むべし!!(60～69歳、木刈中学校区、30年以上)
- ◆地域に根付いた学校教育を推進してほしい。(60～69歳、木刈中学校区、30年以上)
- ◆すべての児童生徒が平等に教育を受けられることが嬉しいことです。様々な理由でそれが叶わない場合は、出来るだけ近づける方向が必要だと思います。各部署でそれらを考慮して良い方向に進むことを期待します。(60～69歳、小林中学校区、30年以上)
- ◆(その他として)小学生の荷物がやたら多く、重いようですね(デジタル化で軽くなるのでは?)(70歳以上、小林中学校区、30年以上)
- ◆生徒数が少ないにもかかわらず学童保育のために別の施設を建設し、より多くの費用をかけていますが、空いている教室を利用したらどうですか。小中学校だけでなく、幼稚園、保育園まで考えた複合施設を考えたかどうか。(70歳以上、小林中学校区、30年以上)

- ◆まちの開発具合と生徒数には相関があり、うまく言えないがそこと柔軟に連携がとればよいと感じる。(30～39歳、原山中学校区、5年以上10年未満)
- ◆教員一人当たりに対応すべき生徒数が適切であること。(30～39歳、原山中学校区、30年以上)
- ◆この地に来てあつという間に30数年過ごしてきました。小学校も中学校もとてもいい環境の中、子育てをさせてもらいました。これからの世代の子どもたちにもより良い環境の中成長してほしいと祈るのみです。(60～69歳、原山中学校区、30年以上)
- ◆未来を担う子どもにより良い学習環境が与えられるよう心から望んでおります。(70歳以上、原山中学校区、5年以上10年未満)
- ◆学校の適正規模、配置も必要事項ではあるが、より良い教育環境の下、「教育の質の向上」を図る必要がある。その為には全ての教師を「正規採用」にして、当教師が安定した「身分保障」の下で、子どもを指導し、教育に専念できる様、市町村教育委員会は県教育委員会や文科省へ強い要求を出すことが第一である。以上(70歳以上、原山中学校区、30年以上)
- ◆就学前の子どもがいるのですが、子どもが小学校に入学する頃にはどうなるのだろうと不安です。(30～39歳、西の原中学校区、1年以上5年未満)
- ◆増改築を行う場合、十数年後を見据えた改築を行ってほしい。例えば、増改築を行う学校周辺の人口割合により、将来的には老人ホームとして利用する、文化活動拠点として利用する等の見込みを立ててそこを見据えて増改築の図案を考えるようにしてほしい。学校の増改築が子どもまたは子育て世代のみに利益をもたらすわけではなく、全世代にとって有意義なものになるように計画してほしい。(30～39歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆時代の変化に則した授業が必要だと考えます。SNSとの向き合い方やLGBT、コロナ、ウクライナ等。卒業後に地元に残り就職することが1つの役割と考えます。地元愛に繋がる教育をお願いします。英語教育とスポーツ教育の強化、多国籍化の対応をお願いします。(40～49歳、西の原中学校区、1年未満)
- ◆教育の平等を希望します。(40～49歳、西の原中学校区、10年以上20年未満)
- ◆時代の変化と共に教育の現場で柔軟な対応が出来るように環境整備もしくは住民と一緒に取り組む前向きな姿勢が必要だと考えます。また検討を重ねることも大事だが、早い対応と早い決断が肝要である。現代はスピーディな対応をすることで困っている関係者に改善の実感をしてもらうことが大事だと思います。(50～59歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆学校とコミュニティの融合。(60～69歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆内野在住の時に原山小学校ができました。現在は西の原在住です。その時に原山小は将来老人ホームになっても役立つような教室づくりになっていると聞きました。教室はフリースペースになっていると教えてもらいましたが内部には入っていません。将来を見据えた学校作りということで、その頃は理解していましたが、あまりに小学校がたくさん出来すぎていると思います。財源のしわ寄せは当たり前だと思います。八千代台の花見川団地のようにになってしまうのではないかと心配です。(60～69歳、西の原中学校区、20年以上30年未満)
- ◆コロナ禍の窮屈さ、スマホやSNSの普及によりどこことなく子どもたちを見ていると小学生、中学生と見ているというより、高校生や20代半ばの子どもを見ているような子どもらしさを感じられません。古くさいと言われるだろうが、スマホの画面を見ずに、友達や印西という自然も多くある周りの世界も見て、コロナ禍以前のまわりの目を気にせずのびのびと生活出来る環境を与えたい。原小に子どもを通わせている知人がいるが、増築中でグラウンドが狭いようで運動会など行事が出来るか心配している。そのような面で適正というのは重要であると思う。(30～39歳、印旛中学校区、30年以上)
- ◆教員の適性と県下での能力の平等な配置を望みます。学校がただ楽しい場にならずにこれから世界を見据えた感覚を備えたい。(50～59歳、印旛中学校区、5年以上10年未満)

- ◆空き教室の活用として、地域のコミュニティの場にするとういなどと思います。小学校、中学校の中に、たとえばこども園、幼稚園、老人の集いの場、子育て支援コミュニティなど、多年齢層との交流を深めていく場にしていくことで、たくさん学びがあると思います。(60～69歳、印旛中学校区、30年以上)
- ◆教員に負担がかかりすぎている。もっと増員して教員がゆとりある教育指導が出来るようにすべきだと思う。(70歳以上、印旛中学校区、5年以上10年未満)
- ◆地域格差、少子化等の課題を抱えながら、教育の重要度は益々高くなるので、質の向上・標準化を目指すには市立小中学校を集約して特区構想を考えるべきだと思います。国からの補助金も獲得したい。(70歳以上、印旛中学校区、20年以上30年未満)
- ◆問題は施設をどこに作るかではなく、子どもにとって財産となる教師がいるかどうかである。親のレベルが低下しているので何をしてもだめ、無駄だと思う。(70歳以上、印旛中学校区、30年以上)
- ◆人口増加地区と減少地区がわかって、現状や学校事情がよくわかった。人口増加の地区でも10～30年の長期的なことを考えると増加から減少になることは推測される。現在学校の廃校も考慮されている地区は防災上の拠点でもあるので慎重に対応してもらいたい。現在の学校の配置が地図上に明記されていれば防災及び必要性の判断が出来ると思う。(70歳以上、印旛中学校区、30年以上)
- ◆滝野中学校は突貫工事をしないで、ジョイフル方面に建てた方がいい。全室にクーラーをつけてあげないと命が危険だと思います。印西市の素晴らしいおみやげがありません。子どもたちに考案させてもいいかもしれません。(18～29歳、滝野中学校区、10年以上20年未満)
- ◆現在印西市は子育て世代が移り住み人口が増加しています。より良いまちづくり、将来のためにも子どもの教育の場はとても大切だと思います。様々な意見があると思いますが、子どもたちが平等に教育を受けられる環境づくりをこれから新たに作っていきましょう。よろしくお願いします。(30～39歳、滝野中学校区、1年以上5年未満)
- ◆住み良いまちランキングで良いと聞き引越してきましたが、保育園の待機児童だったり小学生の人数の問題など少し大変だなと感じています。(30～39歳、滝野中学校区、1年以上5年未満)
- ◆小学校、中学校も大事ですが、印西市の高校の少なさにこれから先の子どもの進路に不安があります。医療や子育て支援の充実にも力を注いでいただけたら幸いです。(30～39歳、滝野中学校区、5年以上10年未満)
- ◆小規模から大規模、またはその逆になることもあるので、増築可能だが高齢者施設などへの転用が可能な学校になることは出来ないでしょうか。(40～49歳、滝野中学校区、1年以上5年未満)
- ◆八千代市で子ども時代を過ごし、今の印西市と同様の学校人口格差を経験しました。中学校は11クラスあり、誰がどのクラスなのか多くの先生方の特徴もよく覚えていて、人生の勉強になりました。農業地区校との部活交流やプレハブ校舎での授業もそれなりに経験や思い出になっています。人数にこだわるより、熱中症対策、教員の過労働対策に力を入れてほしいです。防災協力面でも同じ学校区で繋がりが大切だと思います。(60～69歳、滝野中学校区、1年以上5年未満)
- ◆知的障害児・者も楽しく通学できる学校が、特別支援学校以外にもあるような支援級を作ってほしいです。障害児・者は見た目でもわかる肢体の人たちだけではなく、見た目では分かりにくく、生きにくい人達もたくさんいます。よろしくお願いいたします。(18～29歳、居住地区不明、1年以上5年未満)

参考資料

○印西市学校適正配置等に関する市民アンケート調査票

印西市学校適正配置等に関する市民アンケート調査

<調査へのご協力のお願ひ>

日頃より、本市の教育行政にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

印西市教育委員会では、「印西市学校適正規模・適正配置基本方針」を策定し、学校の適正規模・適正配置を推進しているところではございますが、より良い教育環境の整備と教育の質の向上を図るためには、基本方針の抜本的な見直し等を行い、対応していく必要があると考え、令和3年7月に公立小・中学校の適正な配置について調査及び審議する「印西市学校適正配置審議会」に「第二次印西市学校適正規模・適正配置基本方針について」の諮問を行い、現在、検討を進めているところでございます。

この調査は、第二次印西市学校適正規模・適正配置基本方針を策定するための参考資料とするため、市民の皆様のご意見を伺うものです。

調査の実施にあたっては、令和4年4月1日現在、満18歳以上の市民の方2,000人を住民基本台帳から無作為に選ばせていただきました。ご記入いただいた内容は、無記名のうえ、すべて統計的に処理いたしますので、個々の方のご回答内容や個人情報が特定されることは一切ございません。ぜひ率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年6月

印西市教育委員会教育長 大木 弘

<回答にあたってのお願ひ>

1. 濃い鉛筆か黒のボールペンでご記入ください。
2. あて名のご本人がご回答ください。(代筆可)
3. 質問ごとにあてはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。
4. 回答の○の数は、(○は1つ)(○はいくつでも)などと表示してありますので、それにあわせてお答えください。
5. 「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
6. 質問によっては、回答内容に応じて、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印をご確認の上、ご回答ください。

ご記入いただいた調査票(この冊子)を、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご投函ください。調査票、返信用封筒に住所・氏名等を記入する必要はございません。

令和4年7月4日(月)までにご投函いただきますよう、お願いいたします。



【調査についてのお問い合わせ先】

印西市役所 教育委員会 教育部 学務課

電話：0476-33-4704 (直通)

参考資料

最初に、参考資料として「印西市学校適正規模・適正配置基本方針（概要）」と「持続可能な学校数のシミュレーションについて」を掲載いたします。（※アンケートは6ページからはじまります。）

参考資料 印西市学校適正規模・適正配置基本方針（概要）

※資料中、(2) 児童生徒数の推移、(4) 学校規模の状況及び(7) 学校適正配置の優先度については、令和4年5月1日現在の状況により記載しています。



(1) 基本方針策定の趣旨

印西市では、少子化の進展等により児童生徒数が減少している地域と、宅地開発等により児童生徒数が増加している地域が混在しており、学校の小規模化と大規模化が同時に進行していることから、学校の小規模化・大規模化によって生じる教育指導面・学校運営面での諸課題を解消し、より良い教育環境の整備と教育の質の向上を図るため、平成28年10月に学校適正規模及び適正配置の基本的な考え方や実施方策などを定めた「印西市学校適正規模・適正配置基本方針」（以下「基本方針」という。）を策定しました。その後、学校規模及び配置の適正化の進捗や市内小学校及び中学校の状況の変化等を踏まえ、各学校の児童生徒数及び学級数の現状と推移等を最新データに修正し、また、新たに学校適正配置の検討対象校に該当する学校の学校適正配置シミュレーションの検討等を行い、令和3年6月に基本方針の改訂版を策定しました。

基本方針の策定後、国においては学校教育法の一部改正により小中一貫教育を目的とした義務教育学校が平成28年度から制度化され、また、小学校の学級編制の標準について、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の一部改正により、令和3年度から令和7年度にかけて、第2学年から第6学年まで35人に段階的に引き下げられることとなりました。また、本市においては、学校施設の長期利用を図るため、印西市公共施設等総合管理計画（平成28年度）等に関連した印西市学校施設長寿命化計画（令和2年度）を策定し、改修や建替えの考え方、コストの平準化などを示したところです。このように、基本方針策定時から現在に至るまで、学校を取り巻く環境が大きく変化している中で、より良い教育環境の整備と教育の質の向上を図るためには、基本方針の抜本的な見直し等を行い、新たに第二次印西市学校適正規模・適正配置基本方針を策定し、対応していく必要があると考えます。



(2) 児童生徒数の推移

小学校

(単位：人)

Table with 18 columns (Year, Area, Student Count) and 2 rows (R4, R10).

中学校

(単位：人)

Table with 10 columns (Year, Area, Student Count) and 2 rows (R4, R10).

※児童生徒数は通常学級で整理しています。



(3) 学校適正規模の区分

教育指導面や学校運営面の観点から、本市における学校適正規模の区分を次のとおりとします。

小学校

区分	通常学級数	状況	対応
過小	5以下	複式学級や欠学年を有する。また、クラス替えができない。	適正規模化を実施する。
小規模校	6	クラス替えができない。	適正規模化を検討する。
準適正規模校	7～11	クラス替えができない学年がある。	児童数の推移を注視する。
適正規模校	12～24	クラス替えができる。	
大規模校	25以上	施設利用面から教育活動に支障が生じる場合がある。	児童数の推移を注視し、適正規模化を検討する。

※複式学級：2つ以上の学年で構成される学級（担任は1人）

中学校

区分	通常学級数	状況	対応
過小	3以下	クラス替えができない。また、専任の教科担任を配置できない教科がある。	適正規模化を実施する。
小規模校	4～5	クラス替えができない学年がある。また、専任の教科担任を配置できない教科がある。	適正規模化を検討する。
準適正規模校	6～11	クラス替えは可能であるが、専任の教科担任を配置できない教科がある。	生徒数の推移を注視する。
適正規模校	12～24	クラス替えが可能で、専任の教科担任を配置できる。	
大規模校	25以上	施設利用面から教育活動に支障が生じる場合がある。	生徒数の推移を注視し、適正規模化を検討する。



(4) 学校規模の状況

市内の小学校18校、中学校9校を学校適正規模の区分により学校規模別に分類すると、下表のとおりとなります。

小学校

年度	区分	小規模校				
		過小	小規模校		準適正規模校	適正規模校
	通常学級数	5学級以下	6学級	7～11学級	12～24学級	25学級以上
令和4年度	現状 246学級	船穂小(5)①	六合小(6) 本笠小(6) 平賀小(6) 小林北小(6) 大森小(6)	木下小(8) 小林小(9) 原山小(11) 高花小(11)	いには野小(13) 滝野小(15) 木刈小(18) 内野小(19) 西の原小(19) 牧の原小(24)	原小(32) 小倉台小(32)
令和10年度	推計 273学級		平賀小(6) 六合小(6) 船穂小(6) 小林北小(6) 本笠小(6) 原山小(6)	大森小(7) 木下小(8) 小林小(10) 高花小(11) いには野小(11)	木刈小(13) 滝野小(22) 内野小(22) 西の原小(24)	小倉台小(33) 牧の原小(36) 原小(40)

中学校

年度	区分	小規模校				
		過小	小規模校		準適正規模校	適正規模校
	通常学級数	3学級以下	4～5学級	6～11学級	12～24学級	25学級以上
令和4年度	現状 90学級		本笠中(2)	小林中(6) 船穂中(6) 印西中(8) 原山中(8) 印旛中(10) 滝野中(11)	西の原中(18) 木刈中(21)	
令和10年度	推計 121学級		本笠中(3)	船穂中(6) 印西中(6) 小林中(6) 印旛中(9)	原山中(14) 滝野中(19)	木刈中(26) 西の原中(32)

※()内の数値は通常学級数、○内の数字は複式学級数を示しています。
 ※学校名は各年度で学級数が少ない順に整理し、同数の場合は児童生徒数が少ない順に記載しています。
 ※令和10年度の学級数は学区外就学者数を加味していません。



(5) 学校適正配置の必要性

本市がめざす学校教育の基本理念「だれもが輝き ともにはばたく いんざいの学び」を実現するためには、学校の小規模化・大規模化によって生じる教育指導面・学校運営面での諸課題を解消し、子どもたちの未来に向けより良い教育環境を創造していくことが重要です。
そのためには、適正な学校規模に基づく適正な配置を進めていくことが必要と考えます。



(6) 学校適正配置の視点

学校適正配置は、以下の視点により進めることとします。

① 教育理念の実現

本市がめざす学校教育の基本理念「だれもが輝き ともにはばたく いんざいの学び」を実現するための取り組みとして、学校適正配置を行います。

② 学校規模の適正化

学校の小規模化・大規模化によって生じる課題を解消し、子どもたちのより良い教育環境の整備と教育の質の向上をめざした学校適正配置を行います。

③ 通学距離と通学時間の配慮

通学が児童生徒にとって過度な負担にならないよう、通学距離については、国の基準に準じて、小学校でおおむね 4 km以内、中学校でおおむね 6 km以内を原則とします。

また、通学時間については、交通機関の利用を含め、おおむね 1 時間以内を原則とします。

④ 地域特性への配慮

学校が持つ多様な機能に留意し、地域の歴史や学校との社会的なつながりに配慮した学校適正配置を行います。



(7) 学校適正配置の優先度

学校適正配置の優先度を下表のとおり分類し、段階的な推進を図ることとします。

分類	区分	学校の状況		該当校	優先度
①-A	小規模校(過小)	複式学級・欠学年を有する小学校及び単学級の中学校		船穂小・本埜中	高 低
①-B	大規模校	学級数が25以上となるが見込まれる小・中学校		小倉台小・原小・ 牧の原小・西の原小 木刈中・西の原中	
②	小規模校 (過小以外)	1 学年	全ての学年が18人未満の小学校	六合小・平賀小	
③		1 学級	一部の学年が18人未満の小学校	本埜小・小林北小	
④		で	全ての学年が18人以上の小学校	大森小・原山小	

※該当校は、令和5年度から令和10年度までに、学校の状況欄の状態になることが見込まれる学校を記載しています。

なお、西の原小学校は令和7年度に通常学級数が25学級になる見込みです。

※小規模校(過小以外)の1学級の児童数は、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に基づき、1学級当たりの最少人数18人を基準としています。



(8) 学校適正配置の検討対象校

基本方針では、学校適正配置の優先度の高い小規模校(過小)2校(船穂小・本埜中)及び大規模校6校(小倉台小・原小・牧の原小・西の原小・木刈中・西の原中)を学校適正配置の検討対象校とします。



(9) 学校適正配置の実施方策

◇ 小規模校の対応 ◇

複式学級や欠学年を有する小学校及び単学級の中学校は、隣接校との統合を実施し、単学級の小学校及びクラス替えができない学年を有する中学校について、その状況が将来的にも継続すると見込まれる場合は、隣接校との統合を検討します。

なお、統合する場合の存続校は、原則として児童生徒数の多い学校とし、学校施設は存続校の校地・校舎を可能な限り利用することとします。

また、通学距離等の観点から必要に応じて通学区域の見直しを検討します。

◎基本方針では上記の対応としていますが、小規模校（過小）2校（船穂小・本埜中）については、令和5年度から小規模特認校制度を導入することにより、対応していく予定です。

※小規模特認校制度：従来の通学区域は残したままで、特定の小規模の学校において、通学区域に関係なく、当該市町村内のどこからでも就学を認める制度

◇ 大規模校の対応 ◇

適正規模を超える学校について、短期的には学校施設の増改築で対応することとし、その状況が将来的にも継続すると見込まれる場合は、隣接校の児童生徒数や施設の状況等を考慮しつつ、通学区域の見直しを検討します。

なお、これら必要な対策を講じても適正規模が安定的に確保できないと判断した場合は、学校の分離・新設を検討します。



(10) 学校適正配置を進めるにあたっての留意事項

(1) 児童生徒への配慮

- ・学校見学会の実施
- ・事前交流活動（合同授業、合同行事）
- ・学校問題対策指導員などの派遣
- ・統合に伴う教員の配置
- ・意識調査等の実施

(2) 通学への配慮

- ・通学路の安全マップの作成
- ・通学路の安全対策
- ・学区拡大に伴うスクールバス運行の検討

(3) 地域への配慮

- ・保護者及び地域住民を対象とした説明会の実施
- ・ホームページ等での周知

(4) 統合後の学校施設等

- ・庁内における跡地等活用、処分方法の検討
- ・地域住民を対象とした説明会等の実施

(参考)「持続可能な学校数のシミュレーション」について

1. 諸計画から見た学校施設の維持管理に要する経費について

印西市公共施設等総合管理計画によると、今後の公共施設の更新等（改修・建替え）に見込まれる「1年当たりの更新等費用」は約19.9億円で、公共施設の更新等に充当可能と見込める「1年当たりの財源」は約13.2億円となっています。つまり、今後、30年間にわたり、毎年度約6.7億円程度の財源不足が発生する見込みとなっています。

さらには、印西市公共施設等総合管理計画の後に策定された印西市学校施設長寿命化計画及び印西市公共施設長寿命化計画では、今後の「1年当たりの更新等費用」について、学校施設で約16.4億円、その他の公共施設で約6.6億円が見込まれており、合計約23億円に膨らんでいます。

充当可能見込み財源（約13.2億円）を今後の「1年当たりの更新等費用」の比率で按分すると、1年間に充てられる財源は、**学校施設が約9.4億円**（71.3%）、その他の公共施設が約3.8億円（28.7%）となり、この比率で今後の30年間の財源を算出すると、**学校施設が約282億円**、その他の公共施設が約114億円となります。

参考資料

■ 充当可能見込み財源と公共施設の更新等費用の関係

13.2億円^{※1}－23億円(16.4億円^{※2}+6.6億円^{※3})＝▲9.8億円

※1 1年当たりの充当可能見込み財源 ※印西市公共施設等総合管理計画

※2 1年当たりの更新等費用(学校施設) ※印西市学校施設長寿命化計画

※3 1年当たりの更新等費用(その他の公共施設) ※印西市公共施設長寿命化計画

前記のことから、現在の学校施設及び他の公共施設の更新等に必要と見込まれる費用が、**毎年度約9.8億円の財源不足**となるため、実施できないということになり、今後、充実した教育環境を持続的に維持できなくなる可能性もあると予想され、特に、大規模改修の時期となる築後40年を経過する学校施設が増えてくる令和12年度を見据え、学校の適正配置を速やかに推進する必要があると考えます。

2. 維持可能な学校数について

市の財政状況によりますが、今後、継続的に大幅な収入の増加がない限り、既存の学校施設を全て維持管理していくことは不可能であると考えますので、今後、早い期間に学校統合等を実施して、学校施設を減少させていかなければならないということになります。

印西市学校施設長寿命化計画では、公共施設適正配置実施方針(平成31年2月)において、「当面継続」としていない船穂小学校、本埜中学校及び瀬戸幼稚園を除き、小学校17校、中学校8校、幼稚園1園の全てを保全していくには、年平均で約16.4億円、計画期間である令和3年度から令和32年度までの30年間の合計で約493億円としてコストを見通しています。

印西市が学校施設の維持管理に充当可能見込み財源は、前述のとおり、**30年間で約282億円、年平均では約9.4億円**と予測しており、学校規模により延べ床面積や構造等の違いはありますが、イメージし易いように、全て同規模の施設と仮定して試算しますと、1校当たりの更新等費用は以下ようになります。

なお、前提条件として、印西市学校施設長寿命化計画からもとの幼稚園を除き、今後、小規模特認校として存続する予定の船穂小学校及び本埜中学校を加えて、試算することとします。

■ 1年間の更新等費用

16.4億円－0.1億円^{※4}+0.2億円^{※5}+0.3億円^{※6}≒16.8億円

■ 30年間の更新等費用

16.8億円×30年≒504億円

■ 1校当たりの更新等費用

504億円÷27校≒18.6億円

■ 充当可能見込み財源の中で維持できる学校数

282億円÷18.6億円≒15.1校

※4 もとの幼稚園の更新等費用 約4.6億円(30年間)÷30年≒0.1億円

※5 船穂小学校の更新等費用 約7.3億円(30年間)÷30年≒0.2億円

※6 本埜中学校の更新等費用 約1.1億円(30年間)÷30年≒0.3億円

このことから、学校施設の維持管理に充当可能見込み財源(年平均約9.4億円)で維持できる学校数は15校程度となり、現在の学校を15～16校まで減らすことができなければ、持続的な維持ができないということになりますが、現実的には、通学路の安全性、通学距離及び通学時間の要素等の地域性を考慮した適正配置としなければならないと考えます。

参考資料をお手元に残したい場合は、右の点線に沿ってハサミで切り取ってください。切り取った場合は、6ページ以降のアンケート調査票部分のみご返送ください。必要なければ、回答後、切り取らずにそのままご返送ください。

●アンケートはここからはじまります。

1 あなた自身のことについて

問1 あなたの年齢を教えてください。(〇は1つ)

1	18～29歳	2	30～39歳
3	40～49歳	4	50～59歳
5	60～69歳	6	70歳以上

問2 あなたがお住まいの地区の中学校(中学校区)を教えてください。わからない場合は最も近い中学校に〇を付けてください。(〇は数字に1つ)

	中学校区	お住まいの住所(大字・丁目)
1	印西中学校	竹袋、別所、宗甫、木下、木下東1～4丁目、木下南1～2丁目、大森、鹿黒、亀成、浅間前、相嶋、鹿黒南1～5丁目の全区域と、平岡、発作、和泉の一部区域
2	船穂中学校	武西、戸神、船尾、松崎、松崎台1～2丁目、結縁寺、多々羅田、高花1～6丁目の全区域と、草深の一部区域
3	木刈中学校	木刈1～7丁目、牧の木戸1丁目、大塚3丁目、浦部、白幡、浦幡新田、小倉、浦部村新田、高西新田、小倉台1～4丁目、武西学園台1丁目、武西学園台3丁目、戸神台2丁目、中央北1～3丁目、中央南2丁目(※2番地を除く)の全区域と、和泉、発作の一部区域
4	小林中学校	小林、小林浅間1～3丁目、小林大門下1～3丁目、小林北1～6丁目の全区域と平岡の一部区域
5	原山中学校	内野1～3丁目、戸神台1丁目、中央南1丁目、原山1～3丁目、泉の全区域と、中央南二丁目2番地の区域、草深の一部区域
6	西の原中学校	西の原1～4丁目、原1～4丁目、東の原1～3丁目、牧の原2～3丁目、牧の台2～3丁目の全区域と草深の一部区域
7	印旛中学校	瀬戸、山田、吉高、萩原、松虫、平賀、平賀学園台1～3丁目、美瀬1～2丁目、舞姫1～3丁目、若萩1～4丁目、岩戸、師戸、鎌苅、大廻、造谷、吉田、つくりや台1～2丁目の全区域と、惣深新田飛地の一部区域
8	本埜中学校	中根、荒野、角田、滝、物木、笠神、行徳、川向、下曽根、中、萩埜、桜野、押付、佐野屋、和泉屋、甚兵衛、松木、立埜原、中田切、下井、長門屋、酒直ト杭、安食ト杭、将監、本埜小林、みどり台1～3丁目の全区域と、竜腹寺、惣深新田飛地の一部区域
9	滝野中学校	滝野1～7丁目、牧の原1丁目、牧の原4～6丁目、牧の台1丁目の全区域と、草深、竜腹寺の一部区域
10	わからない	

問3 あなたがこれまで印西市にお住まいの期間を教えてください。(〇は1つ)

1	1年未満	2	1年以上5年未満
3	5年以上10年未満	4	10年以上20年未満
5	20年以上30年未満	6	30年以上

問4 あなたの世帯に、中学生以下のお子様はいますか。(〇はいくつでも)

1	小学校入学前の子供がいる	2	小学生の子供がいる
3	中学生の子供がいる	4	いない

2 望ましい通学時間・通学方法について

問5 小学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。(○は1つ)
※国では、通学時間について、「おおむね1時間以内」を原則としています。

- | | | |
|---------|-----------|---------|
| 1 15分以内 | 2 30分以内 | 3 45分以内 |
| 4 60分以内 | 5 時間は問わない | |

問6 小学生の通学方法として、どのような方法が最も望ましいと思われませんか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1 徒歩 | 2 自転車 | 3 公共交通機関 |
| 4 スクールバス | 5 その他 () | |

問7 問6で答えられた方法が最も望ましいと思われる理由を1つお答えください。(○は1つ)

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1 学校までの通学距離が近いから | 2 通学路が安全であるから |
| 3 子供の体力がつくから | 4 学校までの通学距離が遠いから |
| 5 通学路に危険な箇所があるから | 6 子供の家庭学習の時間を増やすことができるから |
| 7 その他 () | |

問8 中学生の片道の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。(○は1つ)
※国では、通学時間について、「おおむね1時間以内」を原則としています。

- | | | |
|---------|-----------|---------|
| 1 15分以内 | 2 30分以内 | 3 45分以内 |
| 4 60分以内 | 5 時間は問わない | |

問9 中学生の通学方法として、どのような方法が最も望ましいと思われませんか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1 徒歩 | 2 自転車 | 3 公共交通機関 |
| 4 スクールバス | 5 その他 () | |

問10 問9で答えられた方法が最も望ましいと思われる理由を1つお答えください。(○は1つ)

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1 学校までの通学距離が近いから | 2 通学路が安全であるから |
| 3 子供の体力がつくから | 4 学校までの通学距離が遠いから |
| 5 通学路に危険な箇所があるから | 6 子供の家庭学習の時間を増やすことができるから |
| 7 その他 () | |

3 学校の適正規模、適正配置等について

問11 小規模校について、印西市が今後どのようにすることが望ましいと思われますか。(〇は1つ)

- 1 複式学級^{※1}になっても学校を存続させる
- 2 複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、小規模特認校制度^{※2}を導入して、学校を存続させる
- 3 複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、適正な学校規模や学級規模が確保できるよう、隣接校との統合を進める
- 4 複式学級になったり、複式学級規模に近づいた場合には、近隣の小学校・中学校と統合して義務教育学校^{※3}を新設する
- 5 その他 ()

※1 複式学級:2つ以上の学年で構成される学級(担任が1人)

※2 小規模特認校制度:従来の通学区域は残したままで、特定の小規模の学校において、通学区域に関係なく、当該市町村内のどこからでも就学を認める制度

※3 義務教育学校:小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校

問12 問11で1または2の「存続」と答えられた方は、そう思われる理由をお答えください。(〇は2つまで)

- 1 学校は、地域と深く結びつき、地域活動の拠点となる施設であるから
- 2 義務教育においては、子供は地域の中で育てることが重要であるから
- 3 子供の地域への愛着を育むべきであるから
- 4 母校がなくなり、地域に子供の姿がみえなくなるのは、寂しいから
- 5 少人数学級は、ひとりひとりに目が行き届いた、きめ細かな教育ができるから
- 6 その他 ()

問13 問11で3または4の「統合」と答えられた方は、そう思われる理由をお答えください。(〇は2つまで)

- 1 複式学級の解消やクラス替えができるから
- 2 多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから
- 3 適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから
- 4 多くのクラブ活動や部活動の中から子供のやりたい種目を選ぶことができるから
- 5 学校施設が減少することにより、教育予算が効率的に活用できるから
- 6 その他 ()

問14 問11で3または4の「統合」と答えられた方にお聞きします。学校を統合する場合に、特に、配慮すべきだと思われる点はどんなことですか。(〇は2つまで)

- 1 学校見学会の実施や児童・生徒同士の事前交流活動(合同授業、合同行事)などの教育活動
- 2 統合に伴う教員の配置
- 3 児童・生徒の通学(時間・距離・方法)とその安全性
- 4 保護者、地域住民との十分な協議
- 5 学校の再編成で校舎などが空き施設になった場合の有効活用
- 6 ニュータウン地域、田園地域など環境が異なる地域の地域性
- 7 その他 ()

アンケート調査票

問15 大規模校について、印西市が今後どのようにすることが望ましいと思われますか。(○は1つ)

- 1 可能な限り学校施設の増改築で対応する
- 2 学校施設の増改築を行わず、既存の学校施設の教室数不足を見据え、通学区域を変更し、変更した区域の児童・生徒は転校していただくことで対応する
- 3 その他 ()

問16 あなたは過去1年間に市立小・中学校にどのくらいの頻度で行きましたか。(○は1つ)

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 半年に1回以上
- 4 1回も行っていない

→問17 問16で「1～3」と答えられた方にお聞きします。あなたは市立小・中学校にどのような理由で行きましたか。(○はいくつでも)

- 1 子供の見送りやお迎え 2 保護者としての活動
- 3 通学路の見守り 4 教育活動や放課後活動などのボランティア
- 5 学校行事 6 選挙での投票
- 7 災害時(大雨、台風、地震)における避難 8 避難訓練などの防災関係活動
- 9 体育館や校庭などを利用した活動(例:スポーツ活動、文化活動など)
- 10 その他 ()

問18 あなたは、コロナ禍前(令和2年より前)は1年間に市立小・中学校にどのくらいの頻度で行っていましたか。(○は1つ)

- 1 週1回以上 2 月1回以上 3 半年に1回以上
- 4 1回も行っていない

→問19 問18で「1～3」と答えられた方にお聞きします。あなたは市立小・中学校にどのような理由で行きましたか。(○はいくつでも)

- 1 子供の見送りやお迎え 2 保護者としての活動
- 3 通学路の見守り 4 教育活動や放課後活動などのボランティア
- 5 学校行事 6 選挙での投票
- 7 災害時(大雨、台風、地震)における避難 8 避難訓練などの防災関係活動
- 9 体育館や校庭などを利用した活動(例:スポーツ活動、文化活動など)
- 10 その他 ()

問20 市立小・中学校がこれまで地域で担ってきた役割の中で、特に重要だと考えるものを教えてください。(○は2つまで)

1 児童・生徒の学びの場	2 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所
3 地域防災の拠点	4 選挙の投票所
5 地域の活動・交流の拠点	6 スポーツ活動の拠点
7 文化活動の拠点	8 生涯学習の拠点
9 子育て支援の拠点	10 高齢者福祉の拠点
11 障がい者福祉の拠点	
12 その他 ()	
13 特になし (地域における活動拠点としての認識はない)	

問21 あなたは適正な学校規模に基づく適正な配置を進めていくことが必要だと思いますか。(○は1つ)

1 そう思う	2 少し思う	3 どちらでもない
4 あまり思わない	5 そう思わない	

問22 学校の適正規模・適正配置について、ご意見をご自由にお書きください。(特になしの場合、記入は不要です。)

アンケートは以上です。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて 7月4日(月) までにご投函ください。



印西市学校適正配置等に関する市民アンケート調査
報告書

令和4年10月

発行 印西市教育委員会教育部学務課
〒270-1396 千葉県印西市大森 2364-2
電話 0476-33-4704(直通)
